

履修要項

2022

外国語学部



文京学院大学



『履修要項』を読む前に

学部長 かのうら ひろし
教授 鵜浦 裕

新入生、在学生の皆さん、いよいよ新年度が始まります。気を引き締めていきましょう。

ガイダンスに欠かせない『履修要項』

新年度のスタートはまさにガイダンスからです。なかでも履修に関するガイダンスが重要です。そしてそれに欠かせないものがこの『履修要項』です。卒業に必要な科目、単位数、履修の規則に関する情報が満載されています。上手に使う、賢い履修を心がけましょう。

1年間は前期と後期の2学期制です。ほとんどの科目は前期か後期のいずれかに配置され、それを履修し合格と評価されると所定の単位が付与されます。たいていの科目は1～2単位です。

4年間の全体計画

4年時は就職活動に充てるため、3年時までには大方の単位をとっておくのが望ましいかもしれません。卒業に必要な単位を128単位とすると、1～3年までの3年間では、1年間に平均40単位分の科目、従って1学期に平均20単位分の科目を履修するペースになります。「飛び級+大学院進学」（学部卒業3年+大学院修了2年＝計5年）を目指す人、教職免許の取得を目指す人には、それぞれ特定の履修計画が必要です。カリキュラム・マップを利用して、4年間の履修を明確にイメージしましょう。

長期留学、短期語学研修、海外フィールドワーク

留学などは語学力を高めるだけでなく異文化理解としても貴重な体験となります。1年間の長期留学を含めて、4年間で卒業することもできますので、お勧めします。ただしその場合には、4年間のどこに長期留学を入れるか、留学前の単位の取り方、TOEICやTOEFLなどの英語資格試験において要求される英語力の達成など、綿密な計画が必要です。

他にも留学特待生制度、短期語学研修、海外フィールドワークがあります。いずれについても、ガイダンスや『履修要項』などから情報を集めましょう。疑問があれば、GSI オフィスを訪ねましょう。

科目はグループ化されている

第一に、科目はグループ化され、それぞれのグループから取るべき最低単位数が決まっています。

第二に、科目はすべて履修できる学年が決まられています。1～4年の各学年で取り始めることができる科目がある程度決められているので、各学年で取りこぼした科目は積み残されますから、翌年には、その分だけ履修科目が増えて大変になります。そうならないよう注意しましょう。

第三に、科目は必修と選択にわかれています。必修科目については時間割もクラスも決まっています、必ず履修しなければなりません。選択科目はそのグループの中から好きなものを選ぶことができます。

特別な科目

科目はすべて重要ですが、その位置づけがほかと異なるものもあります。

例えば、『人間共生論』は建学の精神（「自立と共生」）や校訓（「誠実、勤勉、仁愛」）の意義を理解する上で極めて大切です。本学での修学を選んだ自分がどのような人間に成長すべきかを教えてくれます。それらの意義を抽象的な名詞の羅列に終わらせてはいけません。また他のすべての科目の教育目標を統一的に示す、本学部のディプロマポリシー（学士号授与の方針）は建学の精神（「自立と共生」）から導き出されています。その意味で、『人間共生論』もすべての科目の大元にあると言えます。

また1年で学ぶ『初年次教育』は大学とは何か、大学での学習の方法、レポートの書き方、インターネットや図書館の利用方法をも学ぶ、おろそかにできない科目です。3、4年の少人数制のゼミは卒業研究を仕上げる科目です。

他にも就職活動に役立つキャリア科目や国内・国外インターンシップがあります。

科目の履修や科目の登録に関する期限や規則、評価の基準を知ろう

科目を履修し単位をとるためには、履修登録を済ませる必要があります。登録には期限があります。

また科目の履修上の規則として、欠席や遅刻の回数に制限があります。公欠、学期末の試験やレポート、各授業における試験の種類や回数、成績のつけ方については、科目ごとに違うかもしれません。『履修要項』に加えて、シラバスを読み、正確な情報を集めてください。

時間割をつくって第一週に臨もう

さて、新学期の第一週は大変です。それを乗り切るためには、時間割作成を中心とした周到な準備が必要です。授業の開始時間、教室の場所、教員の氏名、単位数などを書き込んだマイ時間割をつくり、教室の位置を確認し、キャンパスのどこにいても、目的地である教室に直行できるよう、キャンパス内の土地勘をもつことも大切です。

それではガイダンスにお出かけください。順調なスタートをお祈りします。

2022年度（令和4年度）学年暦

		4月		5月		6月		7月		8月		9月	
1日	金	ガイダンス	日		水⑦		金⑫		月	前期定期試験	木	成績発表	
2日	土	入学式 ガイダンス	月④		木⑦		土	1年生保護者会	火	前期定期試験	金		
3日	日		火	憲法記念日	金⑧		日		水		土		
4日	月	ガイダンス	水	みどりの日	土		月⑬		木		日		
5日	火	ガイダンス	木	こどもの日	日		火⑫		金		月		
6日	水	ガイダンス	金③		月⑨		水⑫		土		火		
7日	木	ガイダンス	土④	金曜日振替授業	火⑧		木⑫		日		水		
8日	金	ガイダンス	日		水⑧		金⑬		月		木		
9日	土	ガイダンス	月⑤		木⑧		土		火	夏期一斉休業 (~8/15)	金		
10日	日		火④		金⑨		日		水		土		
11日	月①	授業開始日	水④		土		月⑭		木	山の日	日		
12日	火①		木④		日		火⑬		金		月		
13日	水①		金⑤		月⑩		水⑬		土		火		
14日	木①		土		火⑨		木⑬		日		水	追・再試験	
15日	金①		日		水⑨		金⑭		月		木	追・再試験	
16日	土		月⑥		木⑨		土		火		金		
17日	日		火⑤		金⑩		日		水		土		
18日	月②		水⑤		土		月	海の日	木		日		
19日	火②		木⑤		日		火⑭		金		月	敬老の日	
20日	水②		金⑥		月⑪		水⑭		土		火①	後期授業開始 追・再試験結果発表	
21日	木②		土	30kmウォーキング	火⑩		木⑭		日		水①		
22日	金②		日		水⑩		金⑮		月		木①		
23日	土		月⑦		木⑩		土		火		金①	秋分の日 授業実施	
24日	日		火⑥		金⑪		日		水		土		
25日	月③		水⑥		土		月⑮		木		日		
26日	火③		木⑥		日		火⑮		金		月①		
27日	水③		金⑦		月⑫		水⑮		土		火②		
28日	木③		土		火⑪		木⑮	前期授業最終日	日		水②		
29日	金	昭和の日	日		水⑪		金	前期定期試験	月	国際連携教育 プログラム開講式	木②		
30日	土		月⑧		木⑪		土	前期定期試験	火		金②		
31日			火⑦				日		水				

※曜日の横の数字は授業回数です。

2022年度（令和4年度）学年暦

		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
1日	土			火 ⑦		木 ⑩		日	元日	水		水	
2日	日			水 ⑦		金 ⑪		月	振替休日	木		木	
3日	月 ②			木	文化の日	土		火		金		金	
4日	火 ③			金 ⑥		日		水		土		土	
5日	水 ③			土 ⑦	金曜日振替授業	月 ⑪		木		日		日	
6日	木 ③			日		火 ⑫		金		月		月	
7日	金	文京祭準備日 (全学休講)		月 ⑦		水 ⑪		土		火		火	
8日	土	文京祭		火 ⑧		木 ⑪		日		水		水	
9日	日	文京祭		水 ⑧		金 ⑫		月	成人の日	木		木	
10日	月 ③	スポーツの日		木 ⑦		土		火 ⑮	授業再開	金		金	
11日	火 ④			金 ⑧		日		水 ⑭		土	建国記念の日	土	学位記授与式
12日	水 ④			土		月 ⑫		木 ⑭		日		日	
13日	木 ④			日		火 ⑬		金	大学入学共通テスト 準備日(全学休講)	月		月	
14日	金 ③			月 ⑧		水 ⑫		土	大学入学共通テスト	火	成績発表	火	
15日	土			火 ⑨		木 ⑫		日	大学入学共通テスト	水		水	
16日	日			水 ⑨		金 ⑬		月 ⑭		木		木	
17日	月 ④			木 ⑧		土		火	補講日	金	追・再試験	金	
18日	火 ⑤			金 ⑨		日		水 ⑮		土		土	
19日	水 ⑤			土		月 ⑬		木 ⑮		日		日	
20日	木 ⑤			日		火 ⑭		金 ⑮		月	追・再試験	月	
21日	金 ④			月 ⑨		水 ⑬		土		火		火	春分の日
22日	土			火 ⑩		木 ⑬		日		水	追・再試験 結果発表	水	
23日	日	創立記念日		水	勤労感謝の日	金 ⑭	年内授業最終日	月 ⑮	後期授業最終日	木	天皇誕生日	木	
24日	月 ⑤			木 ⑨		土		火	後期定期試験	金		金	
25日	火 ⑥			金 ⑩		日		水	後期定期試験	土		土	
26日	水 ⑥			土		月		木	後期定期試験	日		日	
27日	木 ⑥			日		火		金	後期定期試験	月		月	
28日	金 ⑤			月 ⑩		水		土		火		火	
29日	土			火 ⑪		木		日				水	
30日	日			水 ⑩		金		月				木	
31日	月 ⑥					土		火				金	

※曜日の横の数字は授業回数です。

目 次

外国語学部 ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー	6
文京学院大学 アセスメント・ポリシー	7
単位と学位(学士) について	8
学習上の注意	8
シラバス (講義要綱) について	12
履修手続きの流れ	14
成績評価について	16
学籍について	20
インターンシップ	23
海外フィールドワーク	24
高い英語力を持つ学生に対する英語コミュニケーション科目単位認定について	25
他学部・他大学の単位について	26
留学制度による単位申請	28
履修の手引 (2022 年度入学者用)	31
履修の手引 (2021 年度入学者用)	59
履修の手引 (2019 ~ 2020 年度入学者用)	79
外国語学部履修規程	101
外国語学部・留学特待生プログラム規程	107
外国語学部・留学特待生プログラム特待生選抜についての内規	110
文京学院大学副専攻規程	111
飛び級による早期卒業に関する規程	113
文京学院大学卒業延期制度に関する規則	115
教員免許状の取得について	117

外国語学部 ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

外国語学部では、幅広い教養と英語による実践的コミュニケーション能力を基盤として、国際ビジネス、国際協力、国際文化、英語教育の分野の専門的な知識・能力を身につけ、グローバル社会における自立と共生を実現できる人間の育成をはかることを教育目標とする。したがって、大学のディプロマ・ポリシーを踏まえ、以下の能力を身につけた者に「学士（コミュニケーション）」の学位を授与する方針である。

1. 国際社会で活躍するうえで必要な英語コミュニケーション能力を有している。
2. 国際社会で活躍するうえで必要な幅広い教養と必要十分な IT 活用能力、第二外国語力を有している。
3. 文化・社会の多様性を理解し、異なる文化的背景を持つ人々と協働する素養・主体性を有している。
4. 国際社会の発展と共生を目指すため、下記の専門分野の知識や能力・志向を有している。

（1）国際ビジネスコミュニケーション専攻

① 国際ビジネスコース

国際ビジネスに積極的に従事できる専門的知識と課題発見能力および問題解決に努力できる自律的な姿勢

（2）国際教養コミュニケーション専攻

① 国際文化コース

国際社会や文化に関する諸問題を的確に把握し、歴史的・政治的・社会的・文化的・言語等の多面的な視点から自律的に分析・考察する力

② 英語教育コース

初等中等教育における英語教育に必要な専門的知識とコミュニケーション能力およびその継承発展を自律的に行う姿勢

③ 国際協力コース

国際協力に積極的に従事できる専門的知識と課題発見能力および問題解決に努力できる自律的な姿勢

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

外国語学部では、幅広い教養と英語による実践的コミュニケーション能力を基盤として、国際ビジネス、国際協力、国際文化、英語教育の分野の専門的な知識・能力を身につけ、グローバル社会における自立と共生を実現できる人間の育成をはかるために、講義、演習、海外留学・語学研修、ゼミナール・卒業研究を中心としたカリキュラムおよびポリシーを設ける。

1. 大学共通科目

大学共通科目「人間共生論」を、初年次に設置することにより、全ての入学者に建学の精神である「自立と共生」を涵養する。

2. 初年次教育・基礎教育

初年次セミナーを通年設置することで、少人数クラスによるレポート作成能力やグループディスカッション能力等のアカデミックスキルの修得をはかる。これにより、大学で学ぶ専門科目や卒業研究に必要な基礎的能力を修得する。

社会人基礎力に直結する知識・技能の修得のため、初年次必修としてコミュニケーション概論や情報処理の基礎理論・スキルを学ぶ。

3. 外国語教育

1～4年次に、英語に関して厳密に体系化された必修カリキュラムを配置し、グローバル社会への対応に必要な国際共通語としての英語によるコミュニケーション能力の育成をはかる。同時に、第二外国語能力（フランス語、中国語、韓国語、スペイン語）の修得もはかり、国際化への鍵となる世界の多様性についての理解を深める。

4. 教養教育

国際社会の理解および専門分野の導入に必要な教養科目を1年次より配当することで、4年間を通して幅広い教養の学修をはかる。更に、国際ビジネス、国際協力、国際文化、英語教育からなる4つのコースに必要な教養科目を推奨し、履修モデルを明確にすることで、専門教育へのスムーズな移行をはかる。

5. 専門教育

3, 4年次の専門教育課程では、各専攻及びコースにおいて専門的な知識・理解力並びに汎用的技能、積極的な態度・志向性を養う。さらに、ゼミナールおよび卒業研究における調査・分析・研究、論文執筆や作品制作を通じて総合的な資質・能力を培う。

6. キャリア教育

キャリア関連科目として、キャリアプラン・キャリアデザイン科目を1～3年次まで配当することにより、適確なキャリアデザイン能力の修得をはかる。

7. フィールドワーク・インターンシップ・留学

海外フィールドワーク、企業インターンシップ、学校インターンシップ等を通して、実践の場で主体的に他者との協働をはかる。また、充実した海外留学制度・語学研修制度および単位認定制度を設け、体験を重視したカリキュラムを提供する。

文京学院大学 アセスメント・ポリシー

アセスメント・ポリシー（学修成果に対する評価の方針）

本学では、ディプロマ、カリキュラム、アドミッションの3つのポリシーに即して、学修成果を評価する方針を以下のように定めています。

	入学前・入学時	在学中	卒業時
機関レベル (大学全体)	<ul style="list-style-type: none"> ・入学試験 ・調査書の記載内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・休学率 ・退学率 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業率 ・就職率 ・進学率 ・学位授与数
教育課程レベル (学部・学科)	<ul style="list-style-type: none"> ・入学試験 ・入学時アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> ・学修ポートフォリオ ・アセスメントテスト あるいはルーブリック評価 ・GPA ・修得単位数 ・PROG (1・3年次) ・学生満足度調査 (1・3年次) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学修ポートフォリオ ・GPA ・修得単位数 ・資格・免許取得状況 ・卒業時アンケート (学修成果を含む)
科目レベル (個々の授業)	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価 ・授業アンケート 	

*機関レベルでは大学レベルでみた学修成果の達成状況を、教育課程レベルでは学部・学科における学修成果を、科目レベルではシラバスで提示された学修目標に対する科目ごとの学修成果を評価します。

単位と学位(学士)について

本学の卒業要件は、単位と在学年限から成り立っています。すなわち、科目、および科目群ごとに修得しなければならない単位が定められており、本学に4年以上在学して、所定の単位数を修得した学生を卒業とし、学位を授与します。

外国語学部では、「学士（コミュニケーション）」の学位が授与されます。

なお、卒業のために修得しなければならない科目、単位等は本要項に記載されていますので、熟読してください。

学習上の注意

授業時間 授業は90分を1授業時間として行われ、1日6時限まであります。

1時限	9:10～10:40
2時限	10:50～12:20
昼休み	12:20～13:10
3時限	13:10～14:40
4時限	14:50～16:20
5時限	16:30～18:00
6時限	18:10～19:40

出・欠席

- 1) 単位取得のためには各授業とも、授業日数の3分の2以上の出席が必要です。
また、授業実施数の3分の1を超えて欠席した場合は定期試験およびこれに準ずる試験を受けることはできません（失格扱いとなります）。具体的には、前期・後期科目とも6回以上欠席すると失格になります（5回まで欠席できるということではありません）。

なお、英語コミュニケーション科目は出席基準が厳しくなっており、前期・後期科目とも週1回開講される科目は4回以上欠席すると失格になります。週2回開講される科目は、7回以上欠席すると失格になります。

- 2) 授業を欠席した場合には、次回授業の際に直接担当科目の教員へ連絡報告してください（電話連絡は不可）。
- 3) 授業開始後20分までを遅刻とします。20分を過ぎた場合は、証明書のある電車遅延等を除き、欠席扱いとします。20分を過ぎての入室は認められない場合があります（授業担当教員の指示に従ってください）。
- 4) 遅刻3回は欠席1回とします。
- 5) 【公認欠席（以下、公欠という）】

下記のような理由により授業を欠席した場合は、公欠になります。

いずれの場合も証明になる書類と判子を持参し、教務グループ提出用の「公欠届」と欠席授業分の「公欠届」を教務グループに提出してください。確認印をもらった欠席授業分の「公欠届」を授業担当教員へ直接提出してください。公欠は、出・欠席のいずれにも算入しません。

①慶弔事に出席、参列した場合

〈慶事で公欠となる日数〉

本人または（四親等以内）親族が結婚する場合……1日

〈忌引で公欠となる日数〉

・学生の一親等（親・子ども）または、配偶者が死亡した場合……7日間

・学生の二親等（兄弟姉妹・祖父母など）が死亡した場合……3日間

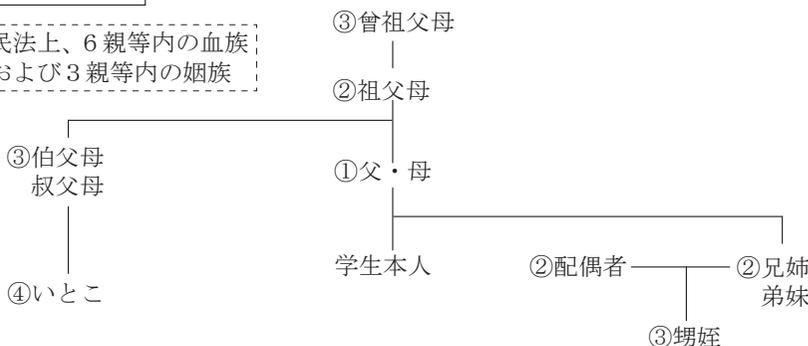
・三親等（おじ、おば、甥、姪、曾祖父母など）が死亡した場合……3日間

・学生の四親等（いとこ、甥姪の子など）が死亡した場合……1日

この場合、いずれの日数も土・日・祝日を含む。なお目的地往復に要する日数を加算することができる。

親族とは

民法上、6親等内の血族
および3親等内の姻族



- ②大学が派遣する研修会、進路相談会等で授業を欠席する場合……参加実日数
- ③感染症に罹患した場合……感染と診断された日より治癒または感染の恐れがなくなると診断されるまでに要した実日数
医療機関の診断書または学校が用意する「罹患証明書」（医療機関に記入してもらおう）を提出してください。
「罹患証明書」の書式はB's LINKでダウンロードができます。

学校保健安全法施行規則第18条に定める「学校において予防すべき感染症」

感染症名	種類	出席停止期間の基準
エボラ出血熱	第一種	治癒するまで
クリミア・コンゴ出血熱	第一種	治癒するまで
痘そう	第一種	治癒するまで
南米出血熱	第一種	治癒するまで
ペスト	第一種	治癒するまで
マールブルグ病	第一種	治癒するまで
ラッサ熱	第一種	治癒するまで
急性灰白髄炎（ポリオ）	第一種	治癒するまで
ジフテリア	第一種	治癒するまで
重症急性呼吸器症候群（病原体がコロナウイルス属SARSウイルスであるもの）	第一種	治癒するまで
鳥インフルエンザ（病原体がインフルエンザウイルスA属インフルエンザウイルスであってその血清型がH5N1であるもの）	第一種	治癒するまで
新型コロナウイルス感染症	第一種	治癒するまで
インフルエンザ（鳥インフルエンザ（H5N1）を除く）	第二種	解熱後2日を経過するまで
百日咳	第二種	特有の咳が消失するまで
麻疹（はしか）	第二種	解熱後3日を経過するまで
流行性耳下腺炎（おたふく風邪）	第二種	耳下腺炎の腫脹が消失するまで
風しん	第二種	発疹が消失するまで
水痘（みずぼうそう）	第二種	全ての発疹が痂皮化するまで
咽頭結膜熱	第二種	症状消退後2日を経過するまで
結核及び髄膜炎菌性髄膜炎	第二種	治療担当医が感染のおそれがないと認めるまで1)
コレラ	第三種	治療担当医が感染のおそれがないと認めるまで2)
細菌性赤痢	第三種	治療担当医が感染のおそれがないと認めるまで3)
腸管出血性大腸菌感染症（O157）	第三種	治療担当医が感染のおそれがないと認めるまで4)
腸チフス	第三種	治療担当医が感染のおそれがないと認めるまで5)
パラチフス	第三種	治療担当医が感染のおそれがないと認めるまで
急性出血性結膜炎	第三種	治療担当医が感染のおそれがないと認めるまで6)
流行性角結膜炎	第三種	治療担当医が感染のおそれがないと認めるまで7)

- 1) 結核患者に効果的な治療がなされ、症状が改善しており、喀痰塗抹検査が3回連続陰性のとき
- 2) コレラ患者に効果的な治療がなされ、抗菌薬の服用中止48時間以上経過した後24時間以上の間隔をおいた連続2回の検便検査が2回連続陰性のとき
無症状病原体保有者については、無症状病原体保有確認後48時間以上を経過した後24時間以上の間隔をおいた連続2回の検便検査が2回連続陰性のとき
- 3) 糞便中に排菌している間で、適切な抗菌薬が投与されれば2～3日、未治療の場合は1～3ヵ月
- 4) 症状（下痢、腹痛、発熱など）のみられる間
- 5) 抗菌薬治療終了後48時間以降に24時間以上の間隔で連続3回の糞便検査が陰性のとき
- 6) 発症後1週間が経過するまで
- 7) 発症後10日が経過するまで

④クラブなどの学外活動……学生委員会が推薦し、教務委員会が認定した日数学生委員会の推薦があり、教務委員会が認定した場合に該当します。学生委員会の推薦基準は、連盟主催等の公式な大会への出場、また、意義ある活動と学生委員長が認めた場合で、かつ、1学期あたり1回を限度とします。この場合、事前に顧問・部長の承認と学生支援グループへの届出が必要です。

⑤教育実習および事前ガイダンス参加等の場合……実習または参加実日数

⑥その他、教務委員会が認定した場合……教務委員会が必要と認めた日数

6) 【長期欠席】2週間以上欠席する場合は、「長期欠席届」を教務グループに提出してください。病気やけがなどの理由で欠席する場合は、病院の診断書も添付してください。

休

講

1) 担当教員がやむを得ない理由で授業を休む場合、その授業は休講となります。このような場合には事前に休講連絡を掲示し、携帯電話サービスにも掲載します。また、当日急に休講になった時には教務グループが教室に連絡します。なお、授業開始より30分を経過しても担当の教員が教室に来ない場合は、教務グループへ連絡をとり、指示を受けてください。

2) 交通機関のストライキに伴う休講措置

①午前7時の時点で、首都圏および近郊のJR各線、大手私鉄各線、地下鉄各線のいずれか1社でもストライキが報道された場合、1、2限を休講とします。

②午前9時の時点で、運行が開始されない時は、全授業休講とします。

3) 気象状況にともなう休講措置

①午前7時の時点で、東京地方(23区東部、23区西部、多摩北部)に「特別警報」「大雨警報」「洪水警報」「大雪警報」「暴風警報」「暴風雪警報」が発令されているときは、1、2限を休講とします。

②午前9時の時点で、前項の警報が、解除されないときは、全授業休講とします。

※自然災害その他の事由で、交通機関の運行停止の有無に関わらず、学生の通学上、安全が確保できないと想定されるような事態が発生した場合あるいは予想される場合は、授業を休講とすることがあります。

※上記2)、3)の事態に直面して、上記外の交通機関の運休、交通不能等によりやむを得ず欠席した時は、事故理由を記した証明書を提出してください。これにより通常の欠席とはみなされません。

※上記2)、3)の休講措置が、定期試験日または授業時間内試験日に当たった場合は、試験日の変更、あるいは試験のやり直しの措置がとられます。担当教員の指導、教務グループの指示に従い、掲示板の掲示事項を確認してください。

※電話での問い合わせには応じられませんので、上記休講措置にしたがって判断してください。

補

講

休講があった授業科目は、日時を指定し補講を行うことを原則とします。

- 受講マナー
- 1) 授業中の私語はつつしんでください。
 - 2) 授業中にスマートフォン・携帯電話等の使用はできませんので、あらかじめ電源は切って、カバンの中に入れておいてください。
 - 3) 授業中の飲食はできません。なお、机上に飲食物は置かないでください。
 - 4) IC カードリーダー(出席管理システム)を利用している授業で、IC カード(学生証)をタッチすることにより出席登録をしても、その後教室に戻らない(事実上欠席している)学生は欠席扱いとします。
 - 5) やむを得ず途中退席する場合は、担当教員に氏名・学籍番号を述べ許可を得てください。体調不良等の理由であっても、20分以上経過しても教室に戻らない場合は、欠席扱いとします。
 - 6) ミニッツ・ペーパーの流用(自分以外の学生に代筆させたり、したりすること)は不正行為(カンニング)に準ずる行為とみなし、その科目の単位修得が無効になります。

オフィス・アワー

専任教員が担当する授業科目の内容や課題について、更には進路などについて、質問・相談を受ける時間(オフィスアワー)を設けています。詳細は4月に掲示すると同時に、教員研究室にも案内板が掲げられます。気軽にお訪ねください。

- 学生への伝達方法
- 1) 「掲示」の役割

大学からの学生に対する伝達は、所定の掲示板(表示ボードを含む)によっておこなわれます。これは定期試験の日程等、重要な事項についても同様ですので、毎日必ず掲示内容を確認してください。

 - ① 掲示の見落としや確認不足のために生じる事態は、すべて学生自身の責任です。あとで不利益や不都合が生じないためにも掲示板を確認する習慣をつけてください。
 - ② 一旦掲示した事項については、学生全員に伝達されたものと見なします。なお、掲示内容の疑問点については、各担当グループの窓口^①に照会してください。
 - ③ 学生による故意の掲示用紙破損等は、学生全体に不利益をもたらします。厳に慎んでください。
 - 2) 教室変更・学生呼出表示ボードについて

教室変更・学生呼出表示ボードが設置されています。学内の教室変更・学生呼出に関する情報は、すべてこのボード上に表示されます。学生呼出については、学籍番号のみでの掲示になりますので、見落としのないよう注意してください。
 - 3) 電話による照会について

授業・試験・成績などについての電話による問い合わせは、受け付けません。掲示内容を確認したのち、なお不明な点については教務グループ外国語学部担当窓口で問い合わせてください。
 - 4) B's LINK による伝達

B's LINK は、PC、スマートフォン及びほとんどの携帯電話会社のインターネット接続サービスに対応して、学生情報サービスを提供するシステムです。

 - ①「緊急重要情報」、②「休講情報(学部・学科として全体の情報)」、③「補講情報(学部・学科として全体の情報)」、④「学生呼出(学部・学科または学生を特定した情報)」、⑤「お知らせ(学部・学科として全体の情報)」を提供します。

*上記①-⑤の情報は、B's LINK に登録したメールアドレスにも配信いたしますので、各自メールアドレスを登録し、必要に応じて適宜変更してください。

*なお、通信料は利用者本人負担となります。

シラバス（講義要綱）について

シラバス
について

本学のシラバス（講義要綱）は、Web サイトの B's LINK に掲載されており、コンピュータ教室や自宅のパソコンで見ることができます（インターネットの接続環境が必要です）。

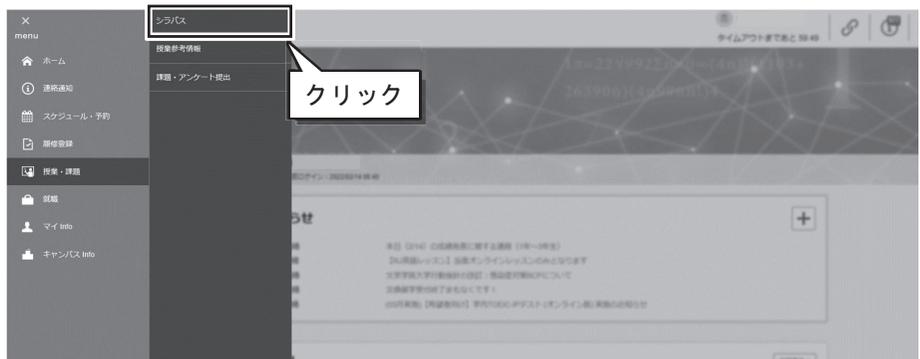


閲覧方法

- 1) 情報教育研究センターで発行された「アカウント」と「パスワード」を入力します。
 - ※ 「アカウント」と「パスワード」は、コンピュータ教室（CTR 1-7 など）で利用しているものと同じです。
 - ※ パスワードを紛失した場合は、学生証を持参の上、B館2階 情報教育研究センターで再発行の手続きを行ってください。



- 2) メニュー画面より、「授業・課題」、「シラバス」をクリックします。



- 3) タイトルに参照したい年度と学部を選択するか、参照したいシラバスの科目名等を入力して、「検索」ボタンをクリックします。



- 4) 参照したいシラバスをクリックします。

タイトル	カテゴリ	科目コード	ナンバリング	科目名	担当教員	学年	クラス	開講学期	曜日・時限
2022年度 外国語...	英語コミュニ...	H0501001		Communicative E...	Derek Lanthier	1年	1	前期	月3、木3
2022年度 外国語...	英語コミュニ...	H0501001		Communicative E...	Andrew Cross	1年	2	前期	月2、木2
2022年度 外国語...	英語コミュニ...	H0501001		Communicative E...	Kevin Murphy	1年	3	前期	月3、木3
2022年度 外国語...	英語コミュニ...	H0501001		Communicative E...	Rachel Hase...	1年	4	前期	月3、木3
2022年度 外国語...	英語コミュニ...	H0501001		Communicative E...	Roger McCor...	1年	5	前期	月2、木2
2022年度 外国語...	英語コミュニ...	H0501001		Communicative E...	Sara Christine ...	1年	6	前期	月2、木2
2022年度 外国語...	英語コミュニ...	H0501001		Communicative E...	David Pinkney	1年	7	前期	月3、木3
2022年度 外国語...	英語コミュニ...	H0501001		Communicative E...	Michael Short	1年	8	前期	月2、木2
2022年度 外国語...	英語コミュニ...	H0501001		Communicative E...	Roger McCor...	1年	9	前期	月3、木3

和文・英文ボタンを押すことで、和文⇄英文の切り替えができます。

履修手続きの流れ

「履修」の意味

大学で授業を受けるためには、受講する科目を届け出なければなりません。これを「履修登録」といいます。履修登録をしなければ、授業を受けることも試験を受けることもできず、単位を修得することができません。正しい履修登録をすることが、学生生活の第一歩です。

履修登録とは

学生は、時間割表の中から、受講しなければならない授業科目（必修科目）や受講を希望する授業科目（選択科目）を選び出し、自分の1年間の時間割を作成しなければなりません。作成した時間割通りに授業に出席すると同時に、授業科目を履修登録しなければなりません。履修登録することによって、教員は授業における出席者を確認できることとなります。

履修登録の方法

この履修登録は Web で行います。学外からはインターネットで、学内ではイントラネットで大学指定の履修登録システム（B's LINK）画面を呼び出し、アカウント・パスワードを入力し、履修申告登録画面から登録します。B's LINK の URL などについては、「シラバス（講義要綱）について」のページ（p. 12～13）を参照ください。これらの手続きは、4月に資料を配布し、登録期間を含めガイダンスで説明をします。

履修登録期間になると、ホーム画面に通知バナーが表示される



履修登録画面から自分の時間割を作成



「B's LINK」による前期科目の登録



「B's LINK」による登録科目の修正

※ 後期の履修登録と日程については、別途掲示で案内します。

履修登録の取り消し

指定された期間内に手続きを行うことにより、履修登録を取り消すことができます。取り消された科目は成績表には算入されません。

なお、期間内に取り消しをせず、出席回数が基準を満たしていない場合は、失格となり、成績評価が「F *（不可）」（GP 0.0）となりますので注意してください。

キャップ制と教育的指導

キャップ制とは、1年間に履修できる授業科目に単位数で上限を設定する制度です。外国語学部で履修登録できる単位数は、**年間50単位未満**です。ただし、前学期までに履修した科目のGPAが3.0以上の成績を修めた学生は、当該学期の単位数上限以上の科目を登録し履修できます。

逆に、以下のように修得単位が不足している学生は指導を受けることとなります。指導に当たるのは、アドバイザー教員、ゼミ担当教員、または教務委員長です。

1年次終了時の修得単位数が25単位以下

2年次終了時の修得単位数が50単位以下

3年次終了時の修得単位数が90単位以下

キャップ制 の対象外 科目	<p>以下の科目はキャップ制の対象外科目です。(副専攻履修科目を除く)</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 単位互換協定に基づき単位取得した科目 (2) 海外留学、インターンシップにより取得した科目 (3) 教職課程の教職に関する科目 (4) 「初年次セミナー a・b」、「英語資格講座 I・II」、「新・文明の旅特講 a」、「新・文明の旅特講 b」、「新・文明の旅総合講義」 (5) 通常授業とは別に集中講義形式で開講される科目 (6) GCI 科目 (7) その他、教務委員会が認めた科目
科目履修上 の注意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1) 卒業のために必要な単位及びその内容に関する規定は厳格なものであって、1 科目、1 単位の不足があっても卒業資格が与えられませんので、授業科目の履修に際して十分に注意してください。 2) 授業科目の選択は 1 年間の履修方針を決定し、また、次年度以降の履修科目に大きな影響を及ぼしますので、慎重に決定するようにしてください。 3) 履修登録をしていない授業科目の受講または試験受験は無効となります。 4) 全ての科目に履修学年が指定されています。必修科目については、原則として、指定の年次に履修しなければなりません。ただし、不合格、休学、編入等の理由で翌年以降に履修を要する場合はこの限りではありません。また、選択科目については、指定の年次かそれ以降に履修してください。原則として、自分の所属する学年より上級の科目を履修することはできません(例：履修学年が 2 年生と指定されている科目を 1 年生が履修することは不可)。 5) 同一時限に開講される 2 つ以上の科目を同時に履修することはできません。 6) 各自クラス別・専攻別に指定された時間割に従って履修してください。 7) 一度単位を修得した科目は、再び履修することはできません。成績評価が F 評価(または不可)であった科目のみ再履修することができます。 8) 履修登録した科目の履修者が 5 名以下の場合は、原則として開講されません。ただし、第二外国語の中級以上の科目については、履修者が 3 名以上で開講されます。 9) 履修登録をした科目は確実に履修してください。 10) 履修登録後の変更は、原則として認められません。
履修登録の 人数制限	<p>履修登録の人数制限の方法</p> <p>選択科目の履修者数は、原則として教室の収容人数とします。教室の収容人数をオーバーした場合、または担当教員・科目内容により人数制限を行う場合、担当教員が抽選を行い受講者数を決定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義開始時に出席票を提出させ、受講者を担当教員が抽出する。抽選に漏れた学生は、出席票に証明印(またはサイン)をもらい、同一時限に開講されている他科目の出席時に出席扱いとしてもらう。 2. 卒業年次の学生の受講は、優先的に認める。 3. 教科及び教科の指導法に関する科目については、教職履修学生に限り優先する。

成績評価について

定期試験

履修科目の成績評価は、試験、レポート等によって行います。

試験は原則として前期・後期の授業終了後に実施しますが、授業科目によっては、それ以前の授業時間中に行われる場合があります。また試験に代えてレポートの提出が課される場合もあります。

*定期試験時間割は、試験開始日の1週間前に掲示します。

1) 受験資格

- ①学期の初めに所定の履修登録をしていない科目は受験できません。
- ②欠席回数が多く失格となった場合は、試験を受けることができません。
(p. 8「出・欠席」1) 参照)
- ③試験を受けても、学費未納の学生には単位が認定されません。
なお、延納許可を受けている学生は、この限りではありません。
- ④受験資格のない学生(失格者)は掲示して告知する場合があります。

2) 試験当日の注意

- ①試験開始10分前には、定められた試験場に入室してください。
- ②着席後、通路側の机の上に必ず「学生証」を置いてください。「学生証」を忘れてきた場合は、教務グループで「入室許可証」の発行を受けてください。
- ③試験場においては、監督者の指示に従ってください。
- ④試験開始時刻より20分以上の遅刻は、いかなる理由であっても入室を認めません。
- ⑤氏名、学籍番号は、ボールペンで記入してください。無記入の場合は、たとえ解答されていても無効になります。
- ⑥不正行為(カンニング)とみなされる行為があった場合は、即時退場および受験停止を命じます。なお、その定期試験期間内実施全科目の単位修得が無効になります。また、学則により懲戒を受けることがあります。
- ⑦特に指示のある場合を除き、筆記用具以外はバッグの中にしまってください。
下敷き、ペンケースも使用できません。
- ⑧試験開始後の私語、筆記用具・テキスト・辞書等の貸し借りなどは不正行為とみなします。特別の事情が生じた場合は、手を上げて監督者の指示に従ってください。
- ⑨スマートフォン、スマートウォッチ、携帯電話等の通信機器は電源を必ず切ってバッグの中にしまってください。

追試験 再試験

1) **追試験**……病気、忌引、就職試験等やむを得ない理由で定期試験(最終授業内で実施される試験を含む)を欠席し、受験できなかった学生に対して追試験が所定の期間内に行われます。

- ①病気、忌引、事故による電車等の遅刻を理由に欠席し追試験を受ける場合は、その科目の試験実施日から3日以内(土・日・祝を除く)に、就職試験の場合は3日前までに、必ず教務グループに電話連絡をし、「追試験受験願」に次の書類を添えて、教務グループに提出しなければなりません。これが承認された場合のみ受験が許可されます。

なお、期日を過ぎた届け出は無効とします。

- ・病気、けが：診断書または学校所定の用紙を使った罹患証明書
- ・事故等：事故(遅延)証明書(駅長、警察署)等
- ・就職試験：試験の実施および受験を証明できる書面に、キャリアセンターから確認印を押印してもらったもの(企業訪問などの単なる就職活動は追試験の対象とはなりません)。

なお、本人の責任に帰すべきような理由(試験時間の勘違い、寝坊等)は追試験の対象にはなりません。

②追試験料は、無料です。

追試験該当者は、所定の手続期間内に指定の方法で教務グループに申請してください。

③追試験の成績評価基準も通常の成績評価基準と変わりません。

④追試験期間にやむを得ない事情で受験できなかった場合は、再試験を実施します。この場合の最高評価基準も通常の成績評価基準と変わりません。

2) **再試験**…最終学年に履修した科目で成績が不合格(「F」もしくは「F-」)の場合、再試験を実施します。

①再試験料は、1科目につき800円です。

再試験該当者は、所定の手続き期間内に申請を行い、指定の方法で受験料を納入してください。受験料の納入をもって申込完了となります。詳しくは、各学期に教務グループから配信される案内を確認してください。

②再試験の成績評価は、C評価を最高とします。

レポート

レポートは、評価の一方法であり筆記試験と同様に重要なものです。詳細については、各授業担当教員から指示されますが、下記を考慮して作成すると良いでしょう。

- 1) 作成にあたっては、担当教員に指定された用紙・様式に従ってください。
- 2) 本文の他に表紙をつけ、必ずホチキスで左上を綴じて提出してください。
- 3) 他人の書いたもの・著作物の一部または全部を、自分で書いたもの・著作物であるかのように偽って、レポートとして提出する行為は不正行為であり認められません。場合によっては懲戒処分の対象となります。
- 4) 他学生が作成したレポートの一部または全部をコピーし、提出した場合には、学生双方とも当該科目の単位修得が無効になります。
- 5) レポートの提出は、授業時に直接、担当教員に提出してください(ただし教員の指示により、教務グループへ提出する場合があります)。

また、提出期限は厳守してください。期限に遅れた場合には、いかなる場合でも受理できませんので注意してください。郵送による提出は受け付けません。

成績評価と 単位認定

成績は、試験およびレポート等の成績のほか、平常授業の学習態度、発表、出席状況などを総合して評価されます。詳しくは科目のシラバス(講義要綱)を見てください。合格点に達した科目について単位が与えられます。

成績評価の基準は下記の通りです。C評価以上は合格として、所定の単位が与えられます。必修科目の不合格は、再履修を必要とします。

評価	評価基準	Grade Point(GP)	成績評価内容
AA(秀)	90-100点	4.0	特に優れた成績
A(優)	80-89点	3.0	優れた成績
B(良)	70-79点	2.0	妥当と認められる成績
C(可)	60-69点	1.0	合格と認められる成績
P(合格)	-	3.0	合格と認められる成績(合格、不合格科目)
N(認定)	-	-	合格と認められる成績(編入時単位認定等)
F(不可)	59点以下	0.0	合格と認められる成績に達していない
F-(不可)	試験欠席	0.0	成績評価試験等を欠席
F*(不可)	失格	0.0	出席回数が基準を満たしていない

※原則として、履修者に対する各評価の割合(分布)は、下記の通りとなります。

AA(秀)0~10%、A(優)20±10%、B(良)40±10%、C(可)20±10%、
F(不可)0~20%

ただし、原則としてAAとAを合わせて30%を超えないものとします。

GPAの活用

成績については、GPA（グレード・ポイント・アベレージ/学業平均値）制度が導入されています。成績通知表には、履修登録をした各科目のAA～F等の評価とともに、GPAが表示されます。GPAは成績関係の書類に明示するとともに、学修指導、キャップ制限（履修登録単位上限）の緩和、奨学金の選定基準などに活用します。なお、GPAが低い学生（特に1.0未満の学生）には、個別の学修指導を行います。

★ GPA (Grade Point Average /グレード・ポイント・アベレージ) とは★

学修の成績評価をAA～F等の評価ではなく、GP（グレード・ポイント）で表記し、以下の算出式によって総平均（GPA）を表記するものです。具体的には、成績は上記の表の通り「AA」や「A」と表示されますが、GPは「AA」には4.0点、「A」には3.0点というように付与されます。GPにそれぞれの科目の単位数を乗じたものの和を履修登録した科目の総単位数で除したものがGPAとなります。また、1科目における全受講者の成績分布についても原則として一定の分布となるように定められています。

なお、科目の中には、GPA対象外科目、GPA分布除外科目などの例外科目もあります。

$$\text{【算出式】} \frac{[(\text{履修登録したGPA対象科目のGP}) \times (\text{科目の単位数})] \text{の合計}}{\text{履修登録したGPA対象科目の単位数の合計}}$$

成績通知

- 1) 成績発表の日程は下記の通りです。通知表の配布は行いません。各自、B's LINK で確認してください。

①前期成績発表

日	程
2022年9月1日（木）	

前期追・再試験結果発表

日	程
2022年9月20日（火）	

②後期成績発表

日	程
2023年2月14日（火）	

後期追・再試験結果発表

日	程
2023年2月22日（水）	

- 2) 成績に関する問い合わせは、教務グループ窓口にて成績発表日を含め3日間の指定された時間のみ受け付けます。直接、担当教員への問い合わせはできません。電話での問い合わせにはいっさい応じません。

成績通知表の見方

成績通知表

入学年月日	大学 学部	学年・クラス・出席番号	学籍番号	氏名						
2021年 4月 1日	外国 英語コミュ 国際教養									
科目名	単位数	期	評	G	単	科目名	単	評	G	単
				P	位				P	位
☆ 大学特別科目 (必修) ☆										
人間共生論	2	17	前	C	1.0	2.0				
☆ 大学特別科目 (選択) ☆										
地球環境論 I	2	17	前	A	3.0	6.0				
☆ 英語コミュニケーション (必修) ☆										
Communicative English I-a	2	17	後	A	3.0	6.0				
Communicative English I-b	2	17	後	B	2.0	4.0				
Integrated Skills I-a	1	17	前	B	2.0	2.0				
Integrated Skills I-b	1	17	後	B	2.0	2.0				
Reading I-a	1	17	前	B	2.0	2.0				
Reading I-b	1	17	後	B	2.0	2.0				
Writing I-a	1	17	前	B	2.0	2.0				
Writing I-b	1	17	後	B	2.0	2.0				
☆ 英語資格講座 (必修) ☆										
英語資格講座 I	1	17	通	N						
☆ 基礎総合力 (必修) ☆										
初年次セミナー a	1	17	前	A	3.0	3.0				
初年次セミナー b	1	17	後	B	2.0	2.0				
☆ キャリア (必修) ☆										
キャリアプラン I	2	17	前	B	2.0	4.0				
☆ 教養 ☆										
マーケティング概論 a	2	17	前	B	2.0	4.0				
マーケティング概論 b	2	17	後	B	2.0	4.0				
☆ 情報 (必修) ☆										
情報処理演習 a	1	17	前	B	2.0	2.0				
情報処理演習 b	1	17	後	C	1.0	1.0				
情報処理概論 a	2	17	前	C	1.0	2.0				
情報処理概論 b	2	17	後	Fw	0.0	0.0				
☆ 第二外国語 ☆										
中国語初級総合 a	2	17	前	C	1.0	2.0				
中国語初級総合 b	2	17	後	B	2.0	4.0				
※ 未修得必修科目 ※										
英語資格講座 II	1	2								
コミュニケーション概論	2	2								
情報処理概論 b	2	2								

GPA 対象履修科目単位数合計	332
GPA 単位数の合計	588
Grade Point Average	1.84

区分	単位数	要件	修得	不足	区分	単位数	要件	修得	不足
大学特別科目 (必修)	2	2	0		情報 (必修)	6	4	2	
大学特別科目 (選択)	0	2	0		情報 (選択)	0	0	0	
英語コミュニケーション (必修)	28	10	18		第二外国語				
英語コミュニケーション (選択)	0	0	0		専門科目				
英語資格講座 (必修)	2	1	1		ゼミナール・卒業研究				
基礎総合力 (必修)	4	2	2		留学・他大学等科目				
基礎総合力 (選択)	0	0	0		その他				
キャリア (必修)	4	2	2						
キャリア (選択)	0	0	0						
教養	14	4	10		合計	128	91	37	

成績表記と点数: AA=秀・4.0 A=優・3.0 B=良・2.0 C=可・1.0 F=合格・3.0
 N=認定 F=不可・0.0 Fw=失格 F=試験欠席
 GPA=GPA×単位数の合計÷GPA対象履修科目単位数合計 (小数点第3位四捨五入)
 【注】「■」は、履修中科目、「□」は、再試験の結果、「○」は、再試験の結果、「?」は、最終試験の結果です。

2021年 2月 27日

成績通知表は、履修中の科目は「#科目名」で表示されます。
 履修登録が終わったら、成績通知表をプリントアウトして、確認しましょう。
 わからないこと、不安なことがあったら教務グループまで。

学籍について

長い学生生活において、病気その他やむを得ない事情で休学や退学を考える場合もあります。その場合は、まず教務グループに相談にきてください。

在 学 年 限 本学の修業年限（最低在学しなければならない期間）は4年であり、また8年を超えて在学することはできません。

卒 業 本学に4年以上在学し、学則に定める授業科目および単位数（128単位以上）を修得した者に関しては、卒業の資格が与えられ卒業証書・学位記が授与されます。本学を卒業した者には、「学士（コミュニケーション）」の学位が授与されます。

留 年 外国語学部は、修得単位数が0であっても4年生まで進級します。4年生後期の成績発表において、卒業要件を満たしていない場合に留年となります。

アドバイザー面接 本学では休学、退学（除籍を含む）の手続きをする前に**アドバイザー教員（1・2年生）・ゼミナール担当教員（3・4年生）**もしくは**学部長との面接**の機会を設定しています。この面接は休学や退学（除籍）について相談する大切な機会となっています。

休 学

1. 病気その他やむを得ない理由により、3ヶ月以上修学することができない場合は、「**休学願**」にその理由を記し、本人と保証人連署の上、届け出てください。
2. 休学できる期間は1ヶ年以内です。特別の理由がある場合は休学期間の延長を許可することがあります。ただし、休学の期間は通算して4年を超えることはできません。
3. **休学の期間は在学年限に含みません。**

	前期	前期の途中	後期	後期の途中
休学期間	4/1-9/30	※-9/30	10/1-翌年3/31	※-翌年3/31
休学願 提出期限※	3月末	6月末	9月末	12月末

※休学期間は、通年・前期・後期の3種です。学期の途中で休学する場合の休学開始日は、休学願を提出する時期によって異なります。教務グループに確認してください。

※具体的な提出期限については、必ず教務グループに確認してください。

- 復学
1. 休学期間満了の場合、または休学の理由がなくなったときは、「復学願」に本人と保証人連署の上、届け出て、学長の許可を受け復学することができます。
 2. 復学の時期は原則として学期の初めとします。

	前期	後期
復学日	4/1	10/1
復学願 提出期限	3月末	9月末

- 退学
1. 病気その他やむを得ない理由により、修学することをやめる場合は、「退学願」にその理由を記し、本人と保証人連署の上、学生証を添えて届け出てください。
 2. 学期進行中に退学を届け出る場合は、その学期の学納金が納入済みであることが必要です。

※学費納付期限を過ぎた場合の退学は「除籍」となります。

	前期末	後期末	学期の途中
退学日	9/30	3/31	※
退学願 提出期限※	9月末	3月末	月末

※退学日は、前期末・後期末、学期の途中の3種です。学期の途中で大学を辞める場合は、退学願を提出する時期により退学日が異なります。教務グループに確認してください。

※具体的な提出期限については、必ず教務グループに確認してください。

除籍 次のいずれかに該当する者は除籍になります。

最長在学年限（8年）を超えた者

学費の納付を怠り、督促してもなお納付しない者

所定の休学期間を超えてなお復学しない者

長期にわたり行方不明の者

*除籍になった場合でも申請があれば「成績証明書」は発行できます。

ただし学費未納入学期の履修科目及び成績は全て無効となり、在籍期間は入学時～学費を納めた学期までとなります。

	前期末	後期末	学期の途中
除籍日	9/30	3/31	※
除籍承諾書 提出期限※	9月末	3月末	月末

※除籍日は、前期末・後期末、学期の途中の3種です。学期の途中で大学を辞める場合は、除籍承諾書を提出する時期により除籍日が異なります。教務グループに確認してください。

※具体的な提出期限については、必ず教務グループに確認してください。

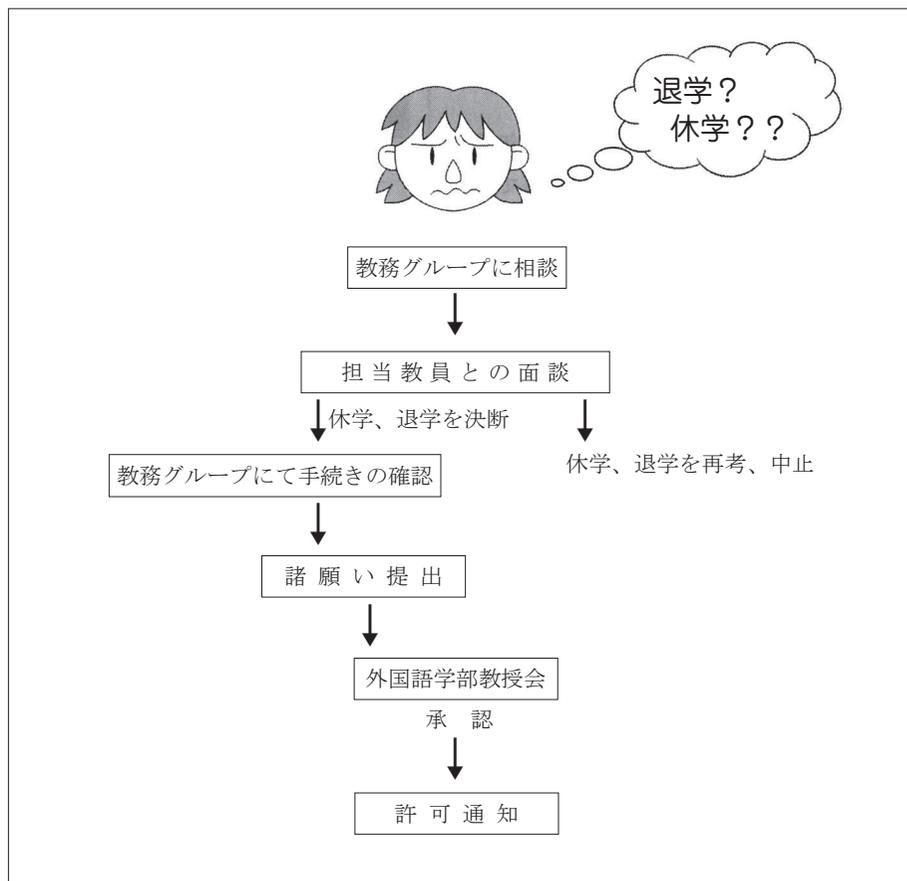
転学部について

本学他学部（経営学部・人間学部・保健医療技術学部）への転学部を願い出た場合、当該学部の定員に余裕がある場合は、選考の上、許可することがあります。ただし、年度途中で転学部はできません。

転学部を希望する場合は、教務グループへお問い合わせください。

転専攻について

学生の希望による所属専攻の変更は、原則として認めないことになっています（外国語学部履修規定第16条3項）が、変更希望先専攻の募集定員あるいは入学時在籍者数に欠員が生じている場合に限り、変更を認めています。但し、所属専攻の変更には条件がありますので、掲示で確認してください。



インターンシップ

外国語学部では、正規の授業科目としてインターンシップを実施しています。

基本理念

本学は、自立と共生の人間教育を基本理念として理論と実践の両面から、学生の職業意識、判断力、想像力、行動力を養い、そして社会貢献のできる人財を育成します。その教育の一環としてインターンシップを実施しています。

目的

- (1) 企業・団体等の社会的意義や役割を認識し、社会人としての自覚を促す機会とする。
- (2) 大学で学んだことを実際の就業体験で確認し、今後の学ぶ方向性を見いだす。
- (3) 就業体験を通じ、自分の職業適性を把握し、職業観を育む。

概要

- (1) 研修先（受入先の状況により、変更になる場合もあります。）
 - ①大学より依頼した国内および海外の企業・公官庁
 - ②インターンシップを公募する企業・公官庁
 - ③学生が自己開拓した企業等
- (2) 研修業務
国内外で就業体験型または課題追求型の企業研修に参加。本学と研修先企業とが調整したプログラムに則り、主として研修先企業の社員・職員にご指導いただきます。
- (3) 修得単位（2019年度以前の入学生は「履修要項2019」を参照）

科目名	行き先	実習時間	単位数
インターンシップⅠ（国内）	国内	60時間以上	2単位
インターンシップⅡ（海外）	海外	60時間以上	2単位
インターンシップⅢ（国内）	国内	120時間以上	4単位
インターンシップⅣ（海外）	海外	120時間以上	4単位
インターンシップⅤ（国内）	国内	180時間以上	6単位
インターンシップⅥ（海外）	海外	180時間以上	6単位

- (4) 履修方法
原則として、毎年度4月に行うオリエンテーションの「インターンシップガイダンス」に必ず参加し、その後「インターンシップ申込書」により登録をする。インターンシップは、キャリアセンターが事務窓口となっています。
- (5) 費用
渡航費用、宿泊費、食事などの生活費、海外保険料等については、実費負担となります。また、研修先によっては実習費が発生する場合があります。
所定の語学資格を取得した場合、その対象者には本学規定の奨励金が支給されます。
- (6) 実習に伴う企業等からの報酬：原則、ありません。
- (7) 担当教員：キャリア委員会
- (8) 事務窓口：キャリアセンター

海外フィールドワーク

	<p>国際ビジネスコミュニケーション専攻および国際教養コミュニケーション専攻では、正規の授業科目として海外での「フィールドワーク」を実施しています。</p>
目的	<p>両専攻ともに、各分野の理論・知識の修得に加えて、現地・現場での体験を通して学ぶことにより、国際社会で活躍できる人材を育成・輩出することを基本理念としており、その一環として海外フィールドワークを実施しています。</p> <p>海外フィールドワークは、専門分野についてすでに十分な知識を身につけた学生が、現地でより高度な研修内容をこなし、将来、国際社会において能力を発揮するための修養の機会となります。</p>
実施内容	<p>海外フィールドワークは、原則として、各ゼミナールおよびそれらのゼミナールに関連する授業で行っている研究・教育内容に基づいて実施しています。</p>
科目名	<p>国際ビジネスコミュニケーション専攻 国際ビジネスコース 「国際ビジネスフィールドワークⅠ・Ⅱ」 国際教養コミュニケーション専攻 国際協力コース 「国際協力フィールドワーク実践」 国際教養コミュニケーション専攻 国際文化コース 「国際文化フィールドワーク実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」</p>
履修要件・履修対象者	<p>フィールドワークへの参加を希望する学生は、下記の要件を満たしていなければなりません。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 所定の選考を受け（選考委員は、学部長、教務委員長、学生委員長、引率教員、学生支援センター長等とする）、教授会で承認されること。(2) 参加を希望するフィールドワークの引率教員の担当科目を履修し、事前および事後の指導を受けること。(3) 実習前に引率教員から十分な指導を受け、事前準備による計画書等を作成し、提出すること。(4) 現地での行動や定時報告・ミーティング等については、すべて引率教員の指示に従うこと。現地調査の記録および報告書は、随時、引率教員の指導・指示にしたがって作成・提出すること。(5) フィールドワーク終了後には、速やかに現地調査の記録および報告書等を作成し提出すること。
開講人数	<p>開講（実施）最小人数は4名とします。</p>

高い英語力を持つ学生に対する英語コミュニケーション科目単位認定について

単位が認定される科目と条件

英語検定試験やTOEICなどで好成绩を修めるなど、高い英語力を持つことが認められる学生が英語コミュニケーション科目の履修免除を望んだ場合、次の条件に従い単位を認定します。留学特待生プログラムの単位認定については別に定めます。

- (1) 以下のいずれかの基準を満たしている者は「Integrated Skills I / GCI Integrated Skills」および「Reading I / GCI Reading」の単位認定を受けることができる。
英検 (CBT 含む) 準1級以上、TOEIC 700点以上 (ただし Reading Section 300点以上)、TOEFL (iBT) 61点以上、TOEFL - ITP (PBT) 500点以上、GTEC for STUDENTS 700点以上
- (2) 以下のいずれかの基準を満たしている者は「Integrated Skills II」および「Reading II」の単位認定を受けることができる。
英検 (CBT 含む) 準1級以上、TOEIC 760点以上 (ただし Reading Section 330点以上)、TOEFL (iBT) 70点以上、TOEFL - ITP (PBT) 523点以上、GTEC for STUDENTS 750点以上
さらに、上記基準に加えて本学教員による筆記試験に合格した者は「Writing II」の、口頭試験に合格した者は「Communicative English II」の単位認定を受けることができる。
- (3) 以下のいずれかの基準を満たし、さらに本学教員による筆記試験に合格した者は「Writing III」の単位認定を受けることができる。
英検 (CBT 含む) 1級以上、TOEIC 800点以上 (ただし Reading Section 360点以上)、TOEFL (iBT) 80点以上、TOEFL - ITP (PBT) 550点以上、GTEC for STUDENTS 800点以上

上記 (1) ~ (3) による単位認定を受ける際、評価は「P (合格)」とする。

申請手続き

上記条件を満たし単位認定を希望する学生は、下記期間内に教務グループにて申請手続きを行ってください。

2022年度 単位認定申請受付期間

前期：2022年2月14日(月)～2月18日(金)

ただし1年生のみ ～4月12日(火)

後期：2022年8月22日(月)～8月26日(金)

2023年度 単位認定申請受付期間

前期：2023年2月13日(月)～2月17日(金)

他学部・他大学の単位について

本学外国語学部では電子シラバス（講義要綱）に掲載されている授業科目以外で、本学他学部や他大学で修得した授業科目の単位も認定しています。

	評価方法
1) 他学部(経営学部、人間学部、保健医療技術学部)の履修	同科目名・同単位数で評価
2) 北星学園大学、名桜大学、彩の国大学コンソーシアム単位互換協定締結校、埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(TJUP)との単位互換協定による履修	本学の評価基準に照合して評価
3) 放送大学との単位互換協定による履修	本学の評価基準に照合して評価
4) 留学による履修	留学先で取得した単位・評価をそのまま認定、または本学の評価基準に照合して評価(p. 28～31参照)

- 注1 1) 2) 3) 4) で取得した単位は関係科目に算入します。
 注2 編入学した場合などのように、本学入学以前に他の大学・短期大学などで修得した単位は、本学のカリキュラムの授業科目に読み替えて評価します。評価は「N（認定）」となります。
 注3 上記1) 2) 3) 4) と本学入学以前に取得した単位数の総計は30単位以内とします。
 注4 外国語学部科目と同一と認められた場合、既に単位修得している科目は単位認定されません。

本学他学部の科目を履修する場合

本学の経営学部、人間学部、保健医療技術学部の科目を履修できます。

- ①学部を担当する教務グループより時間割を入手し、科目を選ぶ。
 - ②授業科目担当の先生に履修できるか否かを確認する。
 - ③教務グループの窓口にある「他学部履修届」に記入し、指定された期日までに教務グループ窓口へ提出する。
- *必ず履修できるとは限りません。当該学部の学生の履修が優先されますので外国語学部の学生が履修できない場合があります。

他大学との単位互換協定等

本学外国語学部では、協定大学との間で、単位互換制度を実施しています。以下の大学と交流を実施します。

◆科目履修

	協定大学	履修期間	履修単位数上限	本学対象学部 対象学年	受講料等	学生の身分
1	北星学園大学	科目設置期間	本学学則にしたがいあわせて、 30単位まで	外国語学部 1年～4年生	免除	特別科目等履修生
2	名桜大学	科目設置期間		外国語学部 1年～4年生	免除	特別聴講学生
3	放送大学	科目設置期間		外国語学部 1年～3年生	1単位 5,500円	特別聴講学生

北星学園大学

文京学院大学と北星学園大学（北海道）は、開かれた大学としての更なる発展のために、教育の一層の充実を目指して、相互交流に関する協定を締結しています。

名桜大学

文京学院大学と名桜大学（沖縄県）との間において、両大学の学生がそれぞれ相手大学の授業科目を履修し、単位を修得することができます。

放送大学

放送大学の科目を履修し、単位を修得することによって、本学の卒業要件単位として認められます。

彩の国大学コンソーシアム単位互換協定締結校、埼玉東上地域大学教育プラットフォーム (TJUP) に関しては、履修できる学年、授業科目や開講場所、手続き期限等は、大学ごとに定められていますので、詳細については、教務グループまで問い合わせてください。

留学制度による単位申請

本学では、できるだけ多くの学生が、語学の学習は勿論のこと、海外の生活・文化・社会・歴史などを直接体験して異文化理解を深めることができるよう、様々な留学プログラム・留学制度を実施しています。在学したまま留学することができるので、特別な場合を除いて休学したり留年したりする必要がありません。また、本学の留学プログラムには単位認定や奨学金・奨励金給付制度が設けられています。

各留学プログラムの詳細については、「文京学院大学留学制度案内」で確認するか、GSIグループに問い合わせてください。

GSIグループ窓口の取り扱い時間：月～金曜日 8時45分～18時10分

土曜日 8時45分～13時

各種留学プログラムの紹介

1. 派遣留学プログラム：交換留学や長期語学留学プログラムに参加するためには、参加申請条件を満たす必要があるため、早期に準備を開始することが大切です。GSIグループに参加申請書類を提出した後、審査が行われ派遣学生が決定します。

①交換留学：交換留学提携大学あるいはその附属教育機関等で、1年もしくは1Semesterの期間、正規の授業を、または指定されたコース科目等を履修し、そこで取得した単位は、本学の教務委員会の審査を経て認定されます。

留学の種類	留学先学校名	留学先国・地域名	時期	期間
交換留学	Universiti Teknologi MARA	マレーシア	9月～翌1月 9月～翌7月	約4ヶ月間 約10ヶ月間
	College of St.Benedict /St.John's University	アメリカ	8月～12月 8月～翌5月	約4ヶ月間 約9ヶ月間
	Thompson Rivers University	カナダ	8月～12月 8月～翌4月	約4ヶ月間 約8ヶ月間
	北京語言大学	中国	9月～翌1月 9月～翌7月	約5ヶ月間 約11ヶ月間
	光云大学	韓国	2月～6月	約4ヶ月間 約10ヶ月間
	仁荷大学		2月～12月	
	University of Veliko Turnovo	ブルガリア	7月～8月	約3週間
	Ankara University	トルコ	9月～翌2月	約5ヶ月間
	国立高雄餐旅大学	台湾	9月～翌1月	約4ヶ月間

②長期語学留学：本学が指定する大学あるいはその附属教育機関等で1Semesterの期間、語学（英語）研修プログラムに参加するものです。授業時間はもちろんのこと、現地で体験する異文化交流は、学生にとって貴重な体験となるため、その成果を評価し、単位認定をする科目を設定しています（「長期語学留学の単位認定について」を参照）。

留学の種類	留学先学校名	留学先国名	時期	期間
長期語学留学	University of Delaware	アメリカ	8月～12月	約4ヶ月間
	Swinburne University of Technology	オーストラリア	8月～12月	約4ヶ月間
	University of Otago Language Centre	ニュージーランド	2月～6月 10月～2月 ※2022年度のみ(予定)	約4ヶ月間

2. 短期語学留学プログラム：休暇中に指定の大学あるいはその附属教育機関等で実施される4週間程度の語学研修プログラムに参加するものです。必要に応じて審査（面接等）の可能性があります。単位認定申請書、修了証書、（成績表）を教務グループに提出し、教務委員会の審査を経て単位が認定されます。

留学の種類	留学先学校名	留学先国名	時期	期間
短期語学留学	Universiti Teknologi MARA	マレーシア	8月	2週間
	University of Delaware	アメリカ	8月～9月	4週間
	Swinburne University of Technology	オーストラリア	8月～9月	4週間
	北京語言大学	中国	8月	4週間
	College of St. Benedict/ St. John's University	アメリカ	2月	3週間
	Canterbury Christ Church University	イギリス	2月～3月	4週間
	University of Otago Language Centre	ニュージーランド	2月～3月	4週間
	Malta University Language School	マルタ共和国	2月～3月	4週間
	本学施設（軽井沢セミナーハウス）	国内	3月	2週間

3. 認定留学：上記1、2の留学に該当しない外国の大学あるいはその附属教育機関等に、休学せずに留学することを本学では「認定留学」と称しています。このうち1セメスター留学するものをセメスター認定留学といい、休暇中4週間程度の研修プログラムに参加するものを短期認定留学といいます。

事前に留学先の入学許可証、学校要覧、シラバスおよび留学の目的を記した書類等をGSIグループに提出し、国際交流委員会の許可を得ている場合に限り、規定の単位が認定される場合があります。（「認定留学にともなう単位認定および奨励金申請についての案内」を参照、問い合わせ先：GSIグループ）

なお、休学して留学する場合でも、事前に学校要覧、および留学届をGSIグループに提出し、危機管理等の指導を受けてください。

留学届は教務グループにも一部提出すること。休学・復学については、本履修要項の該当頁を参照の上、手続きを行ってください。

留学により
単位が取得
できる科目

科 目 名	外国語学部生の 履修方法	評価方法
交換留学による科目 (留学先で履修した科目名) ※ブルガリアを除く	留学先の正規授業を履修	留学先での成績証明書を提出。本学が審査のうえ、30単位まで単位互換。
海外 Semester 語学研修 Study Abroad Language Program (semester)	外国語学部設置 ※長期語学留学または 在学中の Semester 認定留学	留学先発行の修了証書、成績証明書を提出。これに基づき、帰国後本学での評価あるいは認定を行う。
海外 Semester 語学研修 (日本語) Intercultural Studies (English)	外国語学部設置 ※長期語学留学または 在学中の Semester 認定留学	留学先発行の修了証書、成績証明書を提出。これに基づき、帰国後本学での評価あるいは認定を行う。
海外 Semester 語学研修 (英語) Cross-Cultural Communication	外国語学部設置 ※長期語学留学または 在学中の Semester 認定留学	留学先発行の修了証書、成績証明書を提出。これに基づき、帰国後本学での評価あるいは認定を行う。
海外語学研修 (英語) Overseas Studies (English)	外国語学部設置 ※在学中の短期語学留学 およびブルガリア交換留学	留学先発行の修了証書、成績証明書を提出。これに基づき、帰国後本学での評価あるいは認定を行う。
海外語学研修 (英語外) Overseas Studies (Foreign Language)	外国語学部設置 ※在学中の短期語学留学	留学先発行の修了証書、成績証明書を提出。これに基づき、帰国後本学での評価あるいは認定を行う。
国内語学研修 (英語)	外国語学部設置 ※春期集中英語セミナー	指導教員が評価を行う。

履修の手引

(2022年度入学者用)



カリキュラム・卒業要件

1. 学士（コミュニケーション）

卒業要件を充足し、卒業することによって「学士（コミュニケーション）」の学位が授与されます。

2. 4 年以上の在学期間と128以上の総単位数が必要です。

原則として4 年以上在学し、その期間内に総単位数として128単位以上修得することが必要です。たとえば休学などの1 学期以上の休学期間により、在学期間が中断する場合には、その休学期間を除いて、4 年以上在学することが必要です。

3. 科目と単位

科目の開講期間は半期です。

科目には必修と選択の区別があります。必修科目は、卒業するために必ず履修し、その単位を修得することが必要です。そのクラス、時間割、教室はあらかじめ決められています。選択科目は、特定の科目群から自分で選択した科目を履修し、その単位を修得する科目です。卒業に必要な単位数は、科目群によってそれぞれ異なります。

また、外国語学部の学生だけが履修する科目のほかに、外国語学部と経営学部の学生が履修する科目があります。これらの共通開設科目と呼ばれるものは、選択科目に多くあります。

半期の科目の単位数はそのほとんどが1 単位あるいは2 単位です。また教職課程科目群に属する科目は、履修し修得した単位を卒業単位（卒業に必要な単位）として数えることができません。

一般的に、科目を履修し単位を修得するためには、科目の履修登録、授業への出席・参加、レポートや試験など学期末の課題における合格点が要求されます。これらについては、このあとの説明を読んでください。科目により違いがありますので、各科目の具体的な履修条件については、シラバスで確認するか、担当教員に直接確かめてください。

4. 次の5つの分野から必要な科目を履修し、その単位を修得します。

外国語学部英語コミュニケーション学科のカリキュラムは、次の1～5の5分野からなります。各分野に属する科目の種類については、カリキュラム表を（p. 51～57）ご覧ください。

- (1) 大学特別科目
- (2) 英語コミュニケーション科目
- (3) 基礎総合力科目
- (4) 専門科目
- (5) その他

上の5分野において、それぞれ必要な科目を履修し、その単位を修得します。

履修する科目の種類や修得する単位数など、卒業に必要な条件は分野ごとに決められています。それについては、このあとの部分で説明します。

また、各分野で必要とされる科目だけを履修し、その単位を修得し、各分野の卒業要件を満たしても、その合計単位数は卒業に必要な総単位数128に届きません。したがって各分野で必要とされる単位数を越えて、科目を履修し単位を修得することが必要です。ただし教職課程科目の単位を卒業単位に含めることはできません。

5. 大学特別科目【卒業要件：必修1科目 / 2単位】

大学特別科目には必修科目と選択科目があります。「人間共生論」を履修し、その単位を修得することが必要です。

6. 英語コミュニケーション科目【卒業要件：必修26科目 / 30単位】

英語コミュニケーション科目には、必修科目と選択科目があります。必修科目としては、以下の科目があります。但し、留学特待生プログラムの科目については別に定めます。

英語コミュニケーション科目学年別必修科目一覧表

1年	Communicative English I - a ↓ Communicative English I - b	Reading I - a GCI Reading a ↓ Reading I - b GCI Reading b	Writing I - a GCI Writing a ↓ Writing I - b GCI Writing b	Integrated Skills I - a GCI Integrated Skills a ↓ Integrated Skills I - b GCI Integrated Skills b	英語資格講座 I 英語資格講座 II
	↓ Communicative English II - a ↓ Communicative English II - b	↓ Reading II - a ↓ Reading II - b	↓ Writing II - a ↓ Writing II - b	↓ Integrated Skills II - a ↓ Integrated Skills II - b	
3年	Oral Communication I - a ↓ Oral Communication I - b		↓ Writing III - a ↓ Writing III - b	ESP a ESP b	
	Oral Communication II - a Oral Communication II - b				
4年	Oral Communication II - a Oral Communication II - b				

内容に関する詳しい説明は各科目のシラバスを参考にしてください。

【注意事項】

- (1) 「Communicative English」は週2回授業を受ける。
- (2) 「英語資格講座 I」は、2年次終了までに TOEIC で 400 点または英検準 2 級以上を取得することで、受講することなしに単位が認定される。成績評価は「N(認定)」のみとする。2年次終了までにこの条件を満たせなかった場合は、3年次に授業を開講（前期・後期に開講）するので、受講して、単位を修得する。
 - ① 本学で実施する TOEIC で 400 点以上を取得した場合は、そのスコアに基づいて単位が認定される。
 - ② 上記以外に TOEIC ないし英検を受験し単位認定基準を満たした場合は、BLEC に証明書原本とその写しを持って手続きを行うことにより認定される。学生は学内で年 2 回実施される TOEIC を受験すること。
- (3) 「英語資格講座 II」は、集中講義形式で開講し、成績評価は「N(認定)」のみとする。4年次後期授業終了時(1月末)までに TOEIC で 500 点または英検 2 級以上を取得することで、受講することなしに単位が認定される。4年次後期授業終了時までこの条件を満たせなかった場合は、4年次春季休暇中に集中講義形式で受講する。

本学で実施する TOEIC で 500 点以上を取得した場合は、そのスコアに基づいて単位が認定される。上記以外に TOEIC ないし英検を受験し単位認定基準を満たした場合は、BLEC に証明書原本とその写しを持って手続きを行うことにより認定される。学生は学内で年 2 回実施される TOEIC を受験すること。

なお、「英語資格講座 II」の受講には、4年次前期終了時まで、「英語資格講座 I」の単位を修得していることが必要である。

- (4) 英語コミュニケーション必修科目の履修については、原則として定められた順序どおりに履修を行うものとし、再履修であっても順序を逆転して履修することはできない。科目名にⅠ、Ⅱ、Ⅲの数字があるものはその順序に従い履修するものとし、数字が異なる科目を同年度に履修することは認めない。科目名にa(前期)、b(後期)のアルファベット記号があるものはその順序に従い履修するものとする。b、aの順序で履修することは認めない。

ただし、「ESP」と「Oral Communication」の履修については、それぞれ以下のように定める。

「ESP」の履修はa、bの順序でなくてもよい。

「Oral Communication」の履修は、Ⅰ、Ⅱの順序に従うが、Ⅰの単位が修得できなかった場合にはⅠとⅡを同年度に履修してもよい。ただしa、bの履修については、Ⅰはa、bの順序に従うものとするが、Ⅱはa、bの順序でなくてもよい。

- (5) 高い英語力をもつ学生の英語コミュニケーション科目の履修免除と単位認定については別に定める。

- (6) 選択科目としては、以下の科目がある。

「eラーニング応用 a,b」、「Vocabulary Building a,b」、「TOEIC・英検入門 a,b」、「TOEIC・英検初級 a,b」、「TOEIC・英検中級 a,b」、「TOEFL講座 a,b」、「Academic Reading」、「Academic Writing」、「Applied Writing and Research」、「Literature」、「Content-based English a」

これらの科目には履修条件があるものもあるので、シラバスを参照すること。選択科目は、a、bの順で履修する必要はなく、またa、bのどちらかのみを履修することもできる。

7. 基礎総合力科目

基礎総合力科目は以下の(1)～(5)の5つの科目群に分類されます。各科目群に属する科目の名称、履修学年、必修・選択の区別、単位数については、カリキュラム表をご覧ください。

(1) 基礎総合力科目群【卒業要件：必修3科目 / 4単位】

基礎総合力科目群の科目は必修科目と選択科目があります。「初年次セミナー a,b」と「コミュニケーション概論」は、必修科目であり、履修し、その単位を修得することが必要です。

(2) キャリア科目群【卒業要件：必修4科目 / 8単位】

キャリア科目は必修科目と選択科目があります。「キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」は必修科目であり、履修し、その単位を修得することが必要です。

(3) 教養科目群【卒業要件：選択14単位】

教養科目はすべて選択科目です。教養科目群に属する科目から自分で選択し、14単位以上修得することが必要です。この条件を超えて科目を履修し修得した単位は卒業単位として数えることができます。

(4) 情報処理科目群【卒業要件：必修2単位】

情報処理科目群は必修科目と選択科目からなります。「情報処理演習 a,b」は必修科目であり、履修し、その単位を修得することが必要です。選択科目を履修し修得した単位を卒業単位として数えることができます。

(5) 第二外国語科目【卒業要件：選択必修2単位以上（同一言語を1年間以上）】

①開講されている言語とレベル設定

フランス語、中国語、スペイン語、韓国・朝鮮語は初級（Ⅰ・Ⅱ）、中級、上級と三つのレベルが設定されております。また中国語、韓国・朝鮮語は初級総合も開講されます。

②初級について－1年コースと2年コース：中国語、韓国・朝鮮語

中国語、韓国・朝鮮語の初級は1年コースと2年コースがあります。

1年コースの科目名は「〇〇語初級総合 a, b」です。これは週2日の授業を1年間で修了し、単位は半期ごとに2単位、前後期で計4単位の科目です。1人または2人の教員で行う授業ですので、**指定された組み合わせに従って履修してください。**

2年コースの科目名は「〇〇語初級Ⅰ -a,b」(1年目)と「〇〇語初級Ⅱ -a,b」(2年目)です。これは、週1日の授業を2年間で修了し、単位は半期ごとに1単位、前後期で2単位、2年間で計4単位の科目です。

いずれのコースを履修しても当該言語の「初級」を修了したものと同等に扱われます。したがって、次年度に当該言語の「中級」に進むことができます。

③初級について－2年コース：フランス語、スペイン語

フランス語、スペイン語については、2年コースのみの開講となります。科目名は「〇〇語初級Ⅰ -a,b」(1年目)と「〇〇語初級Ⅱ -a,b」(2年目)です。これは、週1日の授業を2年間で修了し、単位は半期ごとに1単位、前後期で2単位、2年間で計4単位の科目です。

④中級、上級について：フランス語、中国語、スペイン語、韓国・朝鮮語

中級の科目名は「〇〇語中級 a,b」です。これは、週1日の授業を1年間で修了し、単位は半期ごとに1単位、前後期で計2単位の科目です。

上級の科目名は「〇〇語上級 a,b」です。これは、週1日の授業を1年間で修了し、単位は半期ごとに1単位、前後期で計2単位の科目です。

*第二外国語科目の卒業要件である2単位は、同一言語を1年間以上履修したものでなければなりません。また、レベル設定があるので、履修に際しては、科目名にローマ数字が付されているものはその順に、また初級、中級、上級の順についても下位科目から履修することを原則とします。この原則以外の履修を希望する場合は、履修登録の前に、第二外国語担当の専任教員に相談の上、許可を得てください。

*第二外国語科目の卒業要件である計2単位以上を超えて取得した単位についても、卒業単位として数えることができます。

*留学生など日本語を母語としない学生は、自らの母語以外の科目を選択しなければなりません。

8. 専門科目

専門科目分野の科目は以下のコースの科目群にわかれています。

国際ビジネスコミュニケーション専攻

- (1) 国際ビジネスコース

国際教養コミュニケーション専攻

- (1) 国際文化コース (2) 英語教育コース
(3) 国際協力コース

各コースの科目群は、以下のように構成されています。

- (1) コース概論
(2) 複数の講義科目(2年次以降) (3) インターンシップ/フィールドワーク(2年次以降)
(4) ゼミナール(3年次) (5) 卒業研究(4年次)

①専門科目群(ゼミナールと卒業研究を除く)【卒業要件：選択14科目/28単位】

ゼミナールと卒業研究を除く、専門科目群に属する科目から、コースに関係なく選択した14科目を履修し、その単位を修得する必要があります。この条件を超えて専門科目を履修し修得した単位を卒業単位数に数えることができます。

科目の名称、単位数、履修学年、開講期間については、カリキュラム表(p.54～56)をご覧ください。

専門科目の履修の流れ

1年次：コース概論を通して、コースで学べる内容を理解することが可能です。

1年次開講：英語教育コース概論・国際協力コース概論

2年次開講：国際ビジネスコース概論・国際文化コース概論

2年次：専門科目はコースに関係なく履修することが可能ですが、所属している専攻の科目を履修することを推奨します。

＜専門コースへの所属＞

3年生になると各専門コース別の専門科目やゼミナール、卒業研究を履修していくこととなります。2年次前期に所属するコースを選ぶこととなります。

ゼミ所属の登録のためには、2年次前期までに26単位以上を修得していることが必要です。所属を希望するゼミナールの登録申請者が定員を超えるゼミナールでは、各ゼミナール担当者が設ける基準で選抜することとなります。

希望の専門コースに所属するためには、各コースが指定する基礎科目を履修しておくことを推奨します。各専門コース所属時に、事前あるいは同時に履修することが望ましい基礎科目は、次ページの通りです。

基礎科目一覧表

専攻	コース	基礎科目
国際ビジネスコミュニケーション	国際ビジネス	経営学 a, b
		マーケティング概論 a, b
		簿記会計学
国際教養コミュニケーション	国際文化	外国文学
		比較文化論 I
		比較文化論 II
		日本語学概論 a, b
		近現代史
		日本国憲法
	英語教育	児童心理学
		比較文化論 I
		比較文化論 II
		近現代史
		日本国憲法
	国際協力	地球環境論 I
		地球環境論 II
		ジェンダー論
		近現代史
		日本国憲法

3年次：ゼミへの所属が決定します。

自身が所属するゼミが配置されているコースの専門科目を積極的に履修することを推奨します。

専門コース修了証

自分の所属するコースの概論科目、専門科目、ゼミナール、卒業研究に加えて、所属コースの指定する基礎科目(上記表参照)を履修し、あわせて40単位以上修得した学生は、学位記授与式にて『専門コース修了証』を受け取ることができます。希望者は申請書に最終成績通知表を添付し、教務グループに提出してください。

②「ゼミナール」および「卒業研究」【卒業要件：必修4科目/8単位】

「ゼミナール」および「卒業研究」は、各専門コースに属します。(p.41参照)

すべての学生は、3年次に、同じ教員が担当する「ゼミナールa」および「ゼミナールb」、4年次に、3年次の「ゼミナール」と同じ教員が担当する「卒業研究a」および「卒業研究b」を履修し、その単位を修得する必要があります。

卒業研究について

「卒業研究」においては、学修の成果として卒業論文・課題研究または卒業制作の提出が必須です。

卒業論文・卒業制作の形式・提出方法については各年度の5月頃までに詳細な説明があります。

「題目・概要届出票」、「卒業研究に関する許諾書」等を指定された期日に提出してください。スケジュール、形式および審査判定基準については以下を参照してください。

[スケジュール]

3年次「ゼミナールb」	テーマの検討
→4年次「卒業研究a」	「卒業研究」の題目・概要の提出(5月末)
→4年次「卒業研究a, b」	卒業論文・課題研究または卒業制作の作成 卒業論文・課題研究または卒業制作の提出(12月下旬) 口頭試問(1月中旬)
→4年次「卒業研究」終了後	優秀論文発表会(2022年度は、2023年1月24日予定)

[形式]

卒業論文・卒業制作ともに

- ①最低字数の制限の厳守
- ②書式設定の厳守
- ③引用部分とその出典を所定の方法で明示していること
- ④卒業論文・卒業制作としての構成を成していること

が最低条件とされます。詳細については各コースおよび各ゼミナールの担当者からの指導にしたがってもらいます。また卒業論文・制作の作成に向けて、1年次から基本的な書式を身につけておくように努力してください。

[卒業論文審査判定基準]

1. 表紙、字数、行数、フォント、余白などの形式が守られている。
2. 文体および記述スタイルが適切である。
3. 問題を適切に設定し、それに答えられている。
4. 先行研究への言及を含む、調査や考察がなされている。
5. 使われている情報やデータが適切である。
6. 構成が整理されており、論理的で一貫している。
7. 使われている文献が的確で参考文献として正確に示されている。
8. 何らかの点で自分の意見や解釈が示されている。
9. 剽窃などの不正行為が行われていない。

9. その他

その他の分野として、以下の科目群があります。それぞれの説明部分をご覧ください。これらに属する科目はすべて選択です。必ずしも卒業に必要なものではありません。

- (1) 実務資格（インターンシップ）
- (2) 海外留学プログラム
- (3) 交換留学プログラム
- (4) 他大学との単位互換に属する科目群
- (5) 教職課程科目

ただし、教職課程科目を履修し修得した単位を卒業単位として数えることはできません。

これらの科目群の科目の名称、履修学年、単位数については、カリキュラム表をご覧ください。

10. ストレス耐性科目

本学は、創立100周年（2024年）を念頭に置き、大学の目指す姿として「B's Vision 2024」において4つのビジョンを掲げています。その一つとして「ストレス耐性を持った人材の育成」があります。外国語学部では、ストレスおよびストレスマネジメントに関する知識とスキルを身につけるための科目を、以下のように設定しています。

ストレス耐性科目：「キャリアデザインⅠ」、「キャリアデザインⅡ」、「キャリアデザインⅢ」、
「キャリアデザインⅣ」（いずれも「基礎総合力科目」の中の「キャリア科目」）

11. 児童英語教育プログラム修了証

下記の科目を全て履修し、単位を修得した学生には、卒業時に、「児童英語教育プログラム修了証」を発行します。

希望する学生は、卒業年次の2月に、申請書に最終成績通知表を添付し、教務グループに提出して下さい。

修了に必須である児童英語教育科目：「児童英語教育論」、「児童英語教育教材論」、
「児童英語教育実習 a」、「児童英語教育実習 b」、
「児童心理学」

【注意事項】

上記科目は p. 119 の教職課程の科目ではありません。東京都教育委員会への教育職員免許状の申請には適用されません。

12. 各分野の卒業要件を合計した単位数と卒業に必要な総単位数との差【卒業要件：選択30単位】

各科目群で科目を履修し修得しなければならない単位数を合計すると98単位になります。卒業に必要な総単位数128単位には30単位不足しています。この不足分については、卒業単位として数えられる科目群から科目を履修し、その単位を修得してください。

専門コースとゼミナール

※注1 ゼミナール名は、2022年4月現在のものです。変更となる場合があります。

※注2 専攻を超えてゼミナールを履修することはできません。

国際ビジネスコミュニケーション専攻

専門コース名	ゼミナール名
国際ビジネスコース	米中新冷戦時代の国際政治経済
	国際ビジネスと法
	観光キャリア&ホスピタリティ・デザイン
	職場の人間行動を科学する
	情報科学
	言語処理と習得の理論および動機づけ理論に学ぶ外国語4技能の向上
	The Psychology of Motivation モチベーション心理
	「投資」を通じて社会を理解する
	マーケティング戦略の実践
	データサイエンス
アメリカのいろいろなトピックとイシュー	

国際教養コミュニケーション専攻

専門コース名	ゼミナール名
英語教育コース	Community Outreach and Intercultural Communication
	英語教育学研究 — 英語授業の実践研究
	国際理解を深める児童英語教育
	ことばの探求
国際協力コース	国際開発・ジェンダーと開発研究
	人権・ビジネス・国際協力研究
国際文化コース	イギリス社会とジェンダー
	多言語コミュニケーション研究
	ドラマとシネマの英語コミュニケーション
	日本語・日本文化に関する研究
—	アメリカ文学／文化とメディア
—	COOL JAPAN Intercultural Comparative Studies of Japanese Tourism

文京学院大学 外国語学部 国際ビジネスコミュニケーション専攻 カリキュラムマップ

	1年次	2年次	3、4年次
英語コミュニケーション	<p>Communicative English Ia/Ib Reading Ia/Ib Writing Ia/Ib Integrated Skills Ia/Ib 英語資格講座I/II Vocabulary Building a/b eラーニング応用a/b TOEIC・英検入門a/b TOEIC・英検初級a/b TOEIC・英検中級a/b TOEFL講座a/b Academic Reading Academic Writing Applied Writing and Research</p>	<p>Communicative English IIa/IIb Reading IIa/IIb Writing IIa/IIb Integrated Skills IIa/IIb Literature</p>	<p>Writing IIIa/IIIb ESP a/b Oral Communication Ia/Ib Oral Communication IIa/IIb Content based English a</p>
専門	<p>国際ビジネスコース概論 国際アカウンティング 国際経済論a/b 国際ビジネス特講Ia/Ib/IIa/IIb ホテル・旅館論 マネーと社会生活</p>	<p>Japanese Business ビジネスライティング 国際ビジネス取引 環境とビジネス 人的資源管理論 組織とコミュニケーション</p>	<p>フィールドワーク 国際ビジネスワールドワークI/II Business Planning Business case method 国際政治経済論a/b グローバルビジネス戦略a/b 国際マーケティング環境 国際マーケティング戦略 国際観光ビジネス論 ホスピタリティ・コミュニケーション論 国際ビジネスと法 英文契約書読解 ゼミナールa/b 卒業研究a/b</p>
教養・情報処理	<p>人間共生論 新・文明の旅特講a/b 新・文明の旅総合講義 地球環境論/II 初年次セミナーa/b コミュニケーション概論 日本語表現法入門 健康の科学 スポーツ シーズンスポーツ 哲学/II 芸術/II 比較教育学 マーケティング概論a/b 経済学a/b 社会学 外国文学 経営学 a/b 法学 日本国憲法 近現代史 西洋史 ジェンダー論 比較文化論/II 日本語学概論a/b Cool Japan Japan and International Community Japanese Society Religion in Japan テータサイエンス入門 情報処理演習a/b 情報処理概論a/b 世界の言語と文化</p>	<p>国際情勢I/II 児童心理学 日本語表現法応用/II アニメーション論 表象論 Conference English 翻訳入門a/b グローバル社会と法 教育人間学 コミュニケーション心理学 Screen English a/b Media English a/b 異文化コミュニケーションa/b Cross Cultural Communication a/b 教養特講a/b ITシステム論 データサイエンス応用 Web作成技法 簿記会計学</p>	<p>プログラミング入門 サイバーセキュリティ概論</p>
第二外国語	<p>中国語初級Ia/Ib 中国語初級総合a/b 韓国・朝鮮語初級Ia/Ib 韓国・朝鮮語初級総合a/b スペイン語初級Ia/Ib フランス語初級Ia/Ib</p>	<p>中国語中級a/b 韓国・朝鮮語中級a/b スペイン語中級a/b フランス語中級a/b</p>	<p>中国語上級a/b 韓国・朝鮮語上級a/b スペイン語上級a/b フランス語上級a/b</p>
キャリア	<p>キャリアデザインI キャリアデザインII インターンシップI/III/V(国内)/II/VI(海外)</p>	<p>キャリアデザインIII</p>	<p>キャリアデザインIV</p>

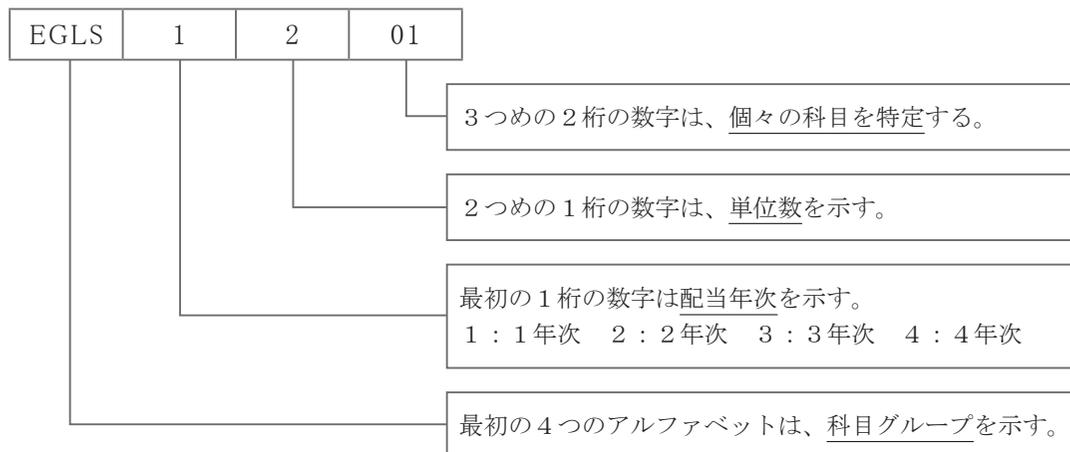
文京学院大学 外国語学部 国際教養コミュニケーション専攻 カリキュラムマップ

	1年次	2年次	3、4年次
英語コミュニケーション	<p>Communicative English Ia/Ib Writing Ia/Ib Reading Ia/Ib Integrated Skills Ia/Ib Vocabulary Building a/b eラーニング応用a/b TOEIC・英検入門a/b TOEIC・英検初級a/b TOEIC・英検中級a/b Academic Reading Applied Writing and Research</p>	<p>Communicative English IIa/IIb Writing IIa/IIb Reading IIa/IIb Integrated Skills IIa/IIb Literature</p>	<p>Writing IIIa/IIIb ESP a/b Oral Communication Ia/Ib Oral Communication IIa/IIb Content based English a</p>
専門(コース)	<p>国際協カコース: 国際協カコース概論 国際文化協力 国際関係論/II NPO・NGO論 地域研究/II 国際人権法 ジェンダーと開発 国際理解・地球市民教育論 国際社会開発論 開発経済学 農村開発論 国際協力特講Ia/Ib/IIa/IIb Social Development in Japan 国際文化コース: 国際文化コース概論 国際文化I/II American Government a/b アメリカ文化論a/b イギリス文化論a/b 日本文化論 演劇論 Japanese Literature and Performing Arts 社会言語学a/b 国際文化フィールドワーク I / II 国際文化特講Ia/Ib イギリス史a/b 英語教育コース: 英語教育コース概論 児童英語教育論 児童英語教育教材論 英語音声学・音韻論a/b 英語学a/b 英語学習理論 英語教育特講Ia/Ib 学校インタナショナルシップ English as a Lingua Franca Intercultural Communication Cool Japan Intercultural Comparative Studies a Cool Japan Intercultural Comparative Studies b</p>	<p>国際情勢I/II 児童心理学 日本語表現法応用I/II アニメーション論 表参論 Conference English 翻訳入門a/b グローバル社会と法 教育人間学 コミュニケーション心理学 Screen English a/b Media English a/b ITシステム論 データサイエンス応用 Web作成技法 簿記会計学 ドイツ社会概論 異文化コミュニケーションa/b Cross Cultural Communication a/b 教養特講a/b</p>	<p>国際文化フィールドワーク実践III 対照言語学a/b アメリカ文学a/b 国際文化特講IIa/IIb ゼミナールa/b 卒業研究a/b 英語史a/b 英語教育特講IIa/IIb ゼミナールa/b 卒業研究a/b</p>
教養・情報処理	<p>人間共生論 新・文明の旅特講a/b 新・文明の旅総合講義 地球環境論/II 初年次ゼミナールa/b コミュニケーション概論 日本語表現法入門 健康の科学 スポーツ シーズンズポーツ 哲学/II 芸術/II 比較教育学 マーケティング概論a/b 経済学a/b 社会学 外国文学 経営学 a/b 法学 ジェンダー論 日本国憲法 近現代史 西洋史 比較文化論I/II 日本語学概論a/b Cool Japan Japan and International Community Japanese Society Religion in Japan データサイエンス入門 情報処理演習a/b 情報処理概論a/b 世界の言語と文化</p>	<p>国際情勢I/II 児童心理学 日本語表現法応用I/II アニメーション論 表参論 Conference English 翻訳入門a/b グローバル社会と法 教育人間学 コミュニケーション心理学 Screen English a/b Media English a/b ITシステム論 データサイエンス応用 Web作成技法 簿記会計学 ドイツ社会概論 異文化コミュニケーションa/b Cross Cultural Communication a/b 教養特講a/b</p>	<p>プログラミンング入門 サイバーセキュリティ概論</p>
第一外国語	<p>中国語初級Ia/Ib 中国語初級総合a/b 韓国・朝鮮語初級Ia/Ib 韓国・朝鮮語初級総合a/b スペイン語初級Ia/Ib スペイン語初級総合a/b フランス語初級Ia/Ib フランス語初級総合a/b</p>	<p>中国語初級IIa/IIb 中国語中級a/b 韓国・朝鮮語初級IIa/IIb 韓国・朝鮮語中級a/b スペイン語初級IIa/IIb スペイン語中級a/b フランス語初級IIa/IIb フランス語中級a/b</p>	<p>中国語上級a/b 韓国・朝鮮語上級a/b スペイン語上級a/b フランス語上級a/b</p>
キャリア	<p>キャリアデザインI キャリアデザインII インターンシップI/III/IV/VI(海外)</p>	<p>キャリアデザインIII</p>	<p>キャリアデザインIV</p>

科目ナンバリング

科目ナンバリングとは、授業科目のそれぞれに番号を付け、学修の段階や順序を示したものです。外国語学部の場合は、以下の図のように、科目毎に、科目グループ（4桁のアルファベット）、配当年次（何年次に履修することが想定されているか）、単位数、個々の科目を特定する番号からなるナンバリングを付しています。

外国語学部科目ナンバリングの体系（その1）



外国語学部科目ナンバリングの体系（その2）

科目区分	ナンバリング
大学特別科目	UNIV
英語コミュニケーション科目	EGLS
基礎総合力科目	BASC
キャリア科目	CARR
教養科目	BSIC
情報処理科目	INFO
第二外国語科目	DNGG
専門科目／英語教育コース	ENTC
専門科目／国際ビジネスコース	BSNS
専門科目／国際文化コース	CLTR
専門科目／国際協力コース	INCP
ゼミナール・卒業研究	SEMI
留学・他大学等科目	ABRD
教職課程科目	EDUP

〔基本科目〕

区分	授業科目	単位 区分	科目 グループ	配当 年次	単位 数	科目の 特定	ナンバリング	
大学特別科目	人間共生論	必修	UNIV	1	2	01	UNIV1201	
	新・文明の旅特講 a	選択	UNIV	1	2	11	UNIV1211	
	新・文明の旅特講 b	選択	UNIV	1	2	12	UNIV1212	
	新・文明の旅総合講義	選択	UNIV	1	2	13	UNIV1213	
	地球環境論 I	選択	UNIV	1	2	21	UNIV1221	
	地球環境論 II	選択	UNIV	1	2	22	UNIV1222	
	データサイエンス入門	選択	UNIV	1	2	23	UNIV1223	
英語コミュニケーション科目	Communicative English I - a	必修	EGLS	1	2	01	EGLS1201	
	Communicative English I - b	必修	EGLS	1	2	02	EGLS1202	
	Communicative English II - a	必修	EGLS	2	2	03	EGLS2203	
	Communicative English II - b	必修	EGLS	2	2	04	EGLS2204	
	Reading I - a	必修	EGLS	1	1	05	EGLS1105	
	Reading I - b	必修	EGLS	1	1	06	EGLS1106	
	Reading II - a	必修	EGLS	2	1	07	EGLS2107	
	Reading II - b	必修	EGLS	2	1	08	EGLS2108	
	Writing I - a	必修	EGLS	1	1	09	EGLS1109	
	Writing I - b	必修	EGLS	1	1	10	EGLS1110	
	Writing II - a	必修	EGLS	2	1	11	EGLS2111	
	Writing II - b	必修	EGLS	2	1	12	EGLS2112	
	Writing III - a	必修	EGLS	3	1	13	EGLS3113	
	Writing III - b	必修	EGLS	3	1	14	EGLS3114	
	Integrated Skills I - a	必修	EGLS	1	1	15	EGLS1115	
	Integrated Skills I - b	必修	EGLS	1	1	16	EGLS1116	
	Integrated Skills II - a	必修	EGLS	2	1	17	EGLS2117	
	Integrated Skills II - b	必修	EGLS	2	1	18	EGLS2118	
	Oral Communication I - a	必修	EGLS	3	1	19	EGLS3119	
	Oral Communication I - b	必修	EGLS	3	1	20	EGLS3120	
	Oral Communication II - a	必修	EGLS	4	1	21	EGLS4121	
	Oral Communication II - b	必修	EGLS	4	1	22	EGLS4122	
	英語資格講座 I	必修	EGLS	1	1	25	EGLS1125	
	英語資格講座 II	必修	EGLS	1	1	26	EGLS1126	
	Vocabulary Building a	選択	EGLS	1	1	27	EGLS1127	
	Vocabulary Building b	選択	EGLS	1	1	28	EGLS1128	
	eラーニング応用 a	選択	EGLS	1	1	29	EGLS1129	
	eラーニング応用 b	選択	EGLS	1	1	30	EGLS1130	
	TOEIC・英検入門 a	選択	EGLS	1	1	31	EGLS1131	
	TOEIC・英検入門 b	選択	EGLS	1	1	32	EGLS1132	
	TOEIC・英検初級 a	選択	EGLS	1	1	33	EGLS1133	
	TOEIC・英検初級 b	選択	EGLS	1	1	34	EGLS1134	
	TOEIC・英検中級 a	選択	EGLS	1	1	35	EGLS1135	
TOEIC・英検中級 b	選択	EGLS	1	1	36	EGLS1136		
Academic Reading	選択	EGLS	1	1	37	EGLS1137		
Academic Writing	選択	EGLS	1	1	38	EGLS1138		
TOEFL講座 a	選択	EGLS	1	1	39	EGLS1139		
TOEFL講座 b	選択	EGLS	1	1	40	EGLS1140		
Literature	選択	EGLS	2	1	41	EGLS2141		
Applied Writing and Research	選択	EGLS	1	1	42	EGLS1142		
ESP a	必修	EGLS	3	1	43	EGLS3143		
ESP b	必修	EGLS	3	1	44	EGLS3144		
Content-based English a	選択	EGLS	3	1	45	EGLS3145		
基礎総合科目	基礎総合力	初年次セミナー a	必修	BASC	1	1	01	BASC1101
		初年次セミナー b	必修	BASC	1	1	02	BASC1102
		日本語表現法入門	選択	BASC	1	2	03	BASC1203
		コミュニケーション概論	必修	BASC	1	2	04	BASC1204
	キャリア	キャリアデザイン I	必修	CARR	1	2	01	CARR1201
		キャリアデザイン II	必修	CARR	1	2	02	CARR1202
		キャリアデザイン III	必修	CARR	2	2	03	CARR2203
		キャリアデザイン IV	必修	CARR	3	2	04	CARR3204

〔基本科目〕

区分	授業科目	単位 区分	科目 グループ	配当 年次	単位 数	科目の 特定	ナンバリング
基礎 総合 力科目	健康の科学	選択	BSIC	1	2	01	BSIC1201
	スポーツ	選択	BSIC	1	1	02	BSIC1102
	シーズンスポーツ	選択	BSIC	1	1	03	BSIC1103
	哲学 I	選択	BSIC	1	2	04	BSIC1204
	哲学 II	選択	BSIC	1	2	05	BSIC1205
	芸術 I	選択	BSIC	1	2	06	BSIC1206
	芸術 II	選択	BSIC	1	2	07	BSIC1207
	マーケティング概論 a	選択	BSIC	1	2	08	BSIC1208
	マーケティング概論 b	選択	BSIC	1	2	09	BSIC1209
	経済学 a	選択	BSIC	1	2	10	BSIC1210
	経済学 b	選択	BSIC	1	2	11	BSIC1211
	社会学	選択	BSIC	1	2	12	BSIC1212
	外国文学	選択	BSIC	1	2	13	BSIC1213
	経営学 a	選択	BSIC	1	2	16	BSIC1216
	経営学 b	選択	BSIC	1	2	17	BSIC1217
	日本国憲法	選択	BSIC	1	2	18	BSIC1218
	法学	選択	BSIC	1	2	19	BSIC1219
	グローバル社会と法	選択	BSIC	2	2	20	BSIC2220
	比較文化論 I	選択	BSIC	1	2	21	BSIC1221
	比較文化論 II	選択	BSIC	1	2	22	BSIC1222
	日本語学概論 a	選択	BSIC	1	2	23	BSIC1223
	日本語学概論 b	選択	BSIC	1	2	24	BSIC1224
	国際情勢 I	選択	BSIC	2	2	25	BSIC2225
	国際情勢 II	選択	BSIC	2	2	26	BSIC2226
	児童心理学	選択	BSIC	2	2	27	BSIC2227
	日本語表現法応用 I	選択	BSIC	2	2	28	BSIC2228
	日本語表現法応用 II	選択	BSIC	2	2	29	BSIC2229
	ジェンダー論	選択	BSIC	1	2	30	BSIC1230
	アニメーション論	選択	BSIC	2	2	31	BSIC2231
	表象論	選択	BSIC	2	2	32	BSIC2232
	Conference English	選択	BSIC	2	2	33	BSIC2233
	翻訳入門 a	選択	BSIC	2	2	34	BSIC2234
	翻訳入門 b	選択	BSIC	2	2	35	BSIC2235
	教育人間学	選択	BSIC	2	2	36	BSIC2236
	コミュニケーション心理学	選択	BSIC	2	2	37	BSIC2237
	近現代史	選択	BSIC	1	2	38	BSIC1238
	教養特講 a	選択	BSIC	2	2	39	BSIC2239
	教養特講 b	選択	BSIC	2	2	40	BSIC2240
	Screen English a	選択	BSIC	2	2	41	BSIC2241
	Screen English b	選択	BSIC	2	2	42	BSIC2242
	西洋史	選択	BSIC	1	2	43	BSIC1243
	異文化コミュニケーション a	選択	BSIC	2	2	45	BSIC2245
	異文化コミュニケーション b	選択	BSIC	2	2	46	BSIC2246
	Cross Cultural Communication a	選択	BSIC	2	2	47	BSIC2247
	Cross Cultural Communication b	選択	BSIC	2	2	48	BSIC2248
	Media English a	選択	BSIC	2	2	49	BSIC2249
	Media English b	選択	BSIC	2	2	50	BSIC2250
	Japan and International Community	選択	BSIC	1	2	51	BSIC1251
	Religion in Japan	選択	BSIC	1	2	52	BSIC1252
	Japanese Society	選択	BSIC	1	2	53	BSIC1253
	Cool Japan	選択	BSIC	1	2	54	BSIC1254
	比較教育学	選択	BSIC	1	2	55	BSIC1255
	世界の言語と文化	選択	BSIC	1	2	56	BSIC1256
	簿記会計学	選択	BSIC	2	2	57	BSIC2257

履修の手引(2022年度入学者用)

〔基本科目〕

区分	授業科目	単位 区分	科目 グループ	配当 年次	単位 数	科目の 特定	ナンバリング
情報処理	情報処理概論 a	選択	INFO	1	2	01	INFO1201
	情報処理概論 b	選択	INFO	1	2	02	INFO1202
	情報処理演習 a	必修	INFO	1	1	03	INFO1103
	情報処理演習 b	必修	INFO	1	1	04	INFO1104
	データサイエンス応用	選択	INFO	2	1	05	INFO2105
	Web作成技法	選択	INFO	2	1	06	INFO2106
	プログラミング入門	選択	INFO	3	1	07	INFO3107
	サイバーセキュリティ概論	選択	INFO	3	2	08	INFO3208
	ITシステム論	選択	INFO	2	2	09	INFO2209
基礎総合力科目 第二外国語	中国語初級総合 a	選択	DNGG	1	2	01	DNGG1201
	中国語初級総合 b	選択	DNGG	1	2	02	DNGG1202
	韓国・朝鮮語初級総合 a	選択	DNGG	1	2	03	DNGG1203
	韓国・朝鮮語初級総合 b	選択	DNGG	1	2	04	DNGG1204
	中国語初級 I-a	選択	DNGG	1	1	07	DNGG1107
	中国語初級 I-b	選択	DNGG	1	1	08	DNGG1108
	フランス語初級 I-a	選択	DNGG	1	1	09	DNGG1109
	フランス語初級 I-b	選択	DNGG	1	1	10	DNGG1110
	スペイン語初級 I-a	選択	DNGG	1	1	11	DNGG1111
	スペイン語初級 I-b	選択	DNGG	1	1	12	DNGG1112
	ドイツ語初級 I-a	選択	DNGG	1	1	13	DNGG1113
	ドイツ語初級 I-b	選択	DNGG	1	1	14	DNGG1114
	韓国・朝鮮語初級 I-a	選択	DNGG	1	1	15	DNGG1115
	韓国・朝鮮語初級 I-b	選択	DNGG	1	1	16	DNGG1116
	中国語初級 II-a	選択	DNGG	2	1	17	DNGG2117
	中国語初級 II-b	選択	DNGG	2	1	18	DNGG2118
	フランス語初級 II-a	選択	DNGG	2	1	19	DNGG2119
	フランス語初級 II-b	選択	DNGG	2	1	20	DNGG2120
	スペイン語初級 II-a	選択	DNGG	2	1	21	DNGG2121
	スペイン語初級 II-b	選択	DNGG	2	1	22	DNGG2122
	韓国・朝鮮語初級 II-a	選択	DNGG	2	1	23	DNGG2123
	韓国・朝鮮語初級 II-b	選択	DNGG	2	1	24	DNGG2124
	中国語中級 a	選択	DNGG	2	1	27	DNGG2127
	中国語中級 b	選択	DNGG	2	1	28	DNGG2128
	中国語上級 a	選択	DNGG	3	1	29	DNGG3129
	中国語上級 b	選択	DNGG	3	1	30	DNGG3130
	フランス語中級 a	選択	DNGG	2	1	31	DNGG2131
	フランス語中級 b	選択	DNGG	2	1	32	DNGG2132
	フランス語上級 a	選択	DNGG	3	1	33	DNGG3133
	フランス語上級 b	選択	DNGG	3	1	34	DNGG3134
	スペイン語中級 a	選択	DNGG	2	1	35	DNGG2135
	スペイン語中級 b	選択	DNGG	2	1	36	DNGG2136
	スペイン語上級 a	選択	DNGG	3	1	37	DNGG3137
	スペイン語上級 b	選択	DNGG	3	1	38	DNGG3138
	ドイツ語中級 a	選択	DNGG	2	1	39	DNGG2139
	ドイツ語中級 b	選択	DNGG	2	1	40	DNGG2140
	ドイツ語上級 a	選択	DNGG	3	1	41	DNGG3141
	ドイツ語上級 b	選択	DNGG	3	1	42	DNGG3142
	韓国・朝鮮語中級 a	選択	DNGG	2	1	43	DNGG2143
	韓国・朝鮮語中級 b	選択	DNGG	2	1	44	DNGG2144
	韓国・朝鮮語上級 a	選択	DNGG	3	1	45	DNGG3145
	韓国・朝鮮語上級 b	選択	DNGG	3	1	46	DNGG3146

履修の手引(2022年度入学者用)

〔専門科目〕

区分	授業科目	単位 区分	科目 グループ	配当 年次	単位 数	科目の 特定	ナンバリング		
国際ビジネスコミュニケーション専攻	国際ビジネスコース	コース専門科目	国際ビジネスコース概論	選択	BSNS	2	2	01	BSNS2201
			国際ビジネスフィールドワークⅠ	選択	BSNS	3	2	02	BSNS3202
			国際ビジネスフィールドワークⅡ	選択	BSNS	3	2	03	BSNS3203
			Business Planning	選択	BSNS	3	2	05	BSNS3205
			Business case method	選択	BSNS	3	2	06	BSNS3206
			国際ビジネス特講Ⅱーa	選択	BSNS	2	2	07	BSNS2207
		国際ビジネス特講Ⅱーb	選択	BSNS	2	2	08	BSNS2208	
		Japanese Business	選択	BSNS	2	2	09	BSNS2209	
		国際アカウンティング	選択	BSNS	2	2	10	BSNS2210	
		ビジネスライティング	選択	BSNS	2	2	11	BSNS2211	
		国際経済論a	選択	BSNS	2	2	12	BSNS2212	
		国際経済論b	選択	BSNS	2	2	13	BSNS2213	
		国際ビジネス取引	選択	BSNS	2	2	14	BSNS2214	
		環境とビジネス	選択	BSNS	2	2	15	BSNS2215	
		国際政治経済論a	選択	BSNS	3	2	16	BSNS3216	
	国際政治経済論b	選択	BSNS	3	2	17	BSNS3217		
	グローバルビジネス戦略a	選択	BSNS	3	2	18	BSNS3218		
	グローバルビジネス戦略b	選択	BSNS	3	2	19	BSNS3219		
	国際マーケティング環境	選択	BSNS	3	2	20	BSNS3220		
	国際マーケティング戦略	選択	BSNS	3	2	21	BSNS3221		
	国際観光ビジネス論	選択	BSNS	3	2	22	BSNS3222		
	ホスピタリティ・コミュニケーション論	選択	BSNS	3	2	23	BSNS3223		
	ホテル・旅館論	選択	BSNS	2	2	24	BSNS2224		
	国際ビジネスと法	選択	BSNS	2	2	25	BSNS2225		
	英文契約書読解	選択	BSNS	3	2	26	BSNS3226		
	人的資源管理論	選択	BSNS	2	2	28	BSNS2228		
	マネーと社会生活	選択	BSNS	2	2	31	BSNS2231		
	組織とコミュニケーション	選択	BSNS	2	2	32	BSNS2232		
	国際ビジネス特講Ⅰーa	選択	BSNS	3	2	29	BSNS3229		
	国際ビジネス特講Ⅰーb	選択	BSNS	2	2	30	BSNS2230		
国際教養コミュニケーション専攻	国際協力コース	コース専門科目	国際協力コース概論	選択	INCP	2	2	01	INCP2201
			国際協力フィールドワークⅠ	選択	INCP	3	2	02	INCP3202
			国際協力フィールドワークⅡ	選択	INCP	3	2	03	INCP3203
			国際協力フィールドワーク実践	選択	INCP	3	2	04	INCP3204
			国際協力特講Ⅱーa	選択	INCP	2	2	05	INCP2205
			国際協力特講Ⅱーb	選択	INCP	2	2	06	INCP2206
		Social Development in Japan	選択	INCP	2	2	07	INCP2207	
		国際文化協力	選択	INCP	2	2	08	INCP2208	
		国際機構論	選択	INCP	2	2	25	INCP2225	
		国際関係論Ⅰ	選択	INCP	2	2	11	INCP2211	
		国際関係論Ⅱ	選択	INCP	2	2	12	INCP2212	
		NPO・NGO論	選択	INCP	2	2	13	INCP2213	
	地域研究Ⅰ	選択	INCP	2	2	14	INCP2214		
	地域研究Ⅱ	選択	INCP	2	2	15	INCP2215		
	国際人権法	選択	INCP	2	2	16	INCP2216		
	平和研究	選択	INCP	3	2	17	INCP3217		
	ジェンダーと開発	選択	INCP	2	2	18	INCP2218		
	国際理解・地球市民教育論	選択	INCP	2	2	19	INCP2219		
	国際社会開発論	選択	INCP	2	2	20	INCP2220		
	開発経済学	選択	INCP	2	2	21	INCP2221		
	農村開発論	選択	INCP	2	2	22	INCP2222		
	国際協力特講Ⅰーa	選択	INCP	2	2	23	INCP2223		
	国際協力特講Ⅰーb	選択	INCP	2	2	24	INCP2224		

履修の手引(2022年度入学者用)

〔専門科目〕

区分	授業科目	単位 区分	科目 グループ	配当 年次	単位 数	科目の 特定	ナンバリング
国際教養コミュニケーション専攻	英語教育コース 両専攻共通科目	英語教育コース概論	選択	ENTC	2	01	ENTC2201
		児童英語教育実習 a	選択	ENTC	2	02	ENTC2202
		児童英語教育実習 b	選択	ENTC	2	03	ENTC2203
		英語教育特講Ⅱ－a	選択	ENTC	3	04	ENTC3204
		英語教育特講Ⅱ－b	選択	ENTC	3	05	ENTC3205
		児童英語教育論	選択	ENTC	2	06	ENTC2206
		児童英語教育教材論	選択	ENTC	2	07	ENTC2207
		英語音声学・音韻論 a	選択	ENTC	2	08	ENTC2208
		英語音声学・音韻論 b	選択	ENTC	2	09	ENTC2209
		英語学 a	選択	ENTC	2	10	ENTC2210
		英語学 b	選択	ENTC	2	11	ENTC2211
		英語史 a	選択	ENTC	2	12	ENTC2212
		英語史 b	選択	ENTC	2	13	ENTC2213
		英語学習理論	選択	ENTC	2	14	ENTC2214
	英語教育特講Ⅰ－a	選択	ENTC	2	15	ENTC2215	
	英語教育特講Ⅰ－b	選択	ENTC	2	16	ENTC2216	
	学校インターンシップ	選択	ENTC	2	17	ENTC2217	
	English as a Lingua Franca	選択	ENTC	2	18	ENTC2218	
	Intercultural Communication	選択	ENTC	2	19	ENTC2219	
	Cool Japan Intercultural Comparative Studies a	選択	ENTC	2	20	ENTC2220	
	Cool Japan Intercultural Comparative Studies b	選択	ENTC	2	21	ENTC2221	
国際文化コース 両専攻共通科目	国際文化コース概論	選択	CLTR	2	01	CLTR2201	
	国際文化フィールドワーク	選択	CLTR	3	02	CLTR3202	
	国際文化フィールドワーク実践Ⅰ	選択	CLTR	2	03	CLTR2203	
	国際文化フィールドワーク実践Ⅱ	選択	CLTR	2	04	CLTR2204	
	国際文化フィールドワーク実践Ⅲ	選択	CLTR	3	05	CLTR3205	
	国際文化特講Ⅱ－a	選択	CLTR	2	06	CLTR2206	
	国際文化特講Ⅱ－b	選択	CLTR	2	07	CLTR2207	
	Japanese Literature and Performing Arts	選択	CLTR	2	08	CLTR2208	
	イギリス文学 a	選択	CLTR	2	09	CLTR2209	
	イギリス文学 b	選択	CLTR	2	10	CLTR2210	
	American Government a	選択	CLTR	2	11	CLTR2211	
	American Government b	選択	CLTR	2	12	CLTR2212	
	社会言語学 a	選択	CLTR	2	13	CLTR2213	
	社会言語学 b	選択	CLTR	2	14	CLTR2214	
	対照言語学 a	選択	CLTR	3	15	CLTR3215	
	対照言語学 b	選択	CLTR	3	16	CLTR3216	
	イギリス文化論 a	選択	CLTR	2	17	CLTR2217	
	イギリス文化論 b	選択	CLTR	2	18	CLTR2218	
	アメリカ文化論 a	選択	CLTR	2	19	CLTR2219	
	アメリカ文化論 b	選択	CLTR	2	20	CLTR2220	
	アメリカ文学 a	選択	CLTR	3	21	CLTR3221	
アメリカ文学 b	選択	CLTR	3	22	CLTR3222		
イギリス史 a	選択	CLTR	2	29	CLTR2229		
イギリス史 b	選択	CLTR	2	30	CLTR2230		
日本文化論	選択	CLTR	2	31	CLTR2231		
演劇論	選択	CLTR	2	32	CLTR2232		
国際文化特講Ⅰ－a	選択	CLTR	2	27	CLTR2227		
国際文化特講Ⅰ－b	選択	CLTR	2	28	CLTR2228		
共通	ゼミナール a	必修	SEMI	3	01	SEMI3201	
	ゼミナール b	必修	SEMI	3	02	SEMI3202	
	卒業研究 a	必修	SEMI	4	03	SEMI4203	
	卒業研究 b	必修	SEMI	4	04	SEMI4204	

ナンバリング

区分	授業科目	単位 区分	科目 グループ	配当 年次	単位 数	科目の 特定	ナンバリング
実務資格科目	インターンシップⅠ（国内）	選択	INTS	1	2	01	INTS1201
	インターンシップⅡ（海外）	選択	INTS	1	2	02	INTS1202
	インターンシップⅢ（国内）	選択	INTS	1	4	03	INTS1403
	インターンシップⅣ（海外）	選択	INTS	1	4	04	INTS1404
	インターンシップⅤ（国内）	選択	INTS	1	6	05	INTS1605
インターンシップⅥ（海外）	選択	INTS	1	6	06	INTS1606	
海外留学等科目	海外セメスター語学（英語）研修Ⅰ	選択	ABRD	1	4	01	ABRD1401
	海外セメスター語学（英語外）研修Ⅰ	選択	ABRD	1	4	02	ABRD1402
	海外語学（英語）研修Ⅰ	選択	ABRD	1	2	03	ABRD1203
	海外語学（英語）研修Ⅱ	選択	ABRD	1	2	04	ABRD1204
	海外語学（英語外）研修Ⅰ	選択	ABRD	1	2	05	ABRD1205
	海外語学（英語外）研修Ⅱ	選択	ABRD	1	2	06	ABRD1206
	国内語学研修	選択	ABRD	1	2	07	ABRD1207
	海外個人フィールドワーク（英語）Ⅰ a	選択	ABRD	1	2	08	ABRD1208
	海外個人フィールドワーク（英語）Ⅰ b	選択	ABRD	1	2	09	ABRD1209
	海外個人フィールドワーク（日本語）Ⅰ a	選択	ABRD	1	2	10	ABRD1210
海外個人フィールドワーク（日本語）Ⅰ b	選択	ABRD	1	2	11	ABRD1211	
教職課程科目	教職論	選択	EDUP	1	2	01	EDUP1201
	教育原理	選択	EDUP	1	2	02	EDUP1202
	特別活動の指導法	選択	EDUP	1	2	03	EDUP1203
	教育心理学	選択	EDUP	1	2	04	EDUP1204
	教育行政学	選択	EDUP	2	2	05	EDUP2205
	特別支援教育	選択	EDUP	2	1	06	EDUP2106
	教育課程論	選択	EDUP	2	2	07	EDUP2207
	道徳教育の指導法	選択	EDUP	3	2	08	EDUP3208
	教育の方法及び技術（ICTの活用含む。）	選択	EDUP	2	2	09	EDUP2209
	生徒指導論（進路指導を含む）	選択	EDUP	2	2	10	EDUP2210
	教育相談（カウンセリングを含む）	選択	EDUP	2	2	11	EDUP2211
	英語科教育法Ⅰ	選択	EDUP	3	2	12	EDUP3212
	英語科教育法Ⅱ	選択	EDUP	3	2	13	EDUP3213
	英語科教育法Ⅲ	選択	EDUP	3	2	14	EDUP3214
	英語科教育法Ⅳ	選択	EDUP	4	2	15	EDUP4215
	教育実習の指導	選択	EDUP	3	1	16	EDUP3116
	教職実践演習	選択	EDUP	4	2	17	EDUP4217
教育実習Ⅰ	選択	EDUP	4	2	18	EDUP4218	
教育実習Ⅱ	選択	EDUP	4	2	19	EDUP4219	
外国人交換 留学生科目	Basic JapaneseⅠ	選択			1	4	
	Basic JapaneseⅡ	選択			1	4	
	Basic JapaneseⅢ	選択			1	4	

履修の手引（2022年度入学者用）

カリキュラム表：授業科目と単位数

* 留学特待生プログラムの学生については一部異なるので、「外国語学部留学特待生プログラム規程」を参照。

* (共)は、経営学部との共通科目です。

区分	授業科目	履修学年	単位数		
			必修	選択	
大学特別科目	人間共生論	1	2		
	新・文明の旅特講 a (共)	1		2	
	新・文明の旅特講 b (共)	1		2	
	新・文明の旅総合講義 (共)	1		2	
	地球環境論 I (共)	1		2	
	地球環境論 II (共)	1		2	
	データサイエンス入門 (共)	1		2	
英語コミュニケーション科目	基礎	Communicative English I - a	1	2	
		Communicative English I - b	1	2	
		Reading I - a	1	1	
		Reading I - b	1	1	
		Writing I - a	1	1	
		Writing I - b	1	1	
		Integrated Skills I - a	1	1	
		Integrated Skills I - b	1	1	
		英語資格講座 I	1	1	
		英語資格講座 II	1	1	
		Communicative English II - a	2	2	
		Communicative English II - b	2	2	
		Reading II - a	2	1	
		Reading II - b	2	1	
		Writing II - a	2	1	
		Writing II - b	2	1	
		Integrated Skills II - a	2	1	
		Integrated Skills II - b	2	1	
		Writing III - a	3	1	
		Writing III - b	3	1	
		ESP a	3	1	
		ESP b	3	1	
		Oral Communication I - a	3	1	
		Oral Communication I - b	3	1	
		Oral Communication II - a	4	1	
		Oral Communication II - b	4	1	
		Content-based English a	3		1
		e ラーニング応用 a	1		1
		e ラーニング応用 b	1		1
		Vocabulary Building a	1		1
		Vocabulary Building b	1		1
		TOEIC・英検入門 a	1		1
TOEIC・英検入門 b	1		1		
TOEIC・英検初級 a	1		1		
TOEIC・英検初級 b	1		1		
TOEIC・英検中級 a	1		1		
TOEIC・英検中級 b	1		1		

授業科目と単位数

区分		授業科目	履修学年	単位数		
				必修	選択	
英語コミュニケーション科目	基礎	TOEFL 講座 a	1		1	
		TOEFL 講座 b	1		1	
		Academic Reading	1		1	
		Academic Writing	1		1	
		Applied Writing and Research	1		1	
		Literature	2		1	
基礎総合科目	基礎総合力	初年次セミナー a	1	1		
		初年次セミナー b	1	1		
		コミュニケーション概論	1	2		
		日本語表現法入門 (共)	1		2	
	キャリア	キャリアデザインⅠ	1	2		
		キャリアデザインⅡ	1	2		
		キャリアデザインⅢ	2	2		
		キャリアデザインⅣ	3	2		
	基礎総合力科目	教養	健康の科学 (共)	1		2
			ジェンダー論 (共)	1		2
			哲学Ⅰ	1		2
			哲学Ⅱ	1		2
			芸術Ⅰ (共)	1		2
			芸術Ⅱ (共)	1		2
			外国文学	1		2
			日本語学概論 a	1		2
			日本語学概論 b	1		2
			西洋史	1		2
			近現代史	1		2
			比較文化論Ⅰ (共)	1		2
			比較文化論Ⅱ (共)	1		2
			法学	1		2
			日本国憲法	1		2
			経済学 a	1		2
			経済学 b	1		2
			経営学 a	1		2
			経営学 b	1		2
			マーケティング概論 a	1		2
			マーケティング概論 b	1		2
			社会学	1		2
比較教育学			1		2	
世界の言語と文化			1		2	
スポーツ (共)			1		1	
シーズンスポーツ (共)			1		1	
Cool Japan	1		2			
Japan and International Community	1		2			
Japanese Society	1		2			
Religion in Japan	1		2			
グローバル社会と法	2		2			

履修の手引(2022年度入学者用)

区分	授業科目	履修学年	単位数	
			必修	選択
基礎 総合 力 科 目	翻訳入門 a	2		2
	翻訳入門 b	2		2
	Screen English a	2		2
	Screen English b	2		2
	Conference English	2		2
	日本語表現法応用 I	2	〈共〉	2
	日本語表現法応用 II	2	〈共〉	2
	アニメーション論	2		2
	表象論	2		2
	国際情勢 I	2		2
	国際情勢 II	2		2
	コミュニケーション心理学	2		2
	児童心理学	2		2
	教育人間学	2		2
	教養特講 a	2		2
	教養特講 b	2		2
	異文化コミュニケーション a	2		2
	異文化コミュニケーション b	2		2
	Cross Cultural Communication a	2		2
	Cross Cultural Communication b	2		2
Media English a	2		2	
Media English b	2		2	
簿記会計学	2		2	
情報 処理	情報処理演習 a	1	1	
	情報処理演習 b	1	1	
	情報処理概論 a	1		2
	情報処理概論 b	1		2
	I Tシステム論	2	〈共〉	2
	データサイエンス応用	2		1
	Web 作成技法	2		1
	サイバーセキュリティ概論	3		2
	プログラミング入門	3		1
	第二 外国 語	中国語初級総合 a	1	
中国語初級総合 b		1		2
韓国・朝鮮語初級総合 a		1		2
韓国・朝鮮語初級総合 b		1		2
中国語初級 I - a		1		1
中国語初級 I - b		1		1
フランス語初級 I - a		1	〈共〉	1
フランス語初級 I - b		1	〈共〉	1
スペイン語初級 I - a		1	〈共〉	1
スペイン語初級 I - b		1	〈共〉	1
韓国・朝鮮語初級 I - a		1	〈共〉	1
韓国・朝鮮語初級 I - b		1	〈共〉	1

授業科目と単位数

区分		授業科目	履修学年	単位数	
				必修	選択
基礎総合力科目	第二外国語	中国語初級Ⅱ－a	2		1
		中国語初級Ⅱ－b	2		1
		フランス語初級Ⅱ－a	2	〈共〉	1
		フランス語初級Ⅱ－b	2	〈共〉	1
		スペイン語初級Ⅱ－a	2	〈共〉	1
		スペイン語初級Ⅱ－b	2	〈共〉	1
		韓国・朝鮮語初級Ⅱ－a	2	〈共〉	1
		韓国・朝鮮語初級Ⅱ－b	2	〈共〉	1
		中国語中級 a	2		1
		中国語中級 b	2		1
		フランス語中級 a	2		1
		フランス語中級 b	2		1
		スペイン語中級 a	2		1
		スペイン語中級 b	2		1
		韓国・朝鮮語中級 a	2		1
		韓国・朝鮮語中級 b	2		1
		中国語上級 a	3		1
		中国語上級 b	3		1
		フランス語上級 a	3		1
		フランス語上級 b	3		1
		スペイン語上級 a	3		1
		スペイン語上級 b	3		1
		韓国・朝鮮語上級 a	3		1
韓国・朝鮮語上級 b	3		1		
専門科目	コース専門科目	国際ビジネスコース概論	2		2
		国際ビジネス特講Ⅱ－a	2		2
		国際ビジネス特講Ⅱ－b	2		2
		国際ビジネスフィールドワークⅠ	3		2
		国際ビジネスフィールドワークⅡ	3		2
		Business Planning	3		2
		Business case method	3		2
		国際ビジネスコース 両専攻共通科目	Japanese Business	2	
	国際アカウンティング		2		2
	ビジネスライティング		2		2
	国際経済論 a		2	〈共〉	2
	国際経済論 b		2	〈共〉	2
	国際ビジネス取引		2		2
	環境とビジネス		2		2
	ホテル・旅館論		2		2
	人的資源管理論		2		2
	マネーと社会生活		2		2
	組織とコミュニケーション		2		2
	国際政治経済論 a		3		2
	国際政治経済論 b	3		2	
グローバルビジネス戦略 a	3		2		
グローバルビジネス戦略 b	3		2		

区分	授業科目		履修学年	単位数		
				必修	選択	
専門科目	国際ビジネスコース	両専攻共通科目	国際マーケティング環境	3		2
			国際マーケティング戦略	3		2
			国際観光ビジネス論	3		2
			ホスピタリティ・コミュニケーション論	3		2
			国際ビジネスと法	3		2
			英文契約書読解	3		2
			国際ビジネス特講Ⅰ-a	2		2
			国際ビジネス特講Ⅰ-b	2		2
	国際文化コース	コース専門科目	国際文化コース概論	2		2
			国際文化フィールドワーク	3		2
			国際文化フィールドワーク実践Ⅰ	2		2
			国際文化フィールドワーク実践Ⅱ	2		2
			国際文化フィールドワーク実践Ⅲ	3		2
			国際文化特講Ⅱ-a	3		2
			国際文化特講Ⅱ-b	3		2
	国際文化コース	両専攻共通科目	Japanese Literature and Performing Arts	2		2
			イギリス文学 a	2		2
			イギリス文学 b	2		2
			American Government a	2		2
			American Government b	2		2
			イギリス文化論 a	2		2
			イギリス文化論 b	2		2
			アメリカ文化論 a	2		2
			アメリカ文化論 b	2		2
			アメリカ文学 a	3		2
			アメリカ文学 b	3		2
			イギリス史 a	2		2
			イギリス史 b	2		2
			日本文化論	2		2
			演劇論	2		2
			国際文化特講Ⅰ-a	2		2
			国際文化特講Ⅰ-b	2		2
			社会言語学 a	2		2
社会言語学 b	2		2			
対照言語学 a	3		2			
対照言語学 b	3		2			
英語教育コース	コース専門科目	英語教育コース概論	1		2	
		児童英語教育実習 a	2		2	
		児童英語教育実習 b	2		2	
		英語教育特講Ⅱ-a	3		2	
		英語教育特講Ⅱ-b	3		2	

授業科目と単位数

区分	授業科目		履修学年	単位数		
				必修	選択	
英語教育コース	両専攻共通科目	児童英語教育論	2		2	
		児童英語教育教材論	2		2	
		英語音声学・音韻論 a	2		2	
		英語音声学・音韻論 b	2		2	
		英語学 a	2		2	
		英語学 b	2		2	
		英語学習理論	2		2	
		異文化間教育学	2		2	
		英語教育特講Ⅰ－a	2		2	
		英語教育特講Ⅰ－b	2		2	
		学校インターンシップ	2		2	
		English as a Lingua Franca	2		2	
		Intercultural Communication	2		2	
		Cool Japan Intercultural Comparative Studies a	2		2	
		Cool Japan Intercultural Comparative Studies b	2		2	
		英語史 a	3		2	
		英語史 b	3		2	
専攻科目	コース専門科目	国際協力コース概論	1		2	
		国際協力特講Ⅱ－a	2		2	
		国際協力特講Ⅱ－b	2		2	
		国際協力フィールドワークⅠ	3		2	
		国際協力フィールドワークⅡ	3		2	
		国際協力フィールドワーク実践	3		2	
	国際協力コース	両専攻共通科目	Social Development in Japan	2		2
			国際文化協力	2		2
			国際機構論	2		2
			国際関係論Ⅰ	2		2
			国際関係論Ⅱ	2		2
			NPO・NGO論	2		2
共通		地域研究Ⅰ	2		2	
		地域研究Ⅱ	2		2	
		国際人権法	2		2	
		ジェンダーと開発	2		2	
		国際理解・地球市民教育論	2		2	
		国際社会開発論	2		2	
		開発経済学	2		2	
		農村開発論	2		2	
		国際協力特講Ⅰ－a	2		2	
		国際協力特講Ⅰ－b	2		2	
		平和研究	3		2	
		ゼミナール a	3	2		
ゼミナール b	3	2				
卒業研究 a	4	2				
卒業研究 b	4	2				

履修の手引(2022年度入学者用)

区分	授業科目	履修学年	単位数	
			必修	選択
実務資格科目	インターンシップⅠ（国内）	1		2
	インターンシップⅡ（海外）	1		2
	インターンシップⅢ（国内）	1		4
	インターンシップⅣ（海外）	1		4
	インターンシップⅤ（国内）	1		6
	インターンシップⅥ（海外）	1		6
留学・他大学等科目	海外語学（英語）研修Ⅰ	1		2
	海外語学（英語）研修Ⅱ	1		2
	海外語学（英語外）研修Ⅰ	1		2
	海外語学（英語外）研修Ⅱ	1		2
	国内語学研修	1		2
	海外 Semester 語学（英語）研修Ⅰ	1		4
	海外 Semester 語学（英語外）研修Ⅰ	1		4
	海外個人フィールドワーク（英語）Ⅰ a	1		2
	海外個人フィールドワーク（英語）Ⅰ b	1		2
	海外個人フィールドワーク（日本語）Ⅰ a	1		2
海外個人フィールドワーク（日本語）Ⅰ b	1		2	
教職課程科目（※）	教職論（チーム学校への対応を含む）	1		2
	教育原理	1		2
	特別活動の指導法（総合的な学習の時間を含む）	1		2
	教育心理学	1		2
	教育行政学（地域連携と学校安全を含む）	2		2
	特別支援教育	2		1
	教育課程論	2		2
	道徳教育の指導法	3		2
	教育の方法及び技術（ICTの活用含む）	2		2
	生徒指導論（進路指導を含む）	2		2
	教育相談（カウンセリングを含む）	2		2
	英語科教育法Ⅰ	3		2
	英語科教育法Ⅱ	3		2
	英語科教育法Ⅲ	3		2
	英語科教育法Ⅳ	4		2
	教育実習の指導	3		1
	教職実践演習（中・高）	4		2
	教育実習Ⅰ	4		2
教育実習Ⅱ	4		2	
留学生科目交換	Basic JapaneseⅠ（留学生のみ）	1		4
	Basic JapaneseⅡ（留学生のみ）	1		4
	Basic JapaneseⅢ（留学生のみ）	1		4

※教職課程科目は卒業に必要な単位に含めることができない。



履修の手引

(2021年度入学者用)



カリキュラム・卒業要件

1. 学士（コミュニケーション）

卒業要件を充足し、卒業することによって「学士（コミュニケーション）」の学位が授与されます。

2. 4 年以上の在学期間と128以上の総単位数が必要です。

原則として4 年以上在学し、その期間内に総単位数として128単位以上修得することが必要です。たとえば休学などの1 学期以上の休学期間により、在学期間が中断する場合には、その休学期間を除いて、4 年以上在学することが必要です。

3. 科目と単位

科目の開講期間は半期です。

科目には必修と選択の区別があります。必修科目は、卒業するために必ず履修し、その単位を修得することが必要です。そのクラス、時間割、教室はあらかじめ決められています。選択科目は、特定の科目群から自分で選択した科目を履修し、その単位を修得する科目です。卒業に必要な単位数は、科目群によってそれぞれ異なります。

また、外国語学部の学生だけが履修する科目のほかに、外国語学部と経営学部の学生が履修する科目があります。これらの共通開設科目と呼ばれるものは、選択科目に多くあります。

半期の科目の単位数はそのほとんどが1 単位あるいは2 単位です。また教職課程科目群に属する科目は、履修し修得した単位を卒業単位（卒業に必要な単位）として数えることができません。

一般的に、科目を履修し単位を修得するためには、科目の履修登録、授業への出席・参加、レポートや試験など学期末の課題における合格点が要求されます。これらについては、このあとの説明を読んでください。科目により違いがありますので、各科目の具体的な履修条件については、シラバスで確認するか、担当教員に直接確かめてください。

4. 次の5つの分野から必要な科目を履修し、その単位を修得します。

外国語学部英語コミュニケーション学科のカリキュラムは、次の1～5の5分野からなります。各分野に属する科目の種類については、カリキュラム表を（p.72～78）ご覧ください。

- (1) 大学特別科目
- (2) 英語コミュニケーション科目
- (3) 基礎総合力科目
- (4) 専門科目
- (5) その他

上の5分野において、それぞれ必要な科目を履修し、その単位を修得します。

履修する科目の種類や修得する単位数など、卒業に必要な条件は分野ごとに決められています。それについては、このあとの部分で説明します。

また、各分野で必要とされる科目だけを履修し、その単位を修得し、各分野の卒業要件を満たしても、その合計単位数は卒業に必要な総単位数128に届きません。したがって各分野で必要とされる単位数を越えて、科目を履修し単位を修得することが必要です。ただし教職課程科目の単位を卒業単位に含めることはできません。

5. 大学特別科目【卒業要件：必修1科目 / 2単位】

大学特別科目には必修科目と選択科目があります。「人間共生論」を履修し、その単位を修得することが必要です。

6. 英語コミュニケーション科目【卒業要件：必修26科目 / 30単位】

英語コミュニケーション科目には、必修科目と選択科目があります。必修科目としては、以下の科目があります。但し、留学特待生プログラムの科目については別に定めます。

英語コミュニケーション科目学年別必修科目一覧表

1年	Communicative English I - a	Reading I - a	Writing I - a	Integrated Skills I - a	英語資格講座 I	英語資格講座 II		
	↓	↓	↓	↓				
2年	Communicative English I - b	Reading I - b	Writing I - b	Integrated Skills I - b				
	↓	↓	↓	↓				
3年	Communicative English II - a	Reading II - a	Writing II - a	Integrated Skills II - a				
	↓	↓	↓	↓				
3年	Communicative English II - b	Reading II - b	Writing II - b	Integrated Skills II - b			ESP a	ESP b
	↓		↓					
4年	Oral Communication I - a		Writing III - a					
	↓		↓					
4年	Oral Communication I - b		Writing III - b					
	↓							
4年	Oral Communication II - a							
	↓							
4年	Oral Communication II - b							
	↓							

内容に関する詳しい説明は各科目のシラバスを参考にしてください。

【注意事項】

- (1) 「Communicative English」は週2回授業を受ける。
- (2) 「英語資格講座 I」は、2年次終了までに TOEIC で 400 点または英検準 2 級以上を取得することで、受講することなしに単位が認定される。成績評価は「N(認定)」のみとする。2年次終了までにこの条件を満たせなかった場合は、3年次に授業を開講（前期・後期に開講）するので、受講して、単位を修得する。
 - ① 本学で実施する TOEIC で 400 点以上を取得した場合は、そのスコアに基づいて単位が認定される。
 - ② 上記以外に TOEIC ないし英検を受験し単位認定基準を満たした場合は、BLEC に証明書原本とその写しを持って手続きを行うことにより認定される。学生は学内で年 2 回実施される TOEIC を受験すること。
- (3) 「英語資格講座 II」は、集中講義形式で開講し、成績評価は「N(認定)」のみとする。4年次後期授業終了時(1月末)までに TOEIC で 500 点または英検 2 級以上を取得することで、受講することなしに単位が認定される。4年次後期授業終了時までこの条件を満たせなかった場合は、4年次春季休暇中に集中講義形式で受講する。

本学で実施する TOEIC で 500 点以上を取得した場合は、そのスコアに基づいて単位が認定される。上記以外に TOEIC ないし英検を受験し単位認定基準を満たした場合は、BLEC に証明書原本とその写しを持って手続きを行うことにより認定される。学生は学内で年 2 回実施される TOEIC を受験すること。

なお、「英語資格講座 II」の受講には、4年次前期終了時まで、「英語資格講座 I」の単位を修得していることが必要である。

- (4) 英語コミュニケーション必修科目の履修については、原則として定められた順序どおりに履修を行うものとし、再履修であっても順序を逆転して履修することはできない。科目名にⅠ、Ⅱ、Ⅲの数字があるものはその順序に従い履修するものとし、数字が異なる科目を同年度に履修することは認めない。科目名にa(前期)、b(後期)のアルファベット記号があるものはその順序に従い履修するものとする。b、aの順序で履修することは認めない。

ただし、「ESP」と「Oral Communication」の履修については、それぞれ以下のように定める。

「ESP」の履修はa、bの順序でなくてもよい。

「Oral Communication」の履修は、Ⅰ、Ⅱの順序に従うが、Ⅰの単位が修得できなかった場合にはⅠとⅡを同年度に履修してもよい。ただしa、bの履修については、Ⅰはa、bの順序に従うものとするが、Ⅱはa、bの順序でなくてもよい。

- (5) 高い英語力をもつ学生の英語コミュニケーション科目の履修免除と単位認定については別に定める。

- (6) 選択科目としては、以下の科目がある。

「eラーニング応用 a,b」、「Vocabulary Building a,b」、「TOEIC・英検入門 a,b」、「TOEIC・英検初級 a,b」、「TOEIC・英検中級 a,b」、「TOEFL講座 a,b」、「Academic Reading」、「Academic Writing」、「Applied Writing and Research」、「Literature」、「Content-based English a」

これらの科目には履修条件があるものもあるので、シラバスを参照すること。選択科目は、a、bの順で履修する必要はなく、またa、bのどちらかのみを履修することもできる。

7. 基礎総合力科目

基礎総合力科目は以下の(1)～(5)の5つの科目群に分類されます。各科目群に属する科目の名称、履修学年、必修・選択の区別、単位数については、カリキュラム表をご覧ください。

(1) 基礎総合力科目群【卒業要件：必修3科目 / 4単位】

基礎総合力科目群の科目は必修科目と選択科目があります。「初年次セミナー a,b」と「コミュニケーション概論」は、必修科目であり、履修し、その単位を修得することが必要です。

(2) キャリア科目群【卒業要件：必修4科目 / 8単位】

キャリア科目は必修科目と選択科目があります。「キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」は必修科目であり、履修し、その単位を修得することが必要です。

(3) 教養科目群【卒業要件：選択14単位】

教養科目はすべて選択科目です。教養科目群に属する科目から自分で選択し、14単位以上修得することが必要です。この条件を超えて科目を履修し修得した単位は卒業単位として数えることができます。

(4) 情報処理科目群【卒業要件：必修2単位】

情報処理科目群は必修科目と選択科目からなります。「情報処理演習 a,b」は必修科目であり、履修し、その単位を修得することが必要です。選択科目を履修し修得した単位を卒業単位として数えることができます。

(5) 第二外国語科目【卒業要件：選択必修2単位以上（同一言語を1年間以上）】**①開講されている言語とレベル設定**

フランス語、中国語、スペイン語、韓国・朝鮮語は初級（Ⅰ・Ⅱ）、中級、上級と三つのレベルが設定されております。また中国語、韓国・朝鮮語は初級総合も開講されます。ドイツ語は初級（Ⅰ）のみが設定されています。

②初級について－1年コースと2年コース：中国語、韓国・朝鮮語

中国語、韓国・朝鮮語の初級は1年コースと2年コースがあります。

1年コースの科目名は「〇〇語初級総合 a, b」です。これは週2日の授業を1年間で修了し、単位は半期ごとに2単位、前後期で計4単位の科目です。1人または2人の教員で行う授業ですので、**指定された組み合わせに従って履修してください。**

2年コースの科目名は「〇〇語初級Ⅰ -a,b」（1年目）と「〇〇語初級Ⅱ -a,b」（2年目）です。これは、週1日の授業を2年間で修了し、単位は半期ごとに1単位、前後期で2単位、2年間で計4単位の科目です。

いずれのコースを履修しても当該言語の「初級」を修了したものと同等に扱われます。したがって、次年度に当該言語の「中級」に進むことができます。

③初級について－2年コース：フランス語、スペイン語

フランス語、スペイン語については、2年コースのみの開講となります。科目名は「〇〇語初級Ⅰ -a,b」（1年目）と「〇〇語初級Ⅱ -a,b」（2年目）です。これは、週1日の授業を2年間で修了し、単位は半期ごとに1単位、前後期で2単位、2年間で計4単位の科目です。

④初級について－1年コース：ドイツ語

ドイツ語については、1年コースのみの開講となります。科目名は「ドイツ語初級Ⅰ -a,b」です。これは週1日の授業を1年間で修了し、単位は半期ごとに1単位、前後期で計2単位、1年間で計2単位の科目です。

⑤中級、上級について：フランス語、中国語、スペイン語、韓国・朝鮮語

中級の科目名は「〇〇語中級 a,b」です。これは、週1日の授業を1年間で修了し、単位は半期ごとに1単位、前後期で計2単位の科目です。

上級の科目名は「〇〇語上級 a,b」です。これは、週1日の授業を1年間で修了し、単位は半期ごとに1単位、前後期で計2単位の科目です。

*第二外国語科目の卒業要件である2単位は、同一言語を1年間以上履修したものでなければなりません。また、レベル設定があるので、履修に際しては、科目名にローマ数字が付されているものはその順に、また初級、中級、上級の順についても下位科目から履修することを原則とします。この原則以外の履修を希望する場合は、履修登録の前に、第二外国語担当の専任教員に相談の上、許可を得てください。

*第二外国語科目の卒業要件である計2単位以上を超えて取得した単位についても、卒業単位として数えることができます。

*留学生など日本語を母語としない学生は、自らの母語以外の科目を選択しなければなりません。

8. 専門科目

専門科目分野の科目は以下のコースの科目群にわかれています。

国際ビジネスコミュニケーション専攻

- (1) 国際ビジネスコース

国際教養コミュニケーション専攻

- (1) 国際文化コース (2) 英語教育コース
(3) 国際協力コース

各コースの科目群は、以下のように構成されています。

- (1) コース概論
(2) 複数の講義科目(2年次以降) (3) インターンシップ/フィールドワーク(2年次以降)
(4) ゼミナール(3年次) (5) 卒業研究(4年次)

①専門科目群(ゼミナールと卒業研究を除く)【卒業要件：選択14科目/28単位】

ゼミナールと卒業研究を除く、専門科目群に属する科目から、コースに関係なく選択した14科目を履修し、その単位を修得する必要があります。この条件を超えて専門科目を履修し修得した単位を卒業単位に数えることができます。

科目の名称、単位数、履修学年、開講期間については、カリキュラム表(p.75～77)をご覧ください。

専門科目の履修の流れ

1年次：コース概論を通して、コースで学べる内容を理解することが可能です。

1年次開講：英語教育コース概論・国際協力コース概論

2年次開講：国際ビジネスコース概論・国際文化コース概論

2年次：専門科目はコースに関係なく履修することが可能ですが、所属している専攻の科目を履修することを推奨します。

＜専門コースへの所属＞

3年生になると各専門コース別の専門科目やゼミナール、卒業研究を履修していくこととなります。2年次後期に所属するゼミナールを選ぶことは、すなわち各専攻の学生にとって専門コースを選択することにもなるわけです。

ゼミ所属の登録のためには、2年次前期までに26単位以上を修得していることが必要です。所属を希望するゼミナールの登録申請者が定員を超えるゼミナールでは、各ゼミナール担当者が設ける基準で選抜することになります。

希望の専門コースに所属するためには、各コースが指定する基礎科目を履修しておくことを推奨します。各専門コース所属時に、事前あるいは同時に履修することが望ましい基礎科目は、次ページの通りです。

基礎科目一覧表

専攻	コース	基礎科目
国際ビジネスコミュニケーション	国際ビジネス	経営学 a, b
		マーケティング概論 a, b
		簿記会計学 a, b
国際教養コミュニケーション	国際文化	外国文学
		比較文化論 I
		比較文化論 II
		日本語学概論 a, b
		近現代史
		日本国憲法
	英語教育	児童心理学
		比較文化論 I
		比較文化論 II
		近現代史
		日本国憲法
	国際協力	地球環境論 I
		地球環境論 II
		ジェンダー論
		近現代史
日本国憲法		

3年次：専門コースへの所属が決定します。

自身が所属するコースに配置されている専門科目を積極的に履修することを推奨します。

専門コース修了証

自分の所属するコースの概論科目、専門科目、ゼミナール、卒業研究に加えて、所属コースの指定する基礎科目(上記表参照)を履修し、あわせて40単位以上修得した学生は、学位記授与式にて『専門コース修了証』を受け取ることができます。希望者は申請書に最終成績通知表を添付し、教務グループに提出してください。

②「ゼミナール」および「卒業研究」【卒業要件：必修4科目/8単位】

「ゼミナール」および「卒業研究」は、各専門コースに属します。(p.69参照)

すべての学生は、3年次に、同じ教員が担当する「ゼミナールa」および「ゼミナールb」、4年次に、3年次の「ゼミナール」と同じ教員が担当する「卒業研究a」および「卒業研究b」を履修し、その単位を修得する必要があります。

卒業研究について

「卒業研究」においては、学修の成果として卒業論文・課題研究または卒業制作の提出が必須です。

卒業論文・卒業制作の形式・提出方法については各年度の5月頃までに詳細な説明があります。

「題目・概要届出票」、「卒業研究に関する許諾書」等を指定された期日に提出してください。スケジュール、形式および審査判定基準については以下を参照してください。

[スケジュール]

3年次「ゼミナールb」	テーマの検討
→4年次「卒業研究a」	「卒業研究」の題目・概要の提出(5月末)
→4年次「卒業研究a, b」	卒業論文・課題研究または卒業制作の作成 卒業論文・課題研究または卒業制作の提出(12月下旬) 口頭試問(1月中旬)
→4年次「卒業研究」終了後	優秀論文発表会(2022年度は、2023年1月24日予定)

[形式]

卒業論文・卒業制作ともに

- ①最低字数の制限の厳守
- ②書式設定の厳守
- ③引用部分とその出典を所定の方法で明示していること
- ④卒業論文・卒業制作としての構成を成していること

が最低条件とされます。詳細については各コースおよび各ゼミナールの担当者からの指導にしたがってもらいます。また卒業論文・制作の作成に向けて、1年次から基本的な書式を身につけておくように努力してください。

[卒業論文審査判定基準]

1. 表紙、字数、行数、フォント、余白などの形式が守られている。
2. 文体および記述スタイルが適切である。
3. 問題を適切に設定し、それに答えられている。
4. 先行研究への言及を含む、調査や考察がなされている。
5. 使われている情報やデータが適切である。
6. 構成が整理されており、論理的で一貫している。
7. 使われている文献が的確で参考文献として正確に示されている。
8. 何らかの点で自分の意見や解釈が示されている。
9. 剽窃などの不正行為が行われていない。

9. その他

その他の分野として、以下の科目群があります。それぞれの説明部分をご覧ください。これらに属する科目はすべて選択です。必ずしも卒業に必要なものではありません。

- (1) 実務資格（インターンシップ）
- (2) 海外留学プログラム
- (3) 交換留学プログラム
- (4) 他大学との単位互換に属する科目群
- (5) 教職課程科目

ただし、教職課程科目を履修し修得した単位を卒業単位として数えることはできません。

これらの科目群の科目の名称、履修学年、単位数については、カリキュラム表をご覧ください。

10. ストレス耐性科目

本学は、創立100周年（2024年）を念頭に置き、大学の目指す姿として「B's Vision 2024」において4つのビジョンを掲げています。その一つとして「ストレス耐性を持った人材の育成」があります。外国語学部では、ストレスおよびストレスマネジメントに関する知識とスキルを身につけるための科目を、以下のように設定しています。

ストレス耐性科目：「キャリアデザインⅠ」、「キャリアデザインⅡ」、「キャリアデザインⅢ」、
「キャリアデザインⅣ」（いずれも「基礎総合力科目」の中の「キャリア科目」）

11. 児童英語教育プログラム修了証

下記の科目を全て履修し、単位を修得した学生には、卒業時に、「児童英語教育プログラム修了証」を発行します。

希望する学生は、卒業年次の2月に、申請書に最終成績通知表を添付し、教務グループに提出して下さい。

修了に必須である児童英語教育科目：「児童英語教育論」、「児童英語教育教材論」、
「児童英語教育実習 a」、「児童英語教育実習 b」、
「児童心理学」

【注意事項】

上記科目は p. 119 の教職課程の科目ではありません。東京都教育委員会への教育職員免許状の申請には適用されません。

12. 各分野の卒業要件を合計した単位数と卒業に必要な総単位数との差【卒業要件：選択30単位】

各科目群で科目を履修し修得しなければならない単位数を合計すると98単位になります。卒業に必要な総単位数128単位には30単位不足しています。この不足分については、卒業単位として数えられる科目群から科目を履修し、その単位を修得してください。

専門コースとゼミナール

※注1 ゼミナール名は、2022年4月現在のものです。変更となる場合があります。

※注2 専攻を超えてゼミナールを履修することはできません。

国際ビジネスコミュニケーション専攻

専門コース名	ゼミナール名
国際ビジネスコース	米中新冷戦時代の国際政治経済
	国際ビジネスと法
	観光キャリア&ホスピタリティ・デザイン
	職場の人間行動を科学する
	情報科学
	言語処理と習得の理論および動機づけ理論に学ぶ外国語4技能の向上
	The Psychology of Motivation モチベーション心理
	「投資」を通じて社会を理解する
	マーケティング戦略の実践
	データサイエンス
アメリカのいろいろなトピックとイシュー	

国際教養コミュニケーション専攻

専門コース名	ゼミナール名
英語教育コース	Community Outreach and Intercultural Communication
	英語教育学研究 — 英語授業の実践研究
	国際理解を深める児童英語教育
	ことばの探求
国際協力コース	国際開発・ジェンダーと開発研究
	人権・ビジネス・国際協力研究
国際文化コース	イギリス社会とジェンダー
	多言語コミュニケーション研究
	ドラマとシネマの英語コミュニケーション
	日本語・日本文化に関する研究
—	アメリカ文学／文化とメディア
—	COOL JAPAN Intercultural Comparative Studies of Japanese Tourism

文京学院大学 外国語学部 国際ビジネスコミュニケーション専攻 カリキュラムマップ

	1年次	2年次	3、4年次
英語コミュニケーション	<p>Communicative English Ia/Ib Reading Ia/Ib Writing Ia/Ib Integrated Skills Ia/Ib 英語資格講座I/II Vocabulary Building a/b eラーニング応用a/b TOEIC・英検入門a/b TOEIC・英検初級a/b TOEIC・英検中級a/b TOEFL講座a/b Academic Reading Academic Writing Applied Writing and Research</p>	<p>Communicative English IIa/IIb Reading IIa/IIb Writing IIa/IIb Integrated Skills IIa/IIb Literature</p>	<p>Writing IIIa/IIIb ESP a/b Oral Communication Ia/IIb Oral Communication IIa/IIb Content based English a</p>
専門		<p>国際ビジネスコース概論 国際アカウンティング 国際経済論a/b 国際ビジネス特講Ia/Ib/IIa/IIb ホテル・旅館論</p>	<p>ワールドワーク 国際ビジネスワールドワークI/II Business Planning Business case method 国際政治経済論a/b グローバルビジネス戦略a/b 国際マーケティング環境 国際マーケティング戦略 国際観光ビジネス論 ホスピタリティ・コミュニケーション論 国際ビジネスと法 英文契約書読解 Negotiation English ゼミナールa/b 卒業研究a/b</p>
教養・情報処理	<p>人間共生論 新・文明の旅特講a/b 新・文明の旅総合講義 地球環境論I/II 初年次セミナーa/b コミュニケーション概論 日本語表現法入門 健康の科学 スポーツ シーズンスポーツ 哲学I/II 芸術I/II 比較教育学 マーケティング概論a/b 経済学a/b 社会学 外国文学 簿記会計学a/b 経営学 a/b 法学 日本国憲法 近現代史 西洋史 ジェンダー論 比較文化論I/II 日本語学概論a/b Cool Japan Japan and International Community Japanese Society Religion in Japan 情報処理演習a/b 情報処理概論a/b</p>	<p>国際情勢I/II 児童心理学 日本語表現法応用I/II アニメーション論 表象論 Conference English 翻訳入門a/b グローバル社会と法 教育人間学 コミュニケーション心理学 Screen English a/b Media English a/b ドイツ社会概論 異文化コミュニケーションa/b 教養特講a/b ITシステム論 データサイエンス応用 Web作成技法</p>	<p>プログラミング入門 サイバーセキュリティ概論</p>
第二外国語	<p>中国語初級Ia/Ib 中国語初級総合a/b 韓国・朝鮮語初級Ia/Ib 韓国・朝鮮語初級総合a/b スペイン語初級Ia/Ib フランス語初級Ia/Ib ドイツ語初級Ia/Ib</p>	<p>中国語中級IIa/IIb 中国語中級a/b 韓国・朝鮮語中級IIa/IIb 韓国・朝鮮語中級a/b スペイン語中級IIa/IIb スペイン語中級a/b フランス語中級IIa/IIb フランス語中級a/b</p>	<p>中国語上級a/b 韓国・朝鮮語上級a/b スペイン語上級a/b フランス語上級a/b</p>
キャリア	<p>キャリアデザインI キャリアデザインII インターンシップI/III/V(国内)/II/IV/VI(海外)</p>	<p>キャリアデザインIII</p>	<p>キャリアデザインIV</p>

文京学院大学 外国語学部 国際教養コミュニケーション専攻 カリキュラムマップ

	1年次	2年次	3、4年次
英語コミュニケーション	<p>Communicative English Ia/Ib Reading Ia/Ib Integrated Skills Ia/Ib Vocabulary Building a/b TOEIC・英検入門a/b TOEIC・英検中級a/b Academic Reading Applied Writing and Research</p>	<p>Communicative English IIa/IIb Reading IIa/IIb Integrated Skills IIa/IIb Literature</p>	<p>Writing IIIa/IIIb ESP a/b Oral Communication Ia/Ib Oral Communication IIa/IIb Content based English a</p>
専門(コース)	<p>国際協カコース: 国際協カコース概論 国際文化協力 国際機関探論/II NPO・NGO論 地域研究/II 国際人権法 ジェンダーと開発 国際理解・地球市民教育論 国際社会開発論 開発経済学 農村開発論 国際協力特講Ia/Ib/IIa/IIb Social Development in Japan</p> <p>国際文化コース: 国際文化コース概論 イギリス文学a/b American Government a/b アメリカ文化論a/b イギリス文化論a/b 日本文化論a/b 演劇論a/b Japanese Literature and Performing Arts 社会言語学a/b 国際文化フィールドワーク I/II 国際文化特講Ia/Ib</p> <p>英語教育コース: 英語教育コース概論 児童英語教育論 児童英語教育教材論 英語音声学・音韻論a/b 英語学a/b 英語教育特講Ia/Ib 学校インタナショナル English as a Lingua Franca Intercultural Communication Cool Japan Intercultural Comparative Studies a Cool Japan Intercultural Comparative Studies b</p>	<p>国際文化フィールドワーク/II 国際協カフィールドワーク実践 III 対照言語学a/b 国際協カフィールドワーク実践 III 国際文化特講IIa/IIb ゼミナールa/b 卒業研究a/b</p> <p>国際文化フィールドワーク実践 III 対照言語学a/b アメリカ文学a/b 国際文化特講IIa/IIb ゼミナールa/b 卒業研究a/b</p> <p>英語史a/b 英語教育特講IIa/IIb ゼミナールa/b 卒業研究a/b</p>	
教養・情報処理	<p>人間共生論 新・文明の旅特講a/b 新・文明の旅総合講義 地球環境論/II 初年次ゼミナールa/b コミュニケーション概論 日本語表現法入門 健康の科学 スポーツ シーズンズポーツ 哲学/II 芸術/II 比較教育学 マーケティング概論a/b 経済学a/b 社会学 外国文学 簿記会計学a/b 経営学 a/b 法学 日本国憲法 近現代史 西洋史 ジェンダー論 比較文化論/II 日本語学概論a/b Cool Japan Japan and International Community Japanese Society Religion in Japan 情報処理演習a/b 情報処理概論a/b</p>	<p>国際情勢/II 児童心理学 日本語表現法応用/II アニメーション論 表参論 Conference English 翻訳入門a/b グローバル社会と法 教育人間学 コミュニケーション心理学 Screen English a/b Media English a/b ITシステム論 データサイエンス応用 Web作成技法 ドキュメント概論 異文化コミュニケーション/II Cross Cultural Communication a/b 教養特講a/b</p>	<p>プログラミン入門 サイバーセキュリティ概論</p>
第二外国語	<p>中国語初級Ia/Ib 中国語初級総合a/b 韓国・朝鮮語初級Ia/Ib 韓国・朝鮮語初級総合a/b スペイン語初級Ia/Ib スペイン語初級総合a/b フランス語初級Ia/Ib フランス語初級総合a/b ドイツ語初級Ia/Ib</p>	<p>中国語中級IIa/IIb 中国語中級IIa/IIb 韓国・朝鮮語中級IIa/IIb 韓国・朝鮮語中級IIa/IIb スペイン語中級IIa/IIb スペイン語中級IIa/IIb フランス語中級IIa/IIb フランス語中級IIa/IIb</p>	<p>中国語上級a/b 韓国・朝鮮語上級a/b スペイン語上級a/b フランス語上級a/b</p>
キャリア	<p>キャリアデザインI キャリアデザインII インターンシップI/III/IV/VI(海外)</p>	<p>キャリアデザインIII</p>	<p>キャリアデザインIV</p>

カリキュラム表：授業科目と単位数

* 留学特待生プログラムの学生については一部異なるので、「外国語学部留学特待生プログラム規程」を参照。

* (共)は、経営学部との共通科目です。

区分	授業科目	履修学年	単位数	
			必修	選択
大学特別科目	人間共生論	1	2	
	新・文明の旅特講 a (共)	1		2
	新・文明の旅特講 b (共)	1		2
	新・文明の旅総合講義 (共)	1		2
	地球環境論 I (共)	1		2
	地球環境論 II (共)	1		2
英語コミュニケーション科目 基礎	Communicative English I - a	1	2	
	Communicative English I - b	1	2	
	Reading I - a	1	1	
	Reading I - b	1	1	
	Writing I - a	1	1	
	Writing I - b	1	1	
	Integrated Skills I - a	1	1	
	Integrated Skills I - b	1	1	
	英語資格講座 I	1	1	
	英語資格講座 II	1	1	
	Communicative English II - a	2	2	
	Communicative English II - b	2	2	
	Reading II - a	2	1	
	Reading II - b	2	1	
	Writing II - a	2	1	
	Writing II - b	2	1	
	Integrated Skills II - a	2	1	
	Integrated Skills II - b	2	1	
	Writing III - a	3	1	
	Writing III - b	3	1	
	ESP a	3	1	
	ESP b	3	1	
	Oral Communication I - a	3	1	
	Oral Communication I - b	3	1	
	Oral Communication II - a	4	1	
	Oral Communication II - b	4	1	
	Content-based English a	3		1
	e ラーニング応用 a	1		1
	e ラーニング応用 b	1		1
	Vocabulary Building a	1		1
	Vocabulary Building b	1		1
	TOEIC・英検入門 a	1		1
TOEIC・英検入門 b	1		1	
TOEIC・英検初級 a	1		1	
TOEIC・英検初級 b	1		1	
TOEIC・英検中級 a	1		1	
TOEIC・英検中級 b	1		1	
TOEFL 講座 a	1		1	
TOEFL 講座 b	1		1	

区分		授業科目	履修学年	単位数		
				必修	選択	
英語コミュニケーション科目	基礎	Academic Reading	1		1	
		Academic Writing	1		1	
		Applied Writing and Research	1		1	
		Literature	2		1	
基礎総合力科目	基礎総合力	初年次セミナー a	1	1		
		初年次セミナー b	1	1		
		コミュニケーション概論	1	2		
		日本語表現法入門 (共)	1		2	
	キャリア	キャリアデザイン I	1	2		
		キャリアデザイン II	1	2		
		キャリアデザイン III	2	2		
		キャリアデザイン IV	3	2		
	基礎総合力科目	教養	健康の科学 (共)	1		2
			ジェンダー論 (共)	1		2
			哲学 I	1		2
			哲学 II	1		2
			芸術 I (共)	1		2
			芸術 II (共)	1		2
			外国文学	1		2
			日本語学概論 a	1		2
			日本語学概論 b	1		2
			西洋史	1		2
			近現代史	1		2
			比較文化論 I (共)	1		2
			比較文化論 II (共)	1		2
			法学	1		2
			日本国憲法	1		2
			経済学 a	1		2
			経済学 b	1		2
			経営学 a	1		2
			経営学 b	1		2
			簿記会計学 a	1		2
			簿記会計学 b	1		2
			マーケティング概論 a	1		2
			マーケティング概論 b	1		2
			社会学	1		2
			比較教育学	1		2
スポーツ (共)			1		1	
シーズンスポーツ (共)			1		1	
Cool Japan	1		2			
Japan and International Community	1		2			
Japanese Society	1		2			
Religion in Japan	1		2			
グローバル社会と法	2		2			
翻訳入門 a	2		2			
翻訳入門 b	2		2			

授業科目と単位数

区分	授業科目	履修学年	単位数		
			必修	選択	
基礎総合力科目	教養	Screen English a	2		2
		Screen English b	2		2
		Conference English	2		2
		日本語表現法応用Ⅰ	2	〈共〉	2
		日本語表現法応用Ⅱ	2	〈共〉	2
		アニメーション論	2		2
		表象論	2		2
		国際情勢Ⅰ	2		2
		国際情勢Ⅱ	2		2
		コミュニケーション心理学	2		2
		児童心理学	2		2
		教育人間学	2		2
		教養特講 a	2		2
		教養特講 b	2		2
		ドイツ社会概論	2		2
		異文化コミュニケーション a	2		2
		異文化コミュニケーション b	2		2
		Cross Cultural Communication a	2		2
		Cross Cultural Communication b	2		2
		Media English a	2		2
Media English b	2		2		
情報処理	情報処理	情報処理演習 a	1	1	
		情報処理演習 b	1	1	
		情報処理概論 a	1		2
		情報処理概論 b	1		2
		ITシステム論	2	〈共〉	2
		データサイエンス応用	2		1
		Web 作成技法	2		1
		サイバーセキュリティ概論	3		2
		プログラミング入門	3		1
第二外国語	第二外国語	中国語初級総合 a	1		2
		中国語初級総合 b	1		2
		韓国・朝鮮語初級総合 a	1		2
		韓国・朝鮮語初級総合 b	1		2
		中国語初級Ⅰ-a	1		1
		中国語初級Ⅰ-b	1		1
		フランス語初級Ⅰ-a	1	〈共〉	1
		フランス語初級Ⅰ-b	1	〈共〉	1
		スペイン語初級Ⅰ-a	1	〈共〉	1
		スペイン語初級Ⅰ-b	1	〈共〉	1
		ドイツ語初級Ⅰ-a	1		1
		ドイツ語初級Ⅰ-b	1		1
		韓国・朝鮮語初級Ⅰ-a	1	〈共〉	1
		韓国・朝鮮語初級Ⅰ-b	1	〈共〉	1

区分	授業科目	履修学年	単位数		
			必修	選択	
基礎総合力科目	第二外国語	中国語初級Ⅱ－a	2	1	
		中国語初級Ⅱ－b	2	1	
		フランス語初級Ⅱ－a	2	1	
		フランス語初級Ⅱ－b	2	1	
		スペイン語初級Ⅱ－a	2	1	
		スペイン語初級Ⅱ－b	2	1	
		韓国・朝鮮語初級Ⅱ－a	2	1	
		韓国・朝鮮語初級Ⅱ－b	2	1	
		中国語中級 a	2	1	
		中国語中級 b	2	1	
		フランス語中級 a	2	1	
		フランス語中級 b	2	1	
		スペイン語中級 a	2	1	
		スペイン語中級 b	2	1	
		韓国・朝鮮語中級 a	2	1	
		韓国・朝鮮語中級 b	2	1	
		中国語上級 a	3	1	
		中国語上級 b	3	1	
		フランス語上級 a	3	1	
		フランス語上級 b	3	1	
		スペイン語上級 a	3	1	
		スペイン語上級 b	3	1	
		韓国・朝鮮語上級 a	3	1	
韓国・朝鮮語上級 b	3	1			
専門科目	コース専門科目	国際ビジネスコース概論	2	2	
		国際ビジネス特講Ⅱ－a	2	2	
		国際ビジネス特講Ⅱ－b	2	2	
		国際ビジネスフィールドワークⅠ	3	2	
		国際ビジネスフィールドワークⅡ	3	2	
		フィールドワーク(長期国内海外企業インターンシップ)	3	2	
		Business Planning	3	2	
		Business case method	3	2	
	国際ビジネスコース	両専攻共通科目	Japanese Business	2	2
			国際アカウントティング	2	2
			ビジネスライティング	2	2
			国際経済論 a	2	2
			国際経済論 b	2	2
			国際ビジネス取引	2	2
			環境とビジネス	2	2
			ホテル・旅館論	2	2
			人的資源管理論	2	2
			国際政治経済論 a	3	2
			国際政治経済論 b	3	2
			グローバルビジネス戦略 a	3	2
グローバルビジネス戦略 b	3	2			

区分	授業科目		履修学年	単位数	
				必修	選択
専門科目	国際ビジネスコース	両専攻共通科目	国際マーケティング環境	3	2
			国際マーケティング戦略	3	2
			国際観光ビジネス論	3	2
			ホスピタリティ・コミュニケーション論	3	2
			国際ビジネスと法	3	2
			英文契約書読解	3	2
			Negotiation English	3	2
			国際ビジネス特講Ⅰ-a	2	2
			国際ビジネス特講Ⅰ-b	2	2
	国際文化コース	コース専門科目	国際文化コース概論	2	2
			国際文化フィールドワーク	3	2
			国際文化フィールドワーク実践Ⅰ	2	2
			国際文化フィールドワーク実践Ⅱ	2	2
			国際文化フィールドワーク実践Ⅲ	3	2
			国際文化特講Ⅱ-a	3	2
		国際文化特講Ⅱ-b	3	2	
		両専攻共通科目	Japanese Literature and Performing Arts	2	2
			イギリス文学 a	2	2
			イギリス文学 b	2	2
			American Government a	2	2
			American Government b	2	2
	イギリス文化論 a		2	2	
	イギリス文化論 b		2	2	
	アメリカ文化論 a		2	2	
	アメリカ文化論 b		2	2	
	アメリカ文学 a		3	2	
	アメリカ文学 b		3	2	
	日本文化論 a		2	2	
	日本文化論 b		2	2	
	演劇論 a		2	2	
演劇論 b	2		2		
国際文化特講Ⅰ-a	2		2		
国際文化特講Ⅰ-b	2		2		
社会言語学 a	2		2		
社会言語学 b	2	2			
対照言語学 a	3	2			
対照言語学 b	3	2			
英語教育コース	コース専門科目	英語教育コース概論	1	2	
		児童英語教育実習 a	2	2	
		児童英語教育実習 b	2	2	
		英語教育特講Ⅱ-a	3	2	
		英語教育特講Ⅱ-b	3	2	

区分	授業科目		履修学年	単位数	
				必修	選択
専門科目	英語教育コース	両専攻共通科目	児童英語教育論	2	2
			児童英語教育教材論	2	2
			英語音声学・音韻論 a	2	2
			英語音声学・音韻論 b	2	2
			英語学 a	2	2
			英語学 b	2	2
			英語学習理論	2	2
			異文化間教育学	2	2
			英語教育特講Ⅰ－a	2	2
			英語教育特講Ⅰ－b	2	2
			学校インターンシップ	2	2
			English as a Lingua Franca	2	2
			Intercultural Communication	2	2
			Cool Japan Intercultural Comparative Studies a	2	2
			Cool Japan Intercultural Comparative Studies b	2	2
			英語史 a	3	2
			英語史 b	3	2
	国際協力コース	コース専門科目	国際協力コース概論	1	2
			国際協力特講Ⅱ－a	2	2
			国際協力特講Ⅱ－b	2	2
			国際協力フィールドワークⅠ	3	2
			国際協力フィールドワークⅡ	3	2
			国際協力フィールドワーク実践	3	2
		両専攻共通科目	Social Development in Japan	2	2
			国際文化協力	2	2
			国際機構論 a	2	2
			国際機構論 b	2	2
			国際関係論Ⅰ	2	2
			国際関係論Ⅱ	2	2
	共通		NPO・NGO論	2	2
			地域研究Ⅰ	2	2
			地域研究Ⅱ	2	2
			国際人権法	2	2
ジェンダーと開発			2	2	
国際理解・地球市民教育論			2	2	
国際社会開発論			2	2	
開発経済学			2	2	
農村開発論			2	2	
国際協力特講Ⅰ－a			2	2	
国際協力特講Ⅰ－b			2	2	
平和研究			3	2	
ゼミナール a			3	2	
ゼミナール b			3	2	
卒業研究 a			4	2	
卒業研究 b	4	2			

授業科目と単位数

区分	授業科目	履修学年	単位数	
			必修	選択
実務資格科目	インターンシップⅠ（国内）	1		2
	インターンシップⅡ（海外）	1		2
	インターンシップⅢ（国内）	1		4
	インターンシップⅣ（海外）	1		4
	インターンシップⅤ（国内）	1		6
	インターンシップⅥ（海外）	1		6
留学・他大学等科目	海外語学（英語）研修Ⅰ	1		2
	海外語学（英語）研修Ⅱ	1		2
	海外語学（英語外）研修Ⅰ	1		2
	海外語学（英語外）研修Ⅱ	1		2
	国内語学研修	1		2
	海外 Semester 語学（英語）研修Ⅰ	1		4
	海外 Semester 語学（英語外）研修Ⅰ	1		4
	海外個人フィールドワーク（英語）Ⅰ a	1		2
	海外個人フィールドワーク（英語）Ⅰ b	1		2
	海外個人フィールドワーク（日本語）Ⅰ a	1		2
海外個人フィールドワーク（日本語）Ⅰ b	1		2	
教職課程科目（※）	教職論（チーム学校への対応を含む）	1		2
	教育原理	1		2
	特別活動の指導法（総合的な学習の時間を含む）	1		2
	教育心理学	1		2
	教育行政学（地域連携と学校安全を含む）	2		2
	特別支援教育	2		1
	教育課程論	2		2
	道徳教育の指導法	3		2
	教育の方法及び技術	2		2
	生徒指導論（進路指導を含む）	2		2
	教育相談（カウンセリングを含む）	2		2
	英語科教育法Ⅰ	3		2
	英語科教育法Ⅱ	3		2
	英語科教育法Ⅲ	3		2
	英語科教育法Ⅳ	4		2
	教育実習の指導	3		1
	教職実践演習（中・高）	4		2
	教育実習Ⅰ	4		2
教育実習Ⅱ	4		2	
留学生外国人交換科目	Basic JapaneseⅠ（留学生のみ）	1		4
	Basic JapaneseⅡ（留学生のみ）	1		4
	Basic JapaneseⅢ（留学生のみ）	1		4

※教職課程科目は卒業に必要な単位に含めることができない。

履修の手引

(2019～2020年度入学者用)

カリキュラム・卒業要件

1. 学士（コミュニケーション）

卒業要件を充足し、卒業することによって「学士（コミュニケーション）」の学位が授与されます。

2. 4 年以上の在学期間と128以上の総単位数が必要です。

原則として4 年以上在学し、その期間内に総単位数として128単位以上修得することが必要です。たとえば休学などの1 学期以上の休学期間により、在学期間が中断する場合には、その休学期間を除いて、4 年以上在学することが必要です。

3. 科目と単位

科目の開講期間は半期です。

科目には必修と選択の区別があります。必修科目は、卒業するために必ず履修し、その単位を修得することが必要です。そのクラス、時間割、教室はあらかじめ決められています。選択科目は、特定の科目群から自分で選択した科目を履修し、その単位を修得する科目です。卒業に必要な単位数は、科目群によってそれぞれ異なります。

また、外国語学部の学生だけが履修する科目のほかに、外国語学部と経営学部の学生が履修する科目があります。これらの共通開設科目と呼ばれるものは、選択科目に多くあります。

半期の科目の単位数はそのほとんどが1 単位あるいは2 単位です。また教職課程科目群に属する科目は、履修し修得した単位を卒業単位（卒業に必要な単位）として数えることができません。

一般的に、科目を履修し単位を修得するためには、科目の履修登録、授業への出席・参加、レポートや試験など学期末の課題における合格点が要求されます。これらについては、このあとの説明を読んでください。科目により違いがありますので、各科目の具体的な履修条件については、シラバスで確認するか、担当教員に直接確かめてください。

4. 次の5つの分野から必要な科目を履修し、その単位を修得します。

外国語学部英語コミュニケーション学科のカリキュラムは、次の1～5の5分野からなります。各分野に属する科目の種類については、カリキュラム表を（p. 92～98）ご覧ください。

- (1) 大学特別科目
- (2) 英語コミュニケーション科目
- (3) 基礎総合力科目
- (4) 専門科目
- (5) その他

上の5分野において、それぞれ必要な科目を履修し、その単位を修得します。

履修する科目の種類や修得する単位数など、卒業に必要な条件は分野ごとに決められています。それについては、このあとの部分で説明します。

また、各分野で必要とされる科目だけを履修し、その単位を修得し、各分野の卒業要件を満たしても、その合計単位数は卒業に必要な総単位数128に届きません。したがって各分野で必要とされる単位数を越えて、科目を履修し単位を修得することが必要です。ただし教職課程科目の単位を卒業単位に含めることはできません。

5. 大学特別科目【卒業要件：必修1科目 / 2単位】

大学特別科目には必修科目と選択科目があります。「人間共生論」を履修し、その単位を修得することが必要です。

6. 英語コミュニケーション科目【卒業要件：必修26科目 / 30単位】

英語コミュニケーション科目には、必修科目と選択科目があります。必修科目としては、以下の科目があります。但し、留学特待生プログラムの科目については別に定めます。

英語コミュニケーション科目学年別必修科目一覧表

1年	Communicative English I-a ↓ Communicative English I-b	Reading I-a ↓ Reading I-b	Writing I-a ↓ Writing I-b	Integrated Skills I-a ↓ Integrated Skills I-b	英語資格講座 I (TOEIC400点または英検準2級以上取得で単位認定、または3年次前期以降受講) → 英語資格講座 II (TOEIC500点または英検2級以上取得で単位認定、または4年次後期授業後に集中講義を受講)
2年	Communicative English II-a ↓ Communicative English II-b	Reading II-a ↓ Reading II-b	Writing II-a ↓ Writing II-b	Integrated Skills II-a ↓ Integrated Skills II-b	
3年	Oral Communication I-a ↓ Oral Communication I-b		Writing III-a ↓ Writing III-b		
4年	Oral Communication II-a Oral Communication II-b			Content-based English a Content-based English b	

内容に関する詳しい説明は各科目のシラバスを参考にしてください。

【注意事項】

- (1) 「Communicative English」は週2回授業を受ける。
- (2) 「英語資格講座 I」は、2年次終了までに TOEIC で 400 点または英検準 2 級以上を取得することで、受講することなしに単位が認定される。成績評価は「N(認定)」のみとする。2年次終了までにこの条件を満たせなかった場合は、3年次に授業を開講（前期・後期に開講）するので、受講して、単位を修得する。
 - ①本学で実施する TOEIC で 400 点以上を取得した場合は、そのスコアに基づいて単位が認定される。
 - ②上記以外に TOEIC ないし英検を受験し単位認定基準を満たした場合は、BLEC に証明書原本とその写しを持って手続きを行うことにより認定される。学生は学内で年 2 回実施される TOEIC を受験すること。
- (3) 「英語資格講座 II」は、集中講義形式で開講し、成績評価は「N(認定)」のみとする。4年次後期授業終了時(1月末)までに TOEIC で 500 点または英検 2 級以上を取得することで、受講することなしに単位が認定される。4年次後期授業終了時までこの条件を満たせなかった場合は、4年次春季休暇中に集中講義形式で受講する。

本学で実施する TOEIC で 500 点以上を取得した場合は、そのスコアに基づいて単位が認定される。上記以外に TOEIC ないし英検を受験し単位認定基準を満たした場合は、BLEC に証明書原本とその写しを持って手続きを行うことにより認定される。学生は学内で年 2 回実施される TOEIC を受験すること。

なお、「英語資格講座 II」の受講には、4年次前期終了時まで、「英語資格講座 I」の単位を修得していることが必要である。
- (4) 「TOEIC400点 / 英検準2級」以上、あるいは「英語資格講座 I」の単位を取得していない者が、Content-based English の単位取得条件を満たした場合、単位取得を「保留」とし、TOEIC 等の基準を満たした時点で単位を付与する。

- (5) 英語コミュニケーション必修科目の履修については、原則として定められた順序どおりに履修を行うものとし、再履修であっても順序を逆転して履修することはできない。科目名にⅠ、Ⅱ、Ⅲの数字があるものはその順序に従い履修するものとし、数字が異なる科目を同年度に履修することは認めない。科目名にa(前期)、b(後期)のアルファベット記号があるものはその順序に従い履修するものとする。b、aの順序で履修することは認めない。

ただし、「Content-based English」と「Oral Communication」の履修については、それぞれ以下のように定める。

「Content-based English」の履修はa、bの順序でなくてもよい。

「Oral Communication」の履修は、Ⅰ、Ⅱの順序に従うが、Ⅰの単位が修得できなかった場合にはⅠとⅡを同年度に履修してもよい。ただしa、bの履修については、Ⅰはa、bの順序に従うものとするが、Ⅱはa、bの順序でなくてもよい。

- (6) 高い英語力をもつ学生の英語コミュニケーション科目の履修免除と単位認定については別に定める。

- (7) 選択科目としては、以下の科目がある。

「eラーニング応用 a,b」、「Vocabulary Building a,b」、「TOEIC・英検入門 a,b」、「TOEIC・英検初級 a,b」、「TOEIC・英検中級 a,b」、「TOEFL講座 a,b」、「Academic Reading」、「Academic Writing」、「Applied Writing and Research」、「Literature」

これらの科目には履修条件があるものもあるので、シラバスを参照すること。選択科目は、a、bの順で履修する必要はなく、またa、bのどちらかのみを履修することもできる。

7. 基礎総合力科目

基礎総合力科目は以下の(1)～(5)の5つの科目群に分類されます。各科目群に属する科目の名称、履修学年、必修・選択の区別、単位数については、カリキュラム表(p.93～95)をご覧ください。

(1) 基礎総合力科目群【卒業要件：必修3科目 / 4単位】

基礎総合力科目群の科目は必修科目と選択科目があります。「初年次セミナー a、b」と「コミュニケーション概論」は、必修科目であり、履修し、その単位を修得することが必要です。

(2) キャリア科目群【卒業要件：必修4科目 / 8単位】

キャリア科目は必修科目と選択科目があります。「キャリアプランⅠ・Ⅱ」と「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」は必修科目であり、その単位を修得することが必要です。

(3) 教養科目群【卒業要件：選択14単位】

教養科目はすべて選択科目です。教養科目群に属する科目から自分で選択し、14単位以上修得することが必要です。この条件を超えて科目を履修し修得した単位は卒業単位として数えることができます。

(4) 情報処理科目群【卒業要件：必修2単位】

情報処理科目群は必修科目と選択科目からなります。必修科目をすべて履修し、その単位を修得することが必要です。選択科目を履修し修得した単位を卒業単位として数えることができます。

情報処理科目群のうち、下記の科目は上級レベル科目として設置されています。

「Web 作成技法」、「プログラミング a」、「プログラミング b」

(5) 第二外国語科目【卒業要件：選択必修4単位】

①開講されている言語とレベル設定

フランス語、中国語、スペイン語は、初級（「初級総合」あるいは「初級Ⅰ・Ⅱ」）、中級（「読解」、「会話」）、上級（「読解」、「会話」）と三つのレベルが設定されており、韓国・朝鮮語、ドイツ語は初級（Ⅰ・Ⅱ）のみの開講となります。

②初級について－1年コースと2年コース：フランス語、中国語、スペイン語

フランス語、中国語、スペイン語の初級は、1年コースと2年コースがあります。

1年コースの科目名は「〇〇語初級総合 a,b」です。これは、週2日の授業で1年間で修了し、単位は半期ごとに2単位、前後期で計4単位の科目です。2人の教員で行う授業ですので、**指定された組み合わせにしたがって履修**してください。

2年コースの科目名は「〇〇語初級Ⅰ-a,b」（1年目）と「〇〇語初級Ⅱ-a,b」（2年目）です。これは、週1日の授業で2年間で修了し、単位は半期ごとに1単位、前後期で計2単位、2年間で計4単位の科目です。

いずれのコースを履修しても当該言語の「初級」を修了したものと同等に扱われます。したがって、次年度に当該言語の「中級」（読解および／あるいは会話）に進むことができます。

③初級について－2年コース：韓国・朝鮮語

韓国・朝鮮語については、2年コースのみの開講となります。科目名は「韓国・朝鮮語初級Ⅰ-a,b」（1年目）と「韓国・朝鮮語初級Ⅱ-a,b」（2年目）です。これは、週1日の授業で2年間で修了し、単位は半期ごとに1単位、前後期で計2単位、2年間で計4単位の科目です。

④初級について－1年コース：ドイツ語

ドイツ語については、1年コースのみの開講となります。科目名は「ドイツ語初級Ⅰ-a,b」です。これに週1日の授業で1年間で修了し、単位は半期ごとに1単位、前後期で計2単位、1年間で計2単位の科目です。

⑤中級、上級について：フランス語、中国語、スペイン語

フランス語、中国語、スペイン語の中級からは、授業は「読解」と「会話」に分かれます。それぞれ科目名は「〇〇語中級（読解）a,b」、「〇〇語中級（会話）a,b」です。これは、それぞれ週1日の授業で1年間で修了し、単位は半期ごとに1単位、前後期で計2単位の科目です。これらの科目は単独履修、並行履修のどちらも可能です。

これらの3言語の上級も、授業は「読解」と「会話」に分かれます。それぞれ科目名は「〇〇語上級（読解）a,b」、「〇〇語上級（会話）a,b」です。これは、週1日の授業で1年間で修了し、単位は半期ごとに1単位、前後期で計2単位の科目です。これらの科目は単独履修、並行履修のどちらも可能です。

なお、韓国・朝鮮語・ドイツ語には、中級、上級科目は開講されていません。

*第二外国語科目の卒業要件である4単位の組み合わせは自由です。ただし、レベル設定があるので、履修に際しては、科目名にローマ数字が付されているものはその順に、また初級、中級、上級の順についても下位科目から履修することを原則とします。この原則以外の履修方法を希望する場合は、履修登録の前に、第二外国語担当の専任教員に相談の上、許可を得てください。

*第二外国語科目の卒業要件である計4単位を超えて取得した単位についても、卒業単位として数えることができます。

*留学生など日本語を母語としない学生は、自らの母語以外の科目を選択しなければなりません。

8. 専門科目

専門科目分野の科目は以下のコースの科目群にわかれています。

国際ビジネスコミュニケーション専攻

- (1) 国際ビジネスコース

国際教養コミュニケーション専攻

- (1) 国際文化コース (2) 英語教育コース
(3) 国際協力コース

各コースの科目群は、以下のように構成されています。

- (1) コース概論
(2) 複数の講義科目(2年次以降) (3) インターンシップ/フィールドワーク(2年次以降)
(4) ゼミナール(3年次) (5) 卒業研究(4年次)

①専門科目群(ゼミナールと卒業研究を除く)【卒業要件：選択14科目/28単位】

ゼミナールと卒業研究を除く、専門科目群に属する科目から、コースに関係なく選択した14科目を履修し、その単位を修得する必要があります。この条件を超えて専門科目を履修し修得した単位を卒業単位に数えることができます。

科目の名称、単位数、履修学年、開講期間については、カリキュラム表(p.95～98)をご覧ください。

専門コースへの所属 (p.89参照)

3年生になると各専門コース別の専門科目やゼミナール、卒業研究を履修していくこととなります。2年次後期に所属するゼミナールを選ぶことは、すなわち各専攻の学生にとって専門コースを選択することにもなるわけです。

ゼミ所属の登録のためには、2年次前期までに26単位以上を修得していることが必要です。所属を希望するゼミナールの登録申請者が定員を超えるゼミナールでは、各ゼミナール担当者が設ける基準で選抜することになります。

希望の専門コースに所属するためには、各コースが指定する推奨科目を履修しておくことをすすめます。各専門コースにおいて、事前あるいは同時に履修することが望ましい科目は、次ページの通りです。

なお、自分のゼミナールが所属しない専門コースの専門科目を履修し、その単位を修得することもできます。

専攻	コース	履修が望ましい科目
国際ビジネスコミュニケーション	国際ビジネス	経営学 a, b
		マーケティング概論 a, b
		簿記会計学 a, b
		国際ビジネスフィールドワーク I
		国際ビジネスフィールドワーク II
		国際関係論 I
		国際関係論 II
		異文化コミュニケーション a, b
		NPO・NGO論
		地域研究 I
		地域研究 II
		American Government a, b
		アメリカ文化論 a
		Media English a, b
国際教養コミュニケーション	下記3コース 共通	近現代史
		国際情勢 I
		国際情勢 II
		日本国憲法
	国際文化	外国文学
		比較文化論 I
		比較文化論 II
		日本語学概論 a, b
		異文化コミュニケーション a, b
		Cross Cultural Communication a, b
		英語音声学・音韻論 a, b
	英語教育	教育人間学
		コミュニケーション心理学
		児童心理学
		比較文化論 I
		比較文化論 II
		異文化コミュニケーション a, b
		Cross Cultural Communication a, b
		対照言語学 a, b
	国際協力	地球環境論 I
		地球環境論 II
		ジェンダー論
		国際経済論 a, b

専門コース修了証

自分の所属するコースの概論科目、専門科目、ゼミナール、卒業研究に加えて、所属コースの履修推奨科目（上記表参照）を履修し、あわせて40単位以上修得した学生は、学位記授与式にて『専門コース修了証』を受け取ることができます。希望者は申請書に最終成績通知表を添付し、教務グループに提出してください。

②「ゼミナール」および「卒業研究」【卒業要件：必修4科目/8単位】

「ゼミナール」および「卒業研究」は、各専門コースに属します。(p.89参照)

すべての学生は、3年次に、同じ教員が担当する「ゼミナールa」および「ゼミナールb」、4年次に、3年次の「ゼミナール」と同じ教員が担当する「卒業研究a」および「卒業研究b」を履修し、その単位を修得する必要があります。

卒業研究について

「卒業研究」においては、学修の成果として卒業論文・課題研究または卒業制作の提出が必須です。

卒業論文・卒業制作の形式・提出方法については各年度の5月頃までに詳細な説明があります。

「題目・概要届出票」、「卒業研究に関する許諾書」等を指定された期日に提出してください。スケジュール、形式および審査判定基準については以下を参照してください。

[スケジュール]

3年次「ゼミナールb」	テーマの検討
→4年次「卒業研究a」	「卒業研究」の題目・概要の提出(5月末)
→4年次「卒業研究a, b」	卒業論文・課題研究または卒業制作の作成 卒業論文・課題研究または卒業制作の提出(12月下旬) 口頭試問(1月中旬)
→4年次「卒業研究」終了後	優秀論文発表会(2022年度は、2023年1月24日予定)

[形式]

卒業論文・卒業制作ともに

- ①最低字数の制限の厳守
- ②書式設定の厳守
- ③引用部分とその出典を所定の方法で明示していること
- ④卒業論文・卒業制作としての構成を成していること

が最低条件とされます。詳細については各コースおよび各ゼミナールの担当者からの指導にしたがってもらいます。また卒業論文・制作の作成に向けて、1年次から基本的な書式を身につけておくように努力してください。

[卒業論文審査判定基準]

1. 表紙、字数、行数、フォント、余白などの形式が守られている。
2. 文体および記述スタイルが適切である。
3. 問題を適切に設定し、それに答えられている。
4. 先行研究への言及を含む、調査や考察がなされている。
5. 使われている情報やデータが適切である。
6. 構成が整理されており、論理的で一貫している。
7. 使われている文献が的確で参考文献として正確に示されている。
8. 何らかの点で自分の意見や解釈が示されている。
9. 剽窃などの不正行為が行われていない。

9. その他

その他の分野として、以下の科目群があります。それぞれの説明部分をご覧ください。これらに属する科目はすべて選択です。必ずしも卒業に必要なものではありません。

- (1) 海外留学プログラム (2) 交換留学プログラム
(3) 他大学との単位互換に属する科目群 (4) 教職課程科目

ただし、教職課程科目を履修し修得した単位を卒業単位として数えることはできません。

これらの科目群の科目の名称、履修学年、単位数については、カリキュラム表をご覧ください。

10. ストレス耐性科目

本学は、創立100周年(2024年)を念頭に置き、大学の目指す姿として「B's Vision 2024」において4つのビジョンを掲げています。その一つとして「ストレス耐性を持った人材の育成」があります。外国語学部では、ストレスおよびストレスマネジメントに関する知識とスキルを身につけるための科目を、以下のように設定しています。

ストレス耐性科目：「キャリアプランⅠ」、「キャリアデザインⅠ」、「キャリアデザインⅡ」
(いずれも「基礎総合力科目」の中の「キャリア科目」)

11. 児童英語教育プログラム修了証

下記の科目を全て履修し、単位を修得した学生には、卒業時に、「児童英語教育プログラム修了証」を発行します。

希望する学生は、卒業年次の2月に、申請書に最終成績通知表を添付し、教務グループに提出して下さい。

修了に必須である児童英語教育科目：「児童英語教育論」、「児童英語教育教材論」、
「児童英語教育実習 a」、「児童英語教育実習 b」、
「児童心理学」

【注意事項】

上記科目は p. 119 の教職課程の科目ではありません。東京都教育委員会への教育職員免許状の申請には適用されません。

12. 各分野の卒業要件を合計した単位数と卒業に必要な総単位数との差【卒業要件：選択28単位】

各科目群で科目を履修し修得しなければならない単位数を合計すると100単位になります。卒業に必要な総単位数128単位には28単位不足しています。この不足分については、卒業単位として数えられる科目群から科目を履修し、その単位を修得してください。

専門コースとゼミナール

※注1 ゼミナール名は、2022年4月現在のものです。変更となる場合があります。

※注2 専攻を超えてゼミナールを履修することはできません。

国際ビジネスコミュニケーション専攻

専門コース名	ゼミナール名
国際ビジネスコース	米中新冷戦時代の国際政治経済
	国際ビジネスと法
	観光キャリア&ホスピタリティ・デザイン
	職場の人間行動を科学する
	情報科学
	言語処理と習得の理論および動機づけ理論に学ぶ外国語4技能の向上
	The Psychology of Motivation モチベーション心理
	「投資」を通じて社会を理解する
	マーケティング戦略の実践
	データサイエンス
アメリカのいろいろなトピックとイシュー	

国際教養コミュニケーション専攻

専門コース名	ゼミナール名
英語教育コース	Community Outreach and Intercultural Communication
	英語教育学研究 — 英語授業の実践研究
	国際理解を深める児童英語教育
	ことばの探求
国際協力コース	国際開発・ジェンダーと開発研究
	人権・ビジネス・国際協力研究
国際文化コース	イギリス社会とジェンダー
	多言語コミュニケーション研究
	ドラマとシネマの英語コミュニケーション
	日本語・日本文化に関する研究
—	アメリカ文学／文化とメディア
—	COOL JAPAN Intercultural Comparative Studies of Japanese Tourism

文京学院大学 外国語学部 国際ビジネスコミュニケーション専攻 カリキュラムマップ

	1年次	2年次	3、4年次
英語コミュニケーション	<p>Communicative English Ia/Ib Reading Ia/Ib Integrated Skills Ia/Ib Vocabulary Building a/b eラーニング応用a/b TOEIC・英検入門a/b TOEIC・英検初級a/b TOEIC・英検中級a/b Academic Reading Applied Writing and Research</p>	<p>Communicative English IIa/IIb Reading IIa/IIb Integrated Skills IIa/IIb Literature</p>	<p>Writing IIIa/IIIb Content-based English a/b Oral Communication Ia/IIb Oral Communication IIa/IIb</p>
専門	<p>国際ビジネスコース概論 国際アカウンティング 国際経済論a/b 国際ビジネス特講Ia/Ib/IIa/IIb 環境とビジネス ホテル・旅館講 人的資源管理論(2020年度生のみ) インターンシップI(国内)/II(海外)(2019年度生のみ)</p>	<p>Japanese Business ビジネスライティング 国際ビジネス取引 環境とビジネス 国際ビジネス特講Ia/Ib/IIa/IIb 環境とビジネス ホテル・旅館講 人的資源管理論(2020年度生のみ) インターンシップI(国内)/II(海外)(2019年度生のみ)</p>	<p>ワールドワーク 国際ビジネスワールドワークI/II Business Planning Business case method 国際政治経済論a/b グローバルビジネス戦略a/b 国際マーケティング環境 国際マーケティング戦略 国際観光ビジネス論 ホスピタリティ・コミュニケーション論 国際ビジネスと法 英文契約書読解 Negotiation English ゼミナールa/b 卒業研究a/b</p>
教養・情報処理	<p>人間共生論 新・文明の旅特講a/b 新・文明の旅総合講義 地球環境論/II 初年次セミナーa/b コミュニケーション概論 日本語表現法入門 健康の科学 スポーツ シズンスポーツ 哲学I/II 芸術I/II マーケティング概論a/b 経済学a/b 社会学 外国文学 簿記会計学a/b 経営学 a/b 法学 日本国憲法 近現代史 西洋史 ジェンダー論 比較文化論/II 日本語学概論a/b Cool Japan Japan and International Community Japanese Society Religion in Japan 情報処理演習a/b 情報処理概論a/b</p>	<p>国際情勢I/II 児童心理学 日本語表現法応用/II アニメーション論 表象論 Conference English 翻訳入門a/b グローバル社会と法 教育人間学 コミュニケーション心理学 Screen English a/b Media English a/b ドイツ社会概論 異文化コミュニケーションa/b 教養特講a/b ITシステム論 ビジネスコンピューティング Web作成技法</p>	<p>プログラミングa/b</p>
第二外国語	<p>中国語初級Ia/Ib 中国語初級総合a/b フランス語初級Ia/Ib フランス語初級総合a/b スペイン語初級Ia/Ib スペイン語初級総合a/b 韓国・朝鮮語初級Ia/Ib ドイツ語初級Ia/Ib</p>	<p>中国語初級IIa/IIb フランス語初級IIa/IIb スペイン語初級IIa/IIb 韓国・朝鮮語初級IIa/IIb 中国語中級(会話)a/b 中国語中級(読解)a/b フランス語中級(会話)a/b フランス語中級(読解)a/b スペイン語中級(会話)a/b スペイン語中級(読解)a/b</p>	<p>中国語上級(会話)a/b 中国語上級(読解)a/b フランス語上級(会話)a/b フランス語上級(読解)a/b スペイン語上級(会話)a/b スペイン語上級(読解)a/b</p>
キャリア	<p>キャリアプランI</p>	<p>キャリアプランII インターンシップI/III/V(国内)/IV/VI(海外)(2020年度生のみ)</p>	<p>キャリアデザインI/II</p>

文京学院大学 外国語学部 国際教養コミュニケーション専攻 カリキュラムマップ

	1年次	2年次	3、4年次
英語コミュニケーション	<p>Communicative English Ia/Ib Reading Ia/Ib Writing Ia/Ib Integrated Skills Ia/Ib 英語資格講座I/II Vocabulary Building a/b エラーニング応用a/b TOEIC・英検入門a/b TOEIC・英検初級a/b TOEIC・英検中級a/b TOEFL講座a/b Academic Reading Academic Writing Applied Writing and Research</p>	<p>Communicative English IIa/IIb Reading IIa/IIb Writing IIa/IIb Integrated Skills IIa/IIb Literature</p>	<p>Writing IIIa/IIIb Content-based English a/b Oral Communication Ia/IIb Oral Communication IIa/IIb</p>
専門(コース)	<p>国際協カコース: 国際協カコース概論 国際文化協力 国際機構論a/b 国際関係論I/II NPO・NGO論 地域研究I/II 国際人権法 ジェンダーと開発 国際理解・地球市民教育論 国際社会開発論 開発経済学 農村開発論 国際協力特講Ia/Ib/IIa/IIb Social Development in Japan</p> <p>国際文化コース: 国際文化コース概論 イギリス文学a/b American Government a/b フランス文化論a/b アメリカ文化論a/b イギリス文化論a/b 日本文化論a/b 演劇論a/b Japanese Literature and Performing Arts 国際文化フィールドワークI/II 国際文化特講Ia/Ib</p> <p>英語教育コース: 英語教育コース概論 児童英語教育実習a/b 児童英語教育論 児童英語教育教材論 英語音声学・音韻論a/b 英語学a/b 英語学習理論 英語教育特講Ia/Ib 学校インターナショナル</p>	<p>国際協カフィールドワークI/II 国際協カフィールドワーク実践 平和研究 ゼミナールa/b 卒業研究a/b</p> <p>国際文化フィールドワーク実践III 対照言語学a/b アメリカ文学a/b 国際文化特講IIa/IIb ゼミナールa/b 卒業研究a/b</p> <p>英語史a/b 英語教育特講IIa/IIb ゼミナールa/b 卒業研究a/b</p>	
教養・情報処理	<p>人間共生論 新・文明の旅特講a/b 新・文明の旅総合講義 地球環境論I/II 初年次ゼミナーa/b コミュニケーション概論 日本語表現法入門 健康の科学 スポーツ シーズンスポーツ 哲学I/II 芸術I/II マーケティング概論a/b 経済学a/b 社会学 外国文学 簿記会計学a/b 経営学 a/b 法学 日本国憲法 近現代史 西洋史 ジェンダー論 比較文化論I/II 日本語学概論a/b Cool Japan Japan and International Community Japanese Society Religion in Japan 情報処理演習a/b 情報処理概論a/b</p>	<p>国際情勢I/II 児童心理学 日本語表現法応用I/II アニメーション論 表参論 Conference English 翻訳入門a/b グローバル社会と法 教育人間学 コミュニケーション心理学 Screen English a/b Media English a/b ITシステム論 ビジネスコンピュテーティング Web作成技法 ドイツ社会概論 異文化コミュニケーションa/b Cross Cultural Communication a/b 教養特講a/b</p>	<p>プログラミングa/b</p>
第二外国語	<p>中国語初級Ia/Ib 中国語初級総合a/b フランス語初級Ia/Ib フランス語初級総合a/b スペイン語初級Ia/Ib スペイン語初級総合a/b 韓国・朝鮮語初級Ia/Ib ドイツ語初級Ia/Ib</p>	<p>中国語初級IIa/IIb フランス語初級IIa/IIb スペイン語初級IIa/IIb 韓国・朝鮮語初級IIa/IIb 中国語中級(会話)a/b 中国語中級(読解)a/b フランス語中級(会話)a/b フランス語中級(読解)a/b スペイン語中級(会話)a/b スペイン語中級(読解)a/b</p>	<p>中国語上級(会話)a/b 中国語上級(読解)a/b フランス語上級(会話)a/b フランス語上級(読解)a/b スペイン語上級(会話)a/b スペイン語上級(読解)a/b</p>
キャリア	<p>キャリアプランI</p>	<p>キャリアプランII インターシップI/II/V(国内)/IV/VI(海外)(2020年度生のみ)</p>	<p>キャリアデザインI/II</p>

カリキュラム表：授業科目と単位数

* 留学特待生プログラムの学生については一部異なるので、「外国語学部留学特待生プログラム規程」を参照。

* (共)は、経営学部との共通科目です。

区分	授業科目	履修学年	単位数	
			必修	選択
大学特別科目	人間共生論	1	2	
	新・文明の旅特講 a (共)	1		2
	新・文明の旅特講 b (共)	1		2
	新・文明の旅総合講義 (共)	1		2
	地球環境論 I (共)	1		2
	地球環境論 II (共)	1		2
英語コミュニケーション科目 基礎	Communicative English I -a	1	2	
	Communicative English I -b	1	2	
	Reading I -a	1	1	
	Reading I -b	1	1	
	Writing I -a	1	1	
	Writing I -b	1	1	
	Integrated Skills I -a	1	1	
	Integrated Skills I -b	1	1	
	英語資格講座 I	1	1	
	英語資格講座 II	1	1	
	Communicative English II -a	2	2	
	Communicative English II -b	2	2	
	Reading II -a	2	1	
	Reading II -b	2	1	
	Writing II -a	2	1	
	Writing II -b	2	1	
	Integrated Skills II -a	2	1	
	Integrated Skills II -b	2	1	
	Writing III -a	3	1	
	Writing III -b	3	1	
	Content-based English a	3	1	
	Content-based English b	3	1	
	Oral Communication I -a	3	1	
	Oral Communication I -b	3	1	
	Oral Communication II -a	4	1	
	Oral Communication II -b	4	1	
	e ラーニング応用 a	1		1
	e ラーニング応用 b	1		1
	Vocabulary Building a	1		1
	Vocabulary Building b	1		1
	TOEIC・英検入門 a	1		1
	TOEIC・英検入門 b	1		1
	TOEIC・英検初級 a	1		1
TOEIC・英検初級 b	1		1	
TOEIC・英検中級 a	1		1	
TOEIC・英検中級 b	1		1	
TOEFL 講座 a	1		1	
TOEFL 講座 b	1		1	

区分		授業科目	履修学年	単位数			
				必修	選択		
英語コミュニケーション科目	基礎	Academic Reading	1		1		
		Academic Writing	1		1		
		Applied Writing and Research	1		1		
		Literature	2		1		
基礎総合力科目	基礎総合力	初年次セミナー a	1	1			
		初年次セミナー b	1	1			
		コミュニケーション概論	1	2			
		日本語表現法入門 (共)	1		2		
	キャリア	キャリアプラン I	1	2			
		キャリアプラン II	2	2			
		キャリアデザイン I	3	2			
		キャリアデザイン II	3	2			
		〈2020 年度生対象〉					
		インターンシップ I (国内)	2		2		
		インターンシップ II (海外)	2		2		
		インターンシップ III (国内)	2		4		
		インターンシップ IV (海外)	2		4		
		インターンシップ V (国内)	2		6		
	インターンシップ VI (海外)	2		6			
	基礎総合力科目	教	健康の科学 (共)	1		2	
			ジェンダー論 (共)	1		2	
			哲学 I	1		2	
			哲学 II	1		2	
			芸術 I (共)	1		2	
			芸術 II (共)	1		2	
			外国文学	1		2	
			日本語学概論 a	1		2	
			日本語学概論 b	1		2	
			西洋史	1		2	
			近現代史	1		2	
			比較文化論 I (共)	1		2	
			比較文化論 II (共)	1		2	
			法学	1		2	
			養	日本国憲法	1		2
				経済学 a	1		2
		経済学 b		1		2	
経営学 a		1			2		
経営学 b		1			2		
簿記会計学 a		1			2		
簿記会計学 b		1			2		
マーケティング概論 a		1			2		
マーケティング概論 b		1			2		
社会学		1			2		
スポーツ (共)		1			1		
シーズンスポーツ (共)		1			1		

授業科目と単位数

区分	授業科目	履修学年	単位数	
			必修	選択
基礎総合力科目	Cool Japan	1		2
	Japan and International Community	1		2
	Japanese Society	1		2
	Religion in Japan	1		2
	グローバル社会と法	2		2
	翻訳入門 a	2		2
	翻訳入門 b	2		2
	Screen English a	2		2
	Screen English b	2		2
	Conference English	2		2
	日本語表現法応用 I	2	〈共〉	2
	日本語表現法応用 II	2	〈共〉	2
	アニメーション論	2		2
	表象論	2		2
	国際情勢 I	2		2
	国際情勢 II	2		2
	コミュニケーション心理学	2		2
	児童心理学	2		2
	教育人間学	2		2
	教養特講 a	2		2
	教養特講 b	2		2
	ドイツ社会概論	2		2
	異文化コミュニケーション a	2		2
	異文化コミュニケーション b	2		2
	Cross Cultural Communication a	2		2
	Cross Cultural Communication b	2		2
	Media English a	2		2
	Media English b	2		2
情報処理	情報処理演習 a	1	1	
	情報処理演習 b	1	1	
	情報処理概論 a	1		2
	情報処理概論 b	1		2
	IT システム論	2		2
	ビジネスコンピューティング	2		1
	Web 作成技法	2		1
	プログラミング a	3		1
	プログラミング b	3		1
第二外国語	中国語初級総合 a	1		2
	中国語初級総合 b	1		2
	フランス語初級総合 a	1		2
	フランス語初級総合 b	1		2
	スペイン語初級総合 a	1		2
	スペイン語初級総合 b	1		2
	中国語初級 I -a	1		1
	中国語初級 I -b	1		1
	フランス語初級 I -a	1	〈共〉	1
フランス語初級 I -b	1	〈共〉	1	

履修の手引(2019~2020年度入学者用)

区分	授業科目	履修学年	単位数	
			必修	選択
基礎 総合 力科目	第二 外国語	スペイン語初級Ⅰ -a (共)	1	1
		スペイン語初級Ⅰ -b (共)	1	1
		ドイツ語初級Ⅰ -a	1	1
		ドイツ語初級Ⅰ -b	1	1
		韓国・朝鮮語初級Ⅰ -a (共)	1	1
		韓国・朝鮮語初級Ⅰ -b (共)	1	1
		中国語初級Ⅱ -a	2	1
		中国語初級Ⅱ -b	2	1
		フランス語初級Ⅱ -a (共)	2	1
		フランス語初級Ⅱ -b (共)	2	1
		スペイン語初級Ⅱ -a (共)	2	1
		スペイン語初級Ⅱ -b (共)	2	1
		韓国・朝鮮語初級Ⅱ -a (共)	2	1
		韓国・朝鮮語初級Ⅱ -b (共)	2	1
		中国語中級(会話) a	2	1
		中国語中級(会話) b	2	1
		中国語中級(読解) a	2	1
		中国語中級(読解) b	2	1
		フランス語中級(会話) a	2	1
		フランス語中級(会話) b	2	1
		フランス語中級(読解) a	2	1
		フランス語中級(読解) b	2	1
		スペイン語中級(会話) a	2	1
		スペイン語中級(会話) b	2	1
		スペイン語中級(読解) a	2	1
		スペイン語中級(読解) b	2	1
		中国語上級(会話) a	3	1
		中国語上級(会話) b	3	1
		中国語上級(読解) a	3	1
		中国語上級(読解) b	3	1
		フランス語上級(会話) a	3	1
		フランス語上級(会話) b	3	1
		フランス語上級(読解) a	3	1
		フランス語上級(読解) b	3	1
スペイン語上級(会話) a	3	1		
スペイン語上級(会話) b	3	1		
スペイン語上級(読解) a	3	1		
スペイン語上級(読解) b	3	1		
専門 科目	国際 ビジネス コース コース 専門 科目	ビジネスコース概論	2	2
		国際ビジネス特講Ⅱ - a	2	2
		国際ビジネス特講Ⅱ - b	2	2
		国際ビジネスフィールドワークⅠ	3	2
		国際ビジネスフィールドワークⅡ	3	2
		フィールドワーク(長期国内海外企業インターンシップ)	3	2
		Business Planning	3	2
		Business case method	3	2

区分	授業科目	履修学年	単位数			
			必修	選択		
専門科目	国際ビジネスコース 両専攻共通科目	Japanese Business	2	2		
		国際アカウンティング	2	2		
		ビジネスライティング	2	2		
		国際経済論 a (共)	2	2		
		国際経済論 b (共)	2	2		
		国際ビジネス取引	2	2		
		環境とビジネス	2	2		
		ホテル・旅館論	2	2		
		人的資源管理論 (2020年度生のみ)	2	2		
		インターンシップ I (国内) (2019年度生のみ)	2	2		
		インターンシップ II (海外) (2019年度生のみ)	2	2		
		国際政治経済論 a	3	2		
		国際政治経済論 b	3	2		
		グローバルビジネス戦略 a	3	2		
		グローバルビジネス戦略 b	3	2		
		国際マーケティング環境	3	2		
		国際マーケティング戦略	3	2		
		国際観光ビジネス論	3	2		
		ホスピタリティ・コミュニケーション論	3	2		
		国際ビジネスと法	3	2		
		英文契約書読解	3	2		
		Negotiation English	3	2		
		国際ビジネス特講 I - a	2	2		
		国際ビジネス特講 I - b	2	2		
		国際文化コース	コース専門科目	国際文化コース概論	2	2
				国際文化フィールドワーク	3	2
				国際文化フィールドワーク実践 I	2	2
国際文化フィールドワーク実践 II	2			2		
国際文化フィールドワーク実践 III	3			2		
国際文化特講 II - a	3			2		
国際文化特講 II - b	3			2		
国際文化コース	両専攻共通科目			Japanese Literature and Performing Arts	2	2
				イギリス文学 a	2	2
				イギリス文学 b	2	2
		American Government a	2	2		
		American Government b	2	2		
		フランス文化論 a	2	2		
		フランス文化論 b	2	2		
		アメリカ文化論 a	2	2		
		アメリカ文化論 b	2	2		
		イギリス文化論 a	2	2		
イギリス文化論 b	2	2				
日本文化論 a	2	2				
日本文化論 b	2	2				

区分	授業科目		履修学年	単位数	
				必修	選択
専門科目	国際文化コース	両専攻共通科目	演劇論 a	2	2
			演劇論 b	2	2
			国際文化特講 I - a	2	2
			国際文化特講 I - b	2	2
			対照言語学 a	3	2
			対照言語学 b	3	2
			アメリカ文学 a	3	2
			アメリカ文学 b	3	2
	英語教育コース	コース専門科目	英語教育コース概論	1	2
			児童英語教育実習 a	2	2
			児童英語教育実習 b	2	2
			英語教育特講 II -a	3	2
			英語教育特講 II -b	3	2
			両専攻共通科目	児童英語教育論	2
		児童英語教育教材論		2	2
		英語音声学・音韻論 a		2	2
		英語音声学・音韻論 b		2	2
		英語学 a		2	2
		英語学 b		2	2
		英語史 a		3	2
		英語史 b		3	2
		英語学習理論		2	2
		英語教育特講 I - a		2	2
		英語教育特講 I - b		2	2
		学校インターンシップ		2	2
		語用論 a		3	2
		語用論 b		3	2
		国際協力コース	コース専門科目	国際協力コース概論	1
	国際協力特講 II - a			2	2
	国際協力特講 II - b			2	2
国際協力フィールドワーク I	3			2	
国際協力フィールドワーク II	3			2	
国際協力フィールドワーク実践	3			2	
両専攻共通科目	Social Development in Japan		2	2	
	国際文化協力		2	2	
	国際機構論 a		2	2	
	国際機構論 b		2	2	
	国際関係論 I		2	2	
	国際関係論 II		2	2	
	NPO・NGO論		2	2	
	地域研究 I		2	2	
	地域研究 II		2	2	
	国際人権法		2	2	
	ジェンダーと開発		2	2	

授業科目と単位数

区分		授業科目		履修学年	単位数	
					必修	選択
専門科目	国際協力コース	両専攻共通科目	国際理解・地球市民教育論	2		2
			国際社会開発論	2		2
			開発経済学	2		2
			農村開発論	2		2
			国際協力特講Ⅰ-a	2		2
			国際協力特講Ⅰ-b	2		2
			平和研究	3		2
	共通		ゼミナールa	3	2	
			ゼミナールb	3	2	
			卒業研究a	4	2	
			卒業研究b	4	2	
	留学・他大学等科目		海外語学（英語）研修Ⅰ	1		2
			海外語学（英語）研修Ⅱ	1		2
海外語学（英語外）研修Ⅰ			1		2	
海外語学（英語外）研修Ⅱ			1		2	
国内語学研修			1		2	
海外セメスター語学（英語）研修Ⅰ			1		4	
海外セメスター語学（英語外）研修Ⅰ			1		4	
海外個人フィールドワーク（英語）Ⅰa			1		2	
海外個人フィールドワーク（英語）Ⅰb			1		2	
海外個人フィールドワーク（日本語）Ⅰa			1		2	
海外個人フィールドワーク（日本語）Ⅰb			1		2	
教職課程科目（※）		教職論	1		2	
		教育原理	1		2	
		特別活動の指導法	1		2	
		教育心理学	1		2	
		教育行政学	2		2	
		特別支援教育	2		2	
		教育課程論	2		2	
		道徳教育の指導法	2		2	
		教育の方法及び技術	2		2	
		生徒指導論（進路指導を含む）	2		2	
		教育相談（カウンセリングを含む）	2		2	
		英語科教育法Ⅰ	3		2	
		英語科教育法Ⅱ	3		2	
		英語科教育法Ⅲ	3		2	
		英語科教育法Ⅳ	4		2	
		教育実習の指導	3		1	
		教職実践演習	4		2	
		教育実習Ⅰ	4		2	
教育実習Ⅱ	4		2			
留学生科目	外国人交換	Basic JapaneseⅠ（留学生のみ）	1		4	
		Basic JapaneseⅡ（留学生のみ）	1		4	
		Basic JapaneseⅢ（留学生のみ）	1		4	

※教職課程科目は卒業に必要な単位に含めることができない。

諸 規 程



外国語学部履修規程

(趣 旨)

第1条 本規程は、学則第24条第7項・第8項に基づき、外国語学部の授業科目の履修方法について定める。ただし、学則第15条第13項に定めるGCIに関わる科目（以下、GCI科目）の履修方法等については、GCI履修規程によるものとする。

(履修登録)

第2条 学生は、あらかじめ定められた履修登録期間内に、あらかじめ定められた方法で履修登録するものとする。

2 履修登録は、前期・後期各履修登録期間内に当該学期に履修するすべての科目登録を行う。

3 履修登録確認後、または履修中の科目の変更は、原則として認めない。

4 履修しようとする授業科目は、原則として各学年に配当されている中から選択することが望ましい。

5 登録した授業科目は、原則として途中で放棄することなく履修し評価を受けなければならない。

6 すでに単位を取得した授業科目の再履修は認めない。

7 単位を取得できなかった授業科目は、次学期以降に再度履修登録をしなければ、履修することはできない。

8 英語コミュニケーション科目の履修については、原則として定められた順序どおりに履修を行うものとし、再履修であっても順序を逆転して履修することはできない。

科目名にⅠ、Ⅱ、Ⅲの数字があるものはその順序に従い履修するものとし、数字が異なる科目を同年度に履修することは認めない。科目名にa（前期）、b（後期）のアルファベット記号があるものはその順序に従い履修するものとする。

ただし、「ESP」と「Oral Communication」の履修については、それぞれ以下のように定める。

(1) 「ESP」の履修はa、bの順序でなくてもよい。

(2) 「Oral Communication」の履修は、Ⅰ、Ⅱの順序に従うが、Ⅰの単位が取得できず再履修する場合にはⅠとⅡを同年度に履修してもよい。ただしa、bの履修については、Ⅰはa、bの順序に従うものとするが、Ⅱはa、bの順序でなくてもよい。

(キャップ制)

第3条 学生が履修登録できる単位数の上限は、年間50単位未満とする。

2 本条第一項の規定にかかわらず、前学期までに履修した科目の平均がGPA3.0以上の成績を修めた学生は当該学期の単位数上限以上の科目を登録し履修できる。

3 以下の科目は本条第1項の対象外とする。

(1) 単位互換協定に基づき単位取得した科目

(2) 海外留学、インターンシップにより取得した科目

(3) 教職課程の教職に関する科目

(4) 「初年次セミナーa」「初年次セミナーb」「英語資格講座Ⅰ」「英語資格講座Ⅱ」「新・文明の旅特講a」「新・文明の旅特講b」「新・文明の旅総合講義」

(5) 通常授業とは別に集中講義形式で開講される科目

(6) GCI科目

(7) その他、教務委員会が認めた科目

4 副専攻の履修を認められた者は、副専攻該当科目に限り本条第1項を適用しない。

(授 業)

第4条 学生は、授業に出席しなければならない。

2 学則第16条の定めに基づき、1年間の授業日数は、定期試験等の期間を含めて、年間35週にわたることを原則とする。

3 原則として、授業回数の3分の2以上の出席がなければ、当該科目の評価は失格となる。これは、半期科目の場合6回以上、通年科目の場合11回以上の欠席に該当する。ただし、英語コミュニケーション科目については、4回以上の欠席をもって失格となる。ただし、「Communicative English I-a」「Communicative English I-b」「Communicative English II-a」「Communicative English II-b」については、それぞれ7回以上の欠席をもって失格となる。

なお、第5条に定める公認欠席に該当する場合は、授業に出席すべき回数には含まれず、出席・欠席のいずれにも参入しない。

また、最終学年において就職活動のためやむを得ず授業を欠席する場合は、科目担当教員の判断による。

4 遅刻3回は欠席1回とする。

5 災害発生時の休講措置は、「緊急時の対処要項」の定めるところによる。

(公認欠席)

第5条 公認欠席(以下、公欠という)は次の理由により授業を欠席する場合で、所定の手続きをすることにより、認められる。

(1) 慶弔事に出席、参列する場合。

(2) 大学が派遣する研修会、進学相談会等に参加する場合。

(3) 「学校保健安全法施行規則第十八条」に定める感染症に罹患した場合。

(4) クラブなどの学外活動で学生委員会の推薦があり、教務委員会が認定した場合。

(5) 教育実習、および実習校による事前ガイダンス等に参加する場合。

(6) その他、教務委員会が認定した場合。

2 前項による公欠については、別に定める。

(単位数)

第6条 各授業に対する単位数は原則として次の基準による。

(1) 学則第17条に定める講義については、1時間の授業に対し、教室外における2時間の準備または学習を必要とするものとし、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。

(2) 学則第17条に定める演習については、1時間の授業に対し、教室外における2時間の準備または学習を必要とするものとし、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。

(3) 学則第17条に定める実験、実習および実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。

(単位の計算)

第7条 単位の計算方法は次のとおりとする。

前条1項の授業については、週2時間の授業がある科目は半期で2単位、前条2項の授業については、週2時間の授業がある科目は半期で1単位または2単位、前条3項の授業については、週2時間の授業がある科目は半期で1単位の計算とする。

(単位の認定)

第8条 各授業科目の単位の認定は、原則として、科目担当教員が合格点の評価を与えることによって認定するものとする。

2 学生が留学先などで取得した科目単位や講座単位の、本学における単位認定については、別に定める。

3 英語コミュニケーション科目「英語資格講座Ⅰ」はTOEIC®テストで400点以上、もしくは英検で準2級以上を取得したことが証明された場合、履修が免除され単位が認定される。

英語コミュニケーション科目「英語資格講座Ⅱ」はTOEIC®テストで500点以上、もしくは英検で2級以上を取得したことが証明された場合、履修が免除され単位が認定される。

4 前項とは別に英語検定試験などによって高い英語力を持つことが証明され、学生が英語コミュニケーション科目の履修免除と単位認定を望んだ場合、一定の条件によって単位を認定することがある。これについては別に定めるものとする。

(カリキュラム)

第9条 外国語学部英語コミュニケーション学科のカリキュラムは、次の1～5の5つの科目群からなる。各科目群の科目については、文京学院大学学則別表の通りとする。

- (1) 大学特別科目 (2) 英語コミュニケーション科目 (3) 基礎総合力科目
(4) 専門科目 (5) その他

2 留学特待生プログラム履修生のカリキュラムは別に定める。

(大学特別科目群)

第10条 大学特別科目群は、必修科目と選択科目からなる。

2 学生は必修科目を履修し、2単位を取得しなければならない。科目名は文京学院大学学則別表の通りとする。

3 この条件を超えて履修した選択科目の単位については、卒業単位として数えることができる。

(英語コミュニケーション科目群)

第11条 英語コミュニケーション科目群は、必修科目と選択科目からなる。

2 学生は必修科目をすべて履修し、30単位を取得しなければならない。科目名は文京学院大学学則別表の通りとする。

3 この条件を超えて履修した選択科目の単位については、卒業単位として数えることができる。

(基礎総合力科目群)

第12条 基礎総合力科目群は、基礎総合力科目、キャリア科目、教養科目、情報処理科目、第二外国語科目からなる。

2 学生は基礎総合力科目の中から必修科目3科目を履修し、4単位を取得しなければならない。この条件を超えて履修した選択科目の単位については、卒業単位として数えることができる。また、キャリア科目の中から必修科目4科目を履修し、8単位を取得しなければならない。科目名は文京学院大学学則別表の通りとする。

3 学生は教養科目の中から選択科目を履修し、14単位を取得しなければならない。科目名は文京学院大学学則別表の通りとする。この条件を超えて履修した選択科目の単位については、卒業単位として数えることができる。

4 学生は情報処理科目の中から必修科目2科目を履修し、2単位を取得しなければならない。科目名は文京学院大学学則別表の通りとする。この条件を超えて履修した選択科目の単位については、卒業単位として数えることができる。

その際、情報処理演習に該当する科目は、科目名に付されているアルファベットの順に履修することを原則とする。この原則以外の履修方法を希望する場合は、履修登録の前に、情報処理科目担当の専任教員に相談の上、許可を得なければならない。

5 学生は第二外国語科目の中からは選択必修科目を履修し、2単位を取得しなければならない。その際、2単位は同一言語を履修し取得しなければならない。科目名は文京学院大学学則別表の通りとする。この条件を超えて履修した科目の単位については、卒業単位として数えることができる。

履修に際しては、科目名にローマ数字が付されているものはその順に、また初級・中級・上級の順についても下位科目から履修することを原則とする。この原則以外の履修方法を希望する場合は、履修登録の前に、第二外国語担当の専任教員に相談の上、許可を得なければならない。

なお、留学生など日本語を母語としない学生は、自らの母語以外の科目を選択しなければならない。

(専門科目群)

第13条 専門科目群は、国際ビジネスコース、国際協力コース、英語教育コース、国際文化コースの4コースに属する科目からなる。各コースは選択の専門科目、必修のゼミナールおよび卒業研究からなる。

2 学生は、「ゼミナールa」「ゼミナールb」および「卒業研究a」「卒業研究b」を除く専門科目より28単位を取得しなければならない。この条件を超えて履修した専門科目の単位は、卒業単位として数えることができる。

(ゼミナールおよび卒業研究)

第14条 「ゼミナールa」「ゼミナールb」および「卒業研究a」「卒業研究b」は、専門科目群に開設される。

2 学生は3年次に同一教員が担当する「ゼミナールa」および「ゼミナールb」を履修し、4単位を取得しなければならない。各ゼミナールでは所属する学生の選抜を行うことがある。

3 ゼミ所属の登録のためには、ゼミの登録申請時までには、26単位以上を取得していることを要する。

4 学生は4年次に、「ゼミナールa」「ゼミナールb」と同一の担当教員による「卒業研究a」および「卒業研究b」を履修し、4単位を取得しなければならない。

5 学生は、「卒業研究b」(後期)において、卒業論文、課題研究もしくは卒業制作を提出する。その規程および審査方法については、別に定める。

(GCI科目群)

第15条 GCI科目は、学則別表のとおりとする。

2 GCI科目は、入試選考等によりあらかじめ許可された学生(以下、GCI学生)のみ履修することができる。

3 前項にかかわらず、所定の要件を充たした学生は、GCI科目の履修を認められる場合がある。

4 GCI科目を履修することにより取得した単位は、それぞれの科目の特色に応じて、「英語コミュニケーション科目群」「基礎総合力科目群」「専門科目群」の取得単位に参入する。

(専門コースの選択)

第16条 学生は2年次前期に、所属する専攻において、以下のコースを選ばなければならない。国際教養コミュニケーション専攻においては、コース毎に学生の選抜を行うことがある。

(1) 国際ビジネスコミュニケーション専攻においては、国際ビジネスコース

(2) 国際教養コミュニケーション専攻においては、国際協力コース、英語教育コース、国際文化コース

2 学生は、自分の所属する専門コースに開設されたゼミナールや卒業研究を選ばなければならない。

3 学生の希望による専攻の変更は、原則として認めない。ただし、一定の条件の下で変更を認めることがある。

4 所属する専門コースの中で開設されたコース概論、専門科目、ゼミナール、卒業研究をあわせて40単位以上取得した学生に、当該の専門コース修了証を授与する。

(卒業要件)

第17条 卒業資格は、下記の要件をすべて満たした者に与えられる。

(1) 4ヵ年以上在学し、必修科目を含む総計128単位以上を取得していること。ただし在籍4年にわたるも、その間1期(前期または後期)以上休学した者は、4ヵ年在学とは認められない。

(2) 各科目群の卒業要件を満たしていること。

(3) 「ゼミナールa」「ゼミナールb」「卒業研究a」「卒業研究b」を修得していること。

(卒業見込み証明書)

第18条 3年次終了の時点で90単位以上取得している学生は、4年次に進級した時点で卒業見込み証明書の発行を受けることができる。

(その他)

第19条 その他の実務資格科目、海外留学等科目、外国人交換留学生科目については、文京学院大学学則別表の通りとする。

(中学校・高等学校教育職員免許状修得の要件)

第20条 文京学院大学学則別表に定める教職課程の科目を教育職員免許法施行規則等で定められた方法で履修することにより、中学校教諭一種免許状(英語)および高等学校教諭一種免許状(英語)を修得することができる。免許状の申請は、所定の要件を満たしている学生については、本学が一括して行う。

2 免許法施行規則に定める科目区分のうち、教職に関する科目に該当する科目の単位は、卒業要件単位には含めることができない。

(試験の実施要領)

第21条 試験は、期日を定めて定期試験を行うほか、授業期間内に随時行う。

(追試験および再試験)

第22条 定期試験期間内の試験を受けなかった者に対して、追試験を原則として1回に限り認めることがある。

2 最終学年に履修した科目で成績が不合格の場合は、再試験を1回に限り認めることがある。

3 追試験、再試験は本学部の指定する日時・教室で行う。

4 追試験受験者は、AA(秀)を最高点として評価される。

また、再試験は、不合格者に対して行われるものであるから、再試験受験者はC(可)を合格点として評価される。

5 再試験を受験する場合は、指定の手続き期間内に届け出用紙に記入し、1科目について800円の受験料を添えて教務グループに申し込むこととする。

6 追試験の受験希望者は、試験を受けられなかった事情を説明するもの(医師の診断書・事故証明書など)を事前に教務グループまで提出しなければならない。

(受験資格)

第23条 下記のいずれかに該当する場合は、試験を受けることができない。

(1) 当該科目の履修登録をしていない場合。

(2) 公欠と認められる場合を除き、所定の出席日数に満たなかった場合。

(3) 所定の学納金が未納の場合。ただし、延納許可を受けている場合は除く。

(遵守事項)

第24条 試験においては、下記の事項を遵守すること。

(1) 試験場においては、すべての監督者の指示に従うこと。

(2) 試験場においては、常に学生証を机上に提示すること。学生証を忘れた場合は、事前に教務グループに申し出て入室許可証を受領するものとする。

(3) 試験場には、予め許可を得た物品以外は持ち込んで서는ならない。

(4) 試験場においては、不正行為をしてはならない。原則として、試験開始後の私語、筆記具その他物品等の貸借などは、不正行為とみなす。

(5) 交通機関の運行停止・遅延その他やむを得ない事由と認められる場合でも、原則として、20分以上遅刻した場合は、受験することができない。

(定期試験における不正行為などに対する処置)

第25条 試験に際し、前条(4)の遵守事項に違反した場合は、即時退出および受験停止を命ずる。なお、その試験期間実施全科目の単位取得を無効とする。また、学則第53条に基づいて懲戒処分とすることがある。

(成績の評価の方法)

第26条 成績は、学生が履修した学科目についての理解の程度を具体的に知るために試験等を行った評価であり、その学生の理解の程度・達成度を表わす。

2 学科目の修了・未修了は、試験の成績・実技・面接・レポート・平常の学習態度・発表、授業への参加度などによって認定するものとする。

(成績評価の基準)

第27条 成績の基準は下記の通りとする。

評価	評価基準	Grade Point(GP)	成績評価内容
AA(秀)	90-100点	4.0	特に優れた成績
A(優)	80-89点	3.0	優れた成績
B(良)	70-79点	2.0	妥当と認められる成績
C(可)	60-69点	1.0	合格と認められる成績
P(合格)	-	3.0	合格と認められる成績(合格、不合格科目)
N(認定)	-	-	合格と認められる成績(編入時単位認定等)
F(不可)	59点以下	0.0	合格と認められる成績に達していない
F-(不可)	試験欠席	0.0	成績評価試験等を欠席
F*(不可)	失格	0.0	出席回数が基準を満たしていない

2 ただし、外国留学等に際して必要となる成績証明書については、成績評価の表記の方法は、留学に関する諸規程による。規程がない場合は、留学先である外国の通常の事情等を考慮して教務委員会が決定する。

3 GPより算出されるGPA (Grade Point Average) については、別に定める。

(成績発表)

第28条 成績発表は、本人に対してのみ実施する。

2 学生の保護者に対しては、年間の成績通知表を年度末に送付する。

(学年の進行)

第29条 単位の取得状況等にかかわらず、4年次に達するまでは、毎年上位の学年に進級するものとする。

(勸告)

第30条 学生は、3年次終了時のGPAが1.0未満の場合は、面談をもって退学勧告を受けることがある。

(改正)

第31条 本規程の改正は、外国語学部教授会および大学運営会議の議を経て理事会が決定する。

附 則

1 この規程は、平成30年度入学者から適用する。平成29年度以前の入学者については、従前の規程を適用する。但し、第14条5項については、平成28年度入学者より適用する。

2 この規程は、令和3(2021)年度入学者から適用する。

3 この規程は、令和4(2022)年度入学者から適用する。

外国語学部・留学特待生プログラム規程

(目 的)

第1条 この規程は、外国語学部・留学特待生プログラム (Bunkyo Global Ambassador Scholarship Program) について、基本的な事項を定めることを目的とする。

(留学特待生プログラム)

第2条 外国語学部・留学特待生プログラムとは、英語、および日本語の運用能力が高く、留学に強い意欲と明確な目的意識を持ち、且つ、選抜試験において適性があると認められた学生を対象に実施する特別プログラムである。

(構 成)

第3条 留学特待生プログラムは、(1) 留学、(2) 特別カリキュラム、(3) スカラシップ (学業支援特別給付制度) により構成される。

(種類と選抜・登録)

第4条 留学特待生プログラムは、1年次終了時に書類審査、および選抜試験に合格した者が2年次進級時に登録することができる。書類審査、選抜試験については、別に定めるものとする。

(留学特待生プログラムの内容)

第5条 留学特待生プログラムの内容は次の各号をもって構成される。

(1) 留学

米国・College of St. Benedict / St. John's University 交換留学を実施する。時期は2年次後期から3年次前期までの2セメスター (約9ヶ月) を標準とする。また、中国・北京語言大学短期留学あるいは韓国・仁荷大学サマースクール留学の実施のいずれかより選択できるものとする。時期は、3年次ないし4年次夏期の1ヶ月間 (中国) あるいは3週間 (韓国) とする。

(2) 特別カリキュラム

卒業要件を含む特別カリキュラムを別表のとおりとする。

(3) スカラシップ (学業支援特別給付制度)

i) 在学中3年間の本学の授業料を半額減免する。

ii) 留学奨学金として、①渡航費全額 ②留学先大学の授業料全額 ③滞在費 (米国留学は月額10万円・中国留学は月額5万円・韓国留学は②に寮費と2食分の食費が含まれるため0円) を支給する。ただし、②の留学先大学の授業料に関しては、交換留学の場合は、留学先大学の授業料が免除されるため、支給しない。

(留学特待生プログラム以外の留学プログラムへの参加)

第6条 留学特待生プログラム生による留学特待生プログラム以外の留学プログラムへの参加については以下のように定める。

(1) 交換留学に参加の場合、留学中に取得した英語関連科目の単位を英語必修科目単位に読み替える事ができる。

(2) 交換留学以外の留学プログラムに参加の場合、留学中に取得した単位の英語必修科目単位への読み替えは行わない。

(3) 上記留学時における奨学金給付条件、金額については「留学規程」の定めによる。

(登録の取り消し)

第7条 以下の理由により、留学特待生プログラムの登録の取り消しが認められる。

(1) 病気等のやむを得ない事情により留学特待生プログラムを履修できなくなったと外国語学部教授会が判断したとき。

(2) 第2条の留学特待生プログラムに対する適性が失われたと外国語学部教授会が判断したとき。

(3) 本人から登録の取り消しの申し出があった場合において、外国語学部教授会がその申し出を承認したとき。

(4) 第5条の(1) 留学への参加ができなくなったと外国語学部教授会が判断、または本人からの申し出を外国語学部教授会が承認したとき。

(減免された授業料および給付金の返還)

第8条 減免された授業料および給付金の返還について、以下のように定める。

(1) 前条により留学特待生プログラムの取り消しを認められた者は、それまでに減免された授業料および給付金の全額を返納しなければならない。

ただし、登録の取り消しに至った経緯その他の事情を勘案して、外国語学部教授会が適当と認めるときは、返納の免除もしくは事情に応じた割合での一部の免除をすることができる。

(2) 留学中または帰国後に退学または休学をした者、あるいは修業年限内での卒業ができなかった者は、それまでに減免された授業料および給付金の全額を返納しなければならない。ただし、退学・休学に至った経緯その他の事情あるいは修業年限内での卒業ができなかった経緯その他の事情を勘案して、外国語学部教授会が適当と認めるときは、返納の免除もしくは事情に応じた割合での一部の免除をすることができる。

(その他)

第9条 本規程に定めのない事項は、留学特待生プログラム委員会、および大学運営会議を経て、学長が決定する。

(改正)

第10条 本規程の改正は、外国語学部教授会の議を経て理事会が決定するものとする。

附 則

1. この規程は、平成23年4月1日から施行する。
2. この規程は、平成24年1月1日から施行する。但し、第5条3項は、平成25年度入学のプログラムA特待生より適用するものとする。なお、平成24年度以前の入学者については、入学年度の規程による。
3. この規程は、平成25年4月1日から施行する。
4. この規程は、平成26年4月1日から施行する。
5. この規程は、平成29年4月1日から施行する。
6. この規程は、平成31(2019)年4月1日から施行する。
7. この規程は、令和2(2020)年4月1日から施行する。
8. この規程は、令和3(2021)年4月1日から施行する。

別表

(1) 留学特待生プログラムの卒業要件

科目群	要件単位	科目群	要件単位
大学特別科目	2	情報科目	2
英語コミュニケーション科目	36	第二外国語科目	4
基礎総合力科目	4	専門科目	28
キャリア科目	8	ゼミ・卒業研究	8
教養科目	14	上記以外の科目	22
(合計)	128単位		

- (2) 教養科目における、「日本国憲法」(2単位)と「近現代史」(2単位)を2年次前期までに履修しなければならない必修科目とする。
- (3) 卒業論文ないし卒業作品は英語で執筆ないし制作するものとする。
- (4) 英語コミュニケーション必修科目(32科目36単位)において、履修しなければならない科目(24科目26単位)、および単位認定科目(8科目10単位)を以下の表に定める。

	履修科目(26単位)	単位認定科目(10単位)
1年次前期	Communicative English I -a(2) Integrated Skills I -a(1) Reading I -a(1) Writing I -a(1) 英語資格講座Ⅰ(1) 英語資格講座Ⅱ(1)	
1年次後期	Communicative English I -b(2) Integrated Skills I -b(1) Reading I -b(1) Writing I -b(1)	
2年次前期	Oral Communication I -a(1) Oral Communication II -a(1) Writing III -a(1) Academic Reading(1) Academic Writing(1) TOEFL 講座 a(1)	Communicative English II -a(2) Integrated Skills II -a(1) Reading II -a(1) Writing II -a(1)
2年次後期	〈米国留学〉	Communicative English II -b(2) Integrated Skills II -b(1) Reading II -b(1) Writing II -b(1)
3年次前期	〈米国留学〉 Applied Writing and Research(1) (3年次前期集中授業)	留学先で修得した英語科目(選択)
3年次後期	ESP b Oral Communication I -b(1) Oral Communication II -b(1) Writing III -b(1)	
4年次前期	ESP a Literature(1)	
4年次後期	ESP c	

- (5) 上記以外の留学時の単位認定は別途行う。なお、40単位を超えない範囲で、本学以外で修得した単位を本学における授業科目の履修により修得したもののみなすことができるものとする。
- (6) 以上を除くカリキュラムは一般の学生と同様とする。

外国語学部・留学特待生プログラム特待生選抜についての内規

(留学特待生プログラム)

第1条 留学特待生プログラム特待生については、留学特待生プログラム規程に定める。

(応募資格)

第2条 留学特待生プログラム特待生への選抜を希望する学生は以下の資格を満たしていなければならない。

- (1) 外国語学部1年次生であること
- (2) 日本語と英語の両方について高度の運用能力を有すること
英語に関しては、以下のいずれかの基準を満たしていること
TOEFL (iBT) 61点以上取得
TOEFL - ITP (PBT) 500点以上取得
- (3) 留学に強い意欲と明確な目的意識を持ち、適応能力を有すること

(提出書類)

第3条 留学特待生プログラム特待生への選抜を希望する学生は以下の書類を教務グループに提出しなければならない。

<提出書類> 留学特待生プログラム特待生選抜申込書
志望理由書
英語資格を証明する書類
アドバイザーの推薦書(封印されたもの)
成績証明書
保護者の同意書

(選抜方法)

第4条 選抜方法は書類審査および試験による。

2 試験内容は英語の筆記試験および面接とする。

(主管部門)

第5条 本選抜の主管部門は外国語学部・留学特待生プログラム委員会とする。

(改正)

第6条 本内規の改正は、外国語学部教授会の議を経るものとする。

附 則

1. この内規は平成23年4月1日より施行する。
2. この内規は平成24年1月1日より施行する。
3. この内規は平成25年4月1日より施行する。
4. この内規は平成26年4月1日より施行する。
5. この内規は令和2(2020)年4月1日より施行する。
6. この内規は令和4(2022)年4月1日より施行する。

文京学院大学副専攻規程

(趣 旨)

第 1 条 本規程は、学校教育法施行規則第164条に則り、また学則第19条に基づいて、副専攻に関して必要な事項について定める。

(目 的)

第 2 条 副専攻は、学生各人が所属する学部、学科および専攻又はコースの専門領域(本規程では「主専攻」という)にかかる研究領域以外の研究領域について学ぶことにより、更に学問的視野を拓げ、研究の基礎となる知的興味に應えるとともに、複眼的な思考力を持った「問題発見・解決型の人材」を育成することを目的とする。

(設置領域と科目)

第 3 条 副専攻として設けられる領域と科目は別表の通りとする。

(副専攻登録の申請)

第 4 条 副専攻を履修する者は、2年次前期、3年次前期および4年次前期の履修登録時に「副専攻履修登録申請書」によって、事務局教務グループを通して提出し、所属学部の教務委員会の許可を受けなければならない。ただし、申請できる副専攻は一領域に限られる。

(履修基準)

第 5 条 副専攻は、1年次のGPA 2.5以上の学生が2年次にエントリーできる。3年次に初めてエントリーする場合には、2年次までの成績がGPA 2.5以上でなければならない。4年次に初めてエントリーする場合には、3年次までの成績がGPA 2.5以上でなければならない。

(履修単位および既履修単位の扱い)

第 6 条 副専攻が認定されるためには、対象となる副専攻領域の指定された科目表から12単位以上(または単位にかかわらず6科目以上)の科目を履修しなければならない。

2 副専攻エントリー時に、該当科目中すでに履修済みの科目・単位がある場合には、この科目・単位を含めることができる。

(キャップ制)

第 7 条 各学部には1年間に履修できる単位数の上限が定められているが、基準を満たして副専攻を取得しようとする学生に対して、このキャップ制を除外する。

(各科目の履修登録と履修制限)

第 8 条 各科目の履修登録はその科目が配置されている学部の教務グループに履修申請を行い許可を受けなければならない。各学部・学科では適正なクラス授業を確保するため、履修人数の制限を置いている場合があり、副専攻履修者といえども優先して受講することはできない。受講に抽選などがある場合には、他の履修者と同様の選抜を受けるものとする。

(副専攻認定の申請)

第 9 条 副専攻の認定は、4年後期に副専攻認定申請期間を定め、認定申請を受け付ける。この申請を行ったものが副専攻認定の対象者となる。

(認 定)

第 1 0 条 副専攻認定は、申請のあった対象者について卒業判定の教授会で行う。副専攻の認定は、卒業要件を充足したもののみを対象とし、卒業要件を満たしていない者(中退者を含む)には認定しない。

(認定証明書)

第 1 1 条 副専攻を認定された学生に対し、学長は副専攻を履修したことを認定する旨の証明書を交付する。

(改 正)

第 1 2 条 本規程の改正は、教授会の議を経て、理事会が行う。

附 則

1. この規程は、平成23年4月1日から施行する(平成22年度入学者より適用する)。
2. 編入生の履修登録については、別途資格審査を行う。
3. この規程は、平成31年4月1日から施行する。

飛び級による早期卒業に関する規程

(趣旨)

第1条 本規程は、学則第24条第1項に基づき、また学校教育法の趣旨にのっとり、学生の多様な学習ニーズ、能力、適性に応じた教育を行い、その成果を適切に評価していく観点から、優秀な学生の個性や能力を早期に伸ばすために、専門分野での能力開発の機会を与え、将来有意と認められる学生のさらなる能力の向上に役立てていくことを目的とする。

(飛び級による早期卒業認定)

第2条 本学大学院外国語学研究科修士課程へ進学することを条件として、3年終了時に第3条に規定した要件を満たしている者は、飛び級による早期卒業を認めることができる。

(早期卒業の要件)

第3条 飛び級により3年間で卒業するには、次の各号に定める要件を全て満たしていなければならない。

1) 学則第24条第7項に定める単位の修得をしていなければならない。

本規程第5条により飛び級による早期卒業の可能性ありと判定された者は、上記学則の要件を満たすために、4年次配当の科目についても3年次での履修を可能とする。

2) 前項の修得単位は、外国語学部履修規程第3条により定められた履修登録単位数限度を守り適正な履修を行って成績評価を得ていなければならない。

3) 履修した授業科目の成績評価について、2年次の前期終了時および3年次の前期終了時の評価がともにGPA「3.0」以上であること。

4) 3年終了時まで「卒業論文」あるいは「卒業制作」を完成し、主査および副査による成績評価において「AA」の認定を受け、合格すること。

5) 本学大学院外国語学研究科修士課程の入学については大学院学則第25条による。

6) 本人が早期卒業を希望していること。

(飛び級による早期卒業制度の公表と履修指導)

第4条 飛び級による早期卒業制度については、本規程の他、学則、外国語学部履修規程、外国語学部履修要項等に掲載し全学生に公表する。また、教務委員会が行う学習指導ガイダンス等で詳細に説明し、グループ・アドバイザーによる学習相談・ゼミナール指導予定教授の学習相談および教務グループにおいても学生の相談に応じることとする。

(飛び級による早期卒業の申請)

第5条 飛び級による早期卒業を希望する者は、ゼミナール申し込み期間の締め切り日までに、所定の申請書に本人が自筆で必要事項を記入して、直前の成績証明書を添えて、外国語学部長に提出する。

2 外国語学部長は、前項の申し出を受けた場合には、教務委員長と協議して、飛び級による早期卒業の該当性について判定し、可能性がある場合には「可能性あり」、該当しない場合には「可能性なし」の通知を本人に対してすみやかに行う。

(卒業の認定)

第6条 第3条に規定する要件を全て満たした者は、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

2 本規程による卒業認定を受けた者が、本学大学院外国語学研究科修士課程に入学しない場合は、前項の卒業認定を取り消すことがある。

(飛び級による早期卒業者の公表と文部科学省への報告)

第7条 飛び級による早期卒業者があった場合は、学内で公示する。

2 飛び級による早期卒業制度の運用状況および早期卒業認定者については、毎年文部科学省高等教育局学務課へ報告する。

(改正)

第8条 本規程の改正は、教授会の議を経るものとする。

附 則

1. この規程は、平成19年10月1日から施行する。
2. この規程は、平成21年4月1日から施行する。
3. この規程は、平成23年12月1日から施行する。ただし、平成23年度においては、経過措置として、旧規程に該当する者も要件を満たすものとする。その場合、「優」は「A」と読み替えるものとする。
4. この規程は、平成26年4月1日から施行する。

文京学院大学卒業延期制度に関する規則

(目的)

第1条 4年次生で、卒業の要件を満たす者が、就職活動などの正当な理由により、引き続き在学することを希望する場合に、卒業を延期し、引き続き在学することを認めることを目的とする。

(対象者)

第2条 卒業延期制度の対象となる学生は、次の要件をすべて満たす者とする。

- (1) 本学学則（以下「学則」という。）第24条に規定する卒業の要件を満たすこと。
- (2) 引き続き在学することにより、在学期間が、学則第11条第2項に規定する年数を超えないこと。
- (3) 授業料等の納付金を滞納していないこと。

(在学の延長)

第3条 学生が、自己責任で、卒業延期制度の適用を希望するときは、各学部教授会は、在学の延長を許可することができる。

2 前項の在学を延長することのできる期間は、1年とする。ただし、卒業延期制度の適用を受けた者が引き続き当該制度の適用を希望する場合は、1回を限度に、再度、在学の延長を許可することができる。

(手続)

第4条 卒業延期制度の適用を希望する者は、本来卒業すべき年度（既に卒業延期制度の適用を受けている者にあつては、延長後の在学期間が終了する年度。以下同じ。）の2月末日までに卒業延期願を学部長に提出し、教授会の許可を受けなければならない。

2 前項により卒業の延期を許可された者（以下「卒業延期者」という。）に対しては、卒業延期許可通知を交付する。

3 卒業延期者が、事情変更により本来卒業すべき年度の終了日の卒業を希望する場合は、所定の期限までに卒業延期許可取消願を提出した場合に限り、当該終了日での卒業を認めるものとする。

4 卒業延期者が、延長期間に係る授業料等の納付金を所定の期限までに納入しなかった場合は、卒業延期の許可を取り消し、本来卒業すべき年度の終了日の卒業とする。

(授業科目の履修)

第5条 卒業延期者は、各学部の認める範囲内で授業科目を履修することができる。

(卒業の時期)

第6条 卒業延期者の卒業の時期は、延長後の在学期間が終了する年度の終了日とする。ただし、前期の終了日での卒業を希望する者に対しては、所定の手続によりこれを認めることができる。

(休学の取扱い)

第7条 卒業延期期間中は、休学を認めない。

(留学の取扱い)

第8条 卒業延期期間中は、本学の留学制度に基づく留学を認めることとする。

(納付金)

第9条 卒業延期者の授業料等の納付金は、授業料と施設費は所定の額の2分の1の金額、実習費、実験・実習費は全額免除とする。内定取消による卒業延期者については授業料と施設費について、さらに2分の1の金額を減免する。

(規則の改廃)

第10条 この規則の改廃は、教授会の議を経て理事会が決定するものとする。

附 則

この規則は、平成21年12月1日から施行する。



教員免許状の 取得について



教職課程について

1. 中学校・高等学校教員免許状の取得について

(1) 免許状の種類

中学校教諭一種免許状（英語）
高等学校教諭一種免許状（英語）

(2) 免許状の取得方法

学部等のそれぞれの授業に加えて、教員免許状取得のために設けられた課程を、教員免許法等にしたがって履修することで教員免許状を取得できます。授業の履修方法などについては、入学後に実施される「教職課程履修ガイダンス」で詳しく説明します。

なお、教員免許という資格の意義・重要性から、免許取得のための課程を受講するには、本学が掲げている「人間共生理念」を基礎として志願理由などが明確であることが望まれます。

2. 教職課程の履修要件について(中学・高校一種英語)

2019年度入学生より、教育職員免許法施行規則の改正（2017年11月）により、新法適用となります。履修要件が以下のように変わりましたので留意してください。特に2018年度以前の入学生と異なります。詳しくは文部科学省の「教育職員免許法施行規則及び免許状更新講習の一部を改正する公布について（通知）平成29年11月17日」を参照してください。

(1) 単位修得要件について

次の表は、標準の教員免許取得要件に対応した本学カリキュラム上の最低限修得すべき単位数を表しています。

免許状の種類		中学校免許状	高等学校免許状
教育職員免許法施行規則 第66条の6に定める科目	日本国憲法	2	
	体育	3	
	外国語コミュニケーション	2	
	情報機器の操作	2	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門事項（選択必修を含む。） 英語の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	33 ※(29+4)	41 ※(29+12)
教育の基礎的理解に関する科目	別表参照	11	11
道徳、総合的な学習の時間学習等の指導法 及び生徒指導、教育相談等に関する科目	別表参照	10	8
教育実習に関する科目	別表参照	7	5
※別表の「教科に関する専門事項」科目の必修は中高共に29単位とする。さらに「教科に関する専門事項」科目の選択必修科目は、中学校4単位以上、高等学校12単位以上の修得が必要。		70単位	74単位

(2) 本学の教職課程一覧

免許法施行規則第66条6に定める科目は、教職課程を履修する者に課せられ（必修）、なるべく1年次から計画を立て早めに履修してください。科目によっては、開講年次が指定されているので注意すること。

●必修

免許法施行規則に 定める科目区分	授 業 科 目	単 位		備 考	
		必修	選択		
六 免 許 法 施 行 規 則 に 定 め る 第 六 十 六 条 の 六 に 定 め る 科 目	日 本 国 憲 法	●	2	スポーツ・シーズンスポーツは いずれか1科目を 選択履修すること。	
	体 育	健康の科学	●		2
		スポーツ シーズンスポーツ			1 1
	外国語コミュニケーション	Communicative English I - a	●		2
	教理・データ活用及び人工知能に 関する科目又は情報機器の操作	情報処理演習 a	●		1
情報処理演習 b		●	1		

教職課程について

免許法施行規則に定める科目区分		授 業 科 目	単 位		備 考	
			必修	選択		
教科及び教科の指導法に関する科目	英 語 学	英語学 a	●	2	「教科及び教科の指導法に関する科目」から必修科目 26 単位および選択必修科目 4 単位、合計 29 単位を修得すること。	
		英語学 b	●	2		
	英 語 文 学	英語音声学・音韻論 a				2
		英語音声学・音韻論 b				2
	英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	英語史 a				2
		英語史 b				2
アメリカ文学 a		●	2	「アメリカ文化論 a」 「アメリカ文化論 b」 または 「イギリス文化論 a」 「イギリス文化論 b」 または 「American Government a」 「American Government b」 の組み合わせの、2 科目 4 単位は必修科目です。		
アメリカ文学 b		●	2			
イギリス文学 a	●	2				
イギリス文学 b	●	2				
異 文 化 理 解	Oral Communication I - a	●	1	★		
	Oral Communication I - b	●	1			
	Oral Communication II - a	●	1			
	Oral Communication II - b	●	1			
	Content-based English a	●	1			
	Screen English a				2	
Screen English b			2			
Conference English			2			
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に関する科目						
各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む)		英語科教育法 I	●	2	※「異文化理解」科目は包括的な内容を含んでいるためアメリカ・American の組み合わせを履修し追加履修をする科目については「イギリス文化論」とすること。	
		英語科教育法 II	●	2		
		英語科教育法 III	●	2		
		英語科教育法 IV	●	2		
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	●	2		
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む)	教職論(チーム学校への対応を含む。)	●	2		
	教育に関する社会的、制的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む)	教育行政学 (地域連携と学校安全を含む。)	●	2		
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	●	2		
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	●	1		
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む)	教育課程論	●	2		
指導法、総合的な学習の時間等の指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳教育の指導法	●	2		
	総合的な学習の時間の指導法	特別活動の指導法 (総合的な学習の時間を含む。)	●	2		
	特別活動の指導法					
	教育の方法及び技術(情報通信技術を活用した教育の理念及び方法)	教育の方法及び技術 (ICTの活用含む。)	●	2		
	生徒指導の理論及び方法	生徒指導論(進路指導を含む。)	●	2	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法を含む	
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む)の理論及び方法	教育相談(カウンセリングを含む。)	●	2		
進路指導及びキャリア教育の理論及び方法						
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習の指導	●	1		
		教育実習 I	●	2		
		教育実習 II	●	2		
	学校体験活動	学校インターンシップ	単位付与あり (体験条件があります)		別ページ参照	
	教職実践演習	教職実践演習(中・高)	●	2		
大学が独自に定める科目		最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、12 単位以上(高)修得すること。 〔(注 3) 中 4 単位以上を修得〕※「選択」(●の無い科目)と異文化理解の「各組合せ 1 つ以外の★」より履修する科目です)				

- 注 1) 「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」は卒業に必要な単位には含まれることはできない。
- 注 2) 「英語科教育法 I～IV」は 3～4 年次に開講されますが、この 3 科目については 1～2 年次の間に実用英語技能検定 2 級以上(高校 3 年次～大学 2 年次)の英語力、又は TOEIC(学内 IP 含む)で 550 点以上を取得した実績がなければ履修出来ません。実用英語技能検定準 1 級以上を取得した場合、1 年次から履修することができます。なお、この科目については I～IV の順で履修すること。
- 注 3) 「教育実習 II」は本学の教職課程履修においては「中免のみ・高免のみ取得」は原則認めていないため、必修科目の扱いとする。(大学が独自に定める科目も同様)

教員免許状の取得について

3. 履修モデルプラン

望ましい履修学年と具体的な履修カリキュラム【中・高 一種・英語】

左頁の「施行規則に定める科目区分」の表を見ながら確認

履修年次		教職に関する科目				具体的な科目名称					
年次	時期	免許法施行規則に定める科目区分	対象学年	科目名称	望ましい学年	教科及び教科の指導法に関する科目【必修】	望ましい学年	教科に関する専門的事項【大学が独自に定める科目】 【大抵必修科目あり】	望ましい学年	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
1年次	前期	教育の基礎的理解に関する科目	1年	教育原理	2年	【重要】※この学年で履修可能な「教科に関する科目（教職科目としての）」は非常に少ない為、卒業要件である単位の積み上げを限りつつ、『免許法施行規則第66条の6に定める科目』『教職に関する科目』を全て履修して下さい。次年度以降に持ち越しを考えない事を前提で臨むこと。又、1年次に履修可能な「大学が独自に定める科目」で履修可能な科目は出来る限りこの年次に履修しておいてください。上位学年進級毎に有利となります。	2年	Screen English a	1～2年	日本国憲法	学校インターンシップ 体験予定者は教職課程センターで話を聞き、過去に体験した先輩よりアドバイスを受けることを推奨します。 (2年次より受付開始)
		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	1～2年	特別活動の指導法(総合的な学習の時間を含む。)					1年	健康の科学	
1年次	後期	教育の基礎的理解に関する科目	1～2年	教職論(チーム学校への対応を含む。)	2年	【重要】※この学年で履修可能な「教科に関する科目（教職科目としての）」は非常に少ない為、卒業要件である単位の積み上げを限りつつ、『免許法施行規則第66条の6に定める科目』『教職に関する科目』を全て履修して下さい。次年度以降に持ち越しを考えない事を前提で臨むこと。又、1年次に履修可能な「大学が独自に定める科目」で履修可能な科目は出来る限りこの年次に履修しておいてください。上位学年進級毎に有利となります。	2年	Screen English a	1年	Communicative English 1-a	学校インターンシップ 体験予定者は教職課程センターで話を聞き、過去に体験した先輩よりアドバイスを受けることを推奨します。 (2年次より受付開始)
		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	1～2年	教育心理学					1～4年	スポーツ/シズネススポーツ	
2年次	前期	教育の基礎的理解に関する科目	1～2年	教育観論	2年	●英語a	2年	★アメリカ文化論a	2年	★アメリカ文化論a	学校インターンシップ 体験【体験資格は英検2級またはTOEIC500点以上】 ※推薦年次ですが、この学年での「教科及び教科の指導法に関する科目」と「大学が独自に定める科目(※頭に記号のない科目)」の最大数履修が今後の進捗における重要ポイントとなっておりますので、履修科目登録後で特設項目に空白がある等の確定的なスケジュールのし、計画・相談してください。(★英文化理解科目は最低2科目4単位以上が必修扱いです。履修方法に制約があるので、左頁を要確認)
		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	1～2年	教育観論	2年	●イギリス文学a	2年	★イギリス文化論a			
2年次	後期	教育の基礎的理解に関する科目	1～2年	教育行数学	2年	●英語b	2年	Screen English b	2年	★American Government b	学校インターンシップ 体験【体験資格は英検2級またはTOEIC500点以上】 ※推薦年次ですが、この学年での「教科及び教科の指導法に関する科目」と「大学が独自に定める科目(※頭に記号のない科目)」の最大数履修が今後の進捗における重要ポイントとなっておりますので、履修科目登録後で特設項目に空白がある等の確定的なスケジュールのし、計画・相談してください。(★英文化理解科目は最低2科目4単位以上が必修扱いです。履修方法に制約があるので、左頁を要確認)
		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	2～3年	教育の方法及び技術(ICTの活用含む。)	2年	●イギリス文学b	2年	★American Government b			
3年次	前期	教科及び教科の指導法に関する科目	3年	英語科教育法Ⅰ	3年	●Content-based English a	3年	英語史a	3年	★アメリカ文化論b	学校インターンシップ 体験【体験資格は英検2級またはTOEIC500点以上】 ※推薦年次ですが、この学年での「教科及び教科の指導法に関する科目」と「大学が独自に定める科目(※頭に記号のない科目)」の最大数履修が今後の進捗における重要ポイントとなっておりますので、履修科目登録後で特設項目に空白がある等の確定的なスケジュールのし、計画・相談してください。(★英文化理解科目は最低2科目4単位以上が必修扱いです。履修方法に制約があるので、左頁を要確認)
		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	3年	道徳教育の指導法	3年	●アメリカ文学b	3年	英語史b			
3年次	後期	教科及び教科の指導法に関する科目	3年	英語科教育法Ⅱ	3年	●Oral Communication I -b	3年	英語史a・音韻論a	3年	★アメリカ文化論b	学校インターンシップ 体験【体験資格は英検2級またはTOEIC500点以上】 ※推薦年次ですが、この学年での「教科及び教科の指導法に関する科目」と「大学が独自に定める科目(※頭に記号のない科目)」の最大数履修が今後の進捗における重要ポイントとなっておりますので、履修科目登録後で特設項目に空白がある等の確定的なスケジュールのし、計画・相談してください。(★英文化理解科目は最低2科目4単位以上が必修扱いです。履修方法に制約があるので、左頁を要確認)
		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	3年	英語科教育法Ⅱ	3年	●Oral Communication I -b	3年	英語史a・音韻論a			
4年次	前期	教科及び教科の指導法に関する科目	4年	英語科教育法Ⅳ	4年	●Oral Communication II -a	4年	英語史a・音韻論a	4年	★アメリカ文化論b	学校インターンシップ 体験【体験資格は英検2級またはTOEIC500点以上】 ※推薦年次ですが、この学年での「教科及び教科の指導法に関する科目」と「大学が独自に定める科目(※頭に記号のない科目)」の最大数履修が今後の進捗における重要ポイントとなっておりますので、履修科目登録後で特設項目に空白がある等の確定的なスケジュールのし、計画・相談してください。(★英文化理解科目は最低2科目4単位以上が必修扱いです。履修方法に制約があるので、左頁を要確認)
		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	4年	道徳教育の指導法	4年	●アメリカ文学b	4年	英語史b			
4年次	後期	教科及び教科の指導法に関する科目	4年	英語科教育法Ⅲ	4年	●Oral Communication II -b	4年	英語史a・音韻論a	4年	★アメリカ文化論b	学校インターンシップ 体験【体験資格は英検2級またはTOEIC500点以上】 ※推薦年次ですが、この学年での「教科及び教科の指導法に関する科目」と「大学が独自に定める科目(※頭に記号のない科目)」の最大数履修が今後の進捗における重要ポイントとなっておりますので、履修科目登録後で特設項目に空白がある等の確定的なスケジュールのし、計画・相談してください。(★英文化理解科目は最低2科目4単位以上が必修扱いです。履修方法に制約があるので、左頁を要確認)
		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	4年	道徳教育の指導法	4年	●アメリカ文学b	4年	英語史b			

※○～○年と表記されている科目ですが、履修を早めにしておくことで、多忙になる3～4年次の負担を大幅に減らすことが出来ます。

■注意

- 教科及び教科の指導法に関する科目【必修】は特段の理由無き場合、必ず履修対象年度に履修する事！最終学年履修で成績がF等（不可等）になりますと免許状の申請が出来ません。
- カリキュラム配当はカリキュラム表で必ず確認して下さい。この表の設定学年はあくまでも目安です。バッティング等で履修登録不可の科目は次年度取得を計画し、3年次までに学年設定のある必修科目以外の教職履修科目を満たしておくようにしておいてください。最低2～4単位多く取得しておけば不測の事態に備えられます。(履修学年を指定されている科目もありますので注意) 2年次までに設定されている科目は、2年次までに履修することを勧めます。
- 英語の教員免許取得に必要な必修科目（英語科教育法Ⅰ）（3年前期）、「英語科教育法Ⅱ・Ⅲ」（3年後期）の順でしか履修できません。さらに、4年次の教育実習を予定している学生は、「英語科教育法Ⅳ」（4年前期）が実習時に必ず必要となります。各科目の内容はシラバスを参照すること。
- 「教育相談」は、「教育心理学」を履修してから履修となります。

教職を目指す方へ（4年間のスケジュール）

1年次		費用
4月～	履修モデルプランを参考に4年間の履修計画を立てます。 教員免許取得費用は4年間かかっても、5年かかっても総額は変わりません。 総額79,500円です。 →指定の期日に従って、教務グループの自販機より証書を買求め添付し、教職課程センターに提出します。 →コンピュータの設定で教職科目の履修が入力できるようになります。入金が無い場合は教職科目の単位取得認定は行われません。（毎年4月に支払）	13,000円
2年次		費用
5月～2月	TOEIC550点を超えること、英検準一級を取得することを最重点目標にして下さい。 →『履修要項』は入学年度で異なります、必ず4年間保管して下さい。また、科目の学年配置は大きく変わりませんが変更の可能性もあるので注意しておくこと。 →学校インターンシップを是非体験して下さい。60時間の体験により2単位付与されます（TOEIC500点または英検2級程度の英語力が必要）。	13,000円
2月～3月	2月初旬に学校インターンシップ報告会開催。体験者は全員報告します。 →2年次末までにTOEIC550点を超えることを最重点目標にして下さい。550点を超えないと、3年次の「英語科教育法Ⅰ」（前期）・「英語科教育法Ⅱ」（後期）・「英語科教育法Ⅲ」（後期）が履修できません。Ⅰ→Ⅱの順でしか受講できません。 →TOEIC550点以上ないし英検2級以上の取得証明書を教職課程センターに提出のこと。介護等体験が義務づけられています。原則、希望日や場所は選べません。前期・後期試験のみ外せます。これを体験しておかないと教員免許は取得できません。この日程は最優先です。介護等体験証明書費用（5日分）は教職課程センターよりまとめて払い込みます。	
3年次		費用
4月～	卒業要件を考え教職科目の履修登録を忘れず、卒業単位を計算し計画的に履修すること。4年次の教育実習のため一年前の4月～5月に母校訪問で教育実習依頼をし、内諾書をお願いします。母校で教育実習が出来ないとき、東京都教育委員会を通して紹介してもらいます（9月）。ただし、地域や学校等は選べません。	13,000円
5月から2月	介護等体験が受講可能です。3年で受講すること。7日間は義務づけられています。実施時期や地域の希望は出せません。次年度7月にある東京・千葉・埼玉の試験に向けて教職課程センターでは後期より対策講座をスタートします。教職教養・教科の受験対策学習をスタートさせて下さい。	介護等体験費用 実費 (中免許取得のみ)
4年次		費用
4月～	卒業単位および教員免許取得に必要な科目・単位数をしっかりと確認し、履修登録をする。 →「教育職員免許状一括申請手続き希望書」と住民票を教職課程センターに提出。教育実習先の打合せは4月に行われます。教育実習3週間。採用試験の申込み →東京・埼玉・千葉の採用試験の申込みは4月からスタートします。	40,500円 教育実習等含む
7月～8月	東京・埼玉・千葉の採用試験実施（7月末）。私立学校協会採用試験（8月末）。2次試験（個人面接・集団面接は8月）	
10月～	公立学校採用試験結果発表	
12月～	免許状一括申請手続き開始（必修科目が取得できていないと大学からの一括申請は申請できません） →「宣誓書」の提出	
1月	卒論〆切	
3月	学位記授与式の時に教員免許状授与（卒業認定がもらえないと失格者として教員免許状返納）	

※科目等履修生は個別の相談に応じます

総額79,500円
(介護体験費用は含まず)

4. 教職課程履修手続

(1) 教職課程

教職課程は1年次から履修（登録）できます。ただし、2～3年次から新規に履修を希望する場合は、事前に教職課程センターまで申し出てください。

(2) ガイダンス

教職課程を履修しようとする場合は、年度初めに行われる「教職課程履修ガイダンス」に必ず出席してください。このガイダンスに出席しないと、原則として履修は認められません。

(3) 履修届

定められた期間内に所定の教職課程履修届を提出しなければなりません。この履修届は、年度の初めの1回のみとし、原則として後期の受け付けはしていません。したがって、履修を希望する場合は、4年間の履修計画をたてて、全ての届出を年度初めに行ってください。

教職課程履修費

教職課程を履修するためには、各年次に以下の納入金額を教職課程履修費として納入しなければなりません。（納入方法・納入時期及び期限は掲示で確認してください）

また、教職課程履修費を納入しないと教職科目の履修ができないように「B's Link」システムが組みられています。期日までに納入できない場合、「教職履修費延納願」を提出のこと。

1年次から履修の場合

納入年次	納入金額	納入期限
1年次	13,000円	1年次の4月末まで
2年次	13,000円	2年次の4月末まで
3年次	13,000円	3年次の4月末まで
4年次	40,500円	4年次の4月末まで

2年次から履修の場合

納入年次	納入金額		納入期限
	継続履修者	新規履修者	
2年次	13,000円	26,000円	2年次の4月末まで
3年次	13,000円	13,000円	3年次の4月末まで
4年次	40,500円	40,500円	4年次の4月末まで

※納入場所：教職課程センター

※納入方法：納入書に本年度に納入する金額分の証紙（教務グループ前の証紙発行機にて購入）を貼付して提出してください。なお、現金は一切扱いません。

履修上の諸注意

文京学院大学外国語学部英語コミュニケーション学科の教職課程履修上の注意すべき点を説明します。教職課程科目以外の留意事項も十分に理解し教職課程科目履修に臨んでください。

(1) 教職科目の履修登録について

本学部学科の通常科目（教職科目以外）とともに履修登録を提出してください。また、教職課程履修の受け付けは原則として年度当初のみです。したがって、それまでによく検討し、十分な履修計画をたてておくことが望まれます。本学では、中学校と高等学校の免許の同時取得が原則です。

(2) 卒業単位に関して

「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実習に関する科目」「各教科の指導法」（※「本学の教職課程一覧」p.120の表、『免許法施行規則に定める科目区分』参照）の修得単位は、**卒業するために必要な単位には加算されません**ので、注意してください。

(3) 教員免許取得に当たり文部科学省は法令上の最低取得単位数を設定していますが、各大学で独自にプラスの単位数設定が認められている為、本学の定めた単位数を取得しないと、卒業年度に行う教員免許状一括申請（東京都教育委員会）において免許が交付されません。本学の修得すべき単位数はp.119の表となります。但し、卒業後に各個人で当該の（住民登録のある都道府県）教育委員会において免許申請を行う場合は、この定めではありません。

5. 教育実習

(1) 教育実習の実施

教職課程履修者で諸条件を満たした場合は、3年次に「教育実習の指導」、4年次に「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」を履修することになります。これらの科目は教育職員免許状を取得するための必修科目であり、中学校および高等学校の免許状の同時取得のためには計5単位が必要です。実習校は原則的には履修者各人の母校の中学・高等学校へ1年前の4月に依頼します。

(2) 教育実習のための必須条件について

① 必要な履修科目

「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」の履修については、前年度までに「英語科教育法Ⅰ」「英語科教育法Ⅱ」「英語科教育法Ⅲ」「教育原理」「教職論（チーム学校への対応を含む。）」「教育行政学（地域連携と学校安全を含む。）」「教育心理学」「特別支援教育」「教育課程論」「道德教育の指導法」「特別活動の指導法（総合的な学習の時間を含む。）」「教育の方法及び技術（ICTの活用含む。）」を修得しておかなければなりません。

なお「英語科教育法Ⅰ」「英語科教育法Ⅱ」「英語科教育法Ⅲ」は3年次に開講されますが、この3科目については、1・2年次の間にTOEIC(学内IP含む)で550点以上ないし英検2級以上を取得した実績がなければ履修できません。また、英検準1級以上を取得した場合、1年次から履修することができます。「英語科教育法Ⅰ」「英語科教育法Ⅱ」「英語科教育法Ⅲ」の順で履修すること。なお、3年次編入学生は編入学以前の受験結果を適用することができます。

3年次に留学予定者は、1年次終了までに英検準1級以上を取得し、教職課程委員会の面接を受け、許可されたことを条件として2年次の履修が認められます。

② 卒業単位との関連

本学部学科を卒業するために必要な単位のうち、100単位以上を3年次終了時まで修得していなければなりません。「卒業するために必要な単位」ですので、前掲の「履修上の諸注意」(2)のとおりとなりますので、十分注意してください。

6. 学校インターンシップ

外国語学部では、正規の授業科目として「学校インターンシップ」を実施しています。自立と共生の人間教育を基本理念として理論と実践の両面から、学生の教職への職業意識、判断力、創造力、行動力を養い、そして社会貢献のできる人材を育成する教育の一環として学校インターンシップを実施しています。

目的

- (1) 中・高等学校の生徒との様々な方法・手段によるふれあいを通じて、自分自身よりも年少である小グループの中で、本人の役割を認識させ、社会人としての自覚を促す機会とする。
- (2) 英語科の教員になるために大学で学習したこと、理解したことを実際の教育現場で確認し、今後の学ぶ方向性を見出す。
- (3) 実習体験を通じ、教室の授業や演習では十分に把握できない自己の教員としての職業適性を把握し、職業意識を涵養する。

概要

学校教育法または並びに社会教育法に定められている機関及び委員会がその実習に適切であると認定した機関等のご協力を得て下記の通り実施します。

- (1) 開設学年：2年～4年まで共通開講
- (2) 時期・期間：集中講義方式
- (3) 履修資格：英検2級以上またはTOEIC500点以上の英語力が必要
- (4) 履修方法：原則として、毎年4月に行うオリエンテーションの「学校インターンシップガイド」に必ず参加し、その後担当教員との面談を通して適性を判断した後、「学校インターンシップ申込書」により登録をする。「学校インターンシップ」科目履修届け出は、別途教務グループより登録者に連絡する。
- (5) 実習校については教職課程センターで斡旋します。また、実習期間中の経費については自己負担となります。
- (6) 担当教員：教職課程委員会
- (7) 事務窓口：教職課程センター

単位の認定

下記の条件を満たした者を委員会が審査し、十分に学習効果を上げたと判定することのできる者に対して、「英語教育コース」専門科目（両専攻共通科目）「学校インターンシップ」（2単位）の単位を認定する。なお、学校インターンシップに複数回参加することも可能ですが、2回目以降は、単位は修得できません。

単位修得の条件

- (1) 事前指導への出席
- (2) 誓約書と計画書の提出
- (3) 学生教育研究賠償責任保険への加入
- (4) 実習日誌並びに実習報告書の提出及び月1回の担当教員との面談
- (5) 「学校インターンシップ報告会」への出席義務
- (6) 実習実働日数
 - ①毎日継続する場合：2週間（10日、60時間）以上
 - ②継続的な場合：通算して実働60時間以上

7. 介護等体験

特別支援学校及び社会福祉施設等での「介護等体験」を行う必要があります。「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」が、平成10年4月1日から施行されたため、次の要件が追加されました。

- (1) 小学校及び中学校の教諭の普通免許状の取得には、省令が定める盲・聾・養護学校又は、社会福祉施設等での「介護等体験」が義務づけられることとなり、免許状を申請するにあたっては、「介護等体験」を実施した施設の長が発行する「証明書」を提出しなければなりません（ただし、高等学校教諭の免許状の申請には必要はありません）。

(2) 「介護等体験」の期間は7日間(内訳:東京都立特別支援学校2日間、社会福祉施設等5日間)です。
 ※なお、本学における「介護等の体験」の体験開始年次は3年次からとします。

体験実施者の募集・費用等詳細はガイダンス・掲示等で連絡します。

なお、介護等体験(詳細後述)を実施する年次(3年次または4年次)の履修費は、上記納入金額に別途加算された額となります。

8. 教職履修カルテ

教職課程を履修する皆さんは、教育職員免許法施行規則改正に伴い、2010年度新入生より、教職課程履修1年目より「教職履修カルテ」の作成が義務づけられました。「教職履修カルテ」は、教職課程履修1年目から教員免許取得までの、一人一人の学習状況をきめ細かく把握するために学生本人が作成します。

「教職履修カルテ」に記載する内容は、「1. 教職に関する科目の履修状況」、「2. 教育実習等の実習の実施状況」、「3. 自己評価シート」、「4. 教職を目指す上で課題と考えている事項(本人)」、「5. 面談記録(担当教員用)」により、構成されています。

4年次後期に担当されている「教職実践演習」を履修するためには、「教育実習」の単位を修得済み、もしくは履修中である必要があります。また、「教職履修カルテ」を作成しておくことが必須です。

9. 他学部・他大学からの転・編入学に関する注意

転学部、編入学生が取得できる免許状は、本学部学科の教職課程に定められている通り、中学校および高等学校の教諭一種免許状(英語)となります。

転学部、編入学等の場合それ以前に修得した科目が教職免許状取得のための単位として使用できるかどうか、在籍していた学部学科等の「学力」に関する証明書、成績証明書およびシラバス等により、本学部学科教務委員会が判断します。以下の必要書類を必ず提出してください。

(1) 本学出身者の場合(転学部)

転学部後の免許状取得に必要な科目・単位についての判定は、それ以前の成績証明書を精査することによって可能となるため、**前所属学部で修得した成績の証明書を提出してください。**

(2) 他大学等出身者の場合(編入学)

前所属大学等の学部学科が、教職課程の認定を受けているかどうかにより、取り扱いが異なります。

① 認定を受けている場合

教職課程履修に関する**単位修得証明書と成績証明書**を前大学学部学科から取り寄せ、提出してください。その証明書に基づき、本学部学科で修得しなければならない科目、単位数を判断します。

② 認定を受けていない場合

前大学学部学科での成績証明書・シラバスを提出してください。その証明書に基づき、本学部学科での免許状取得に必要な科目、単位数を判断します。

③ 教職課程履修者については相談が必要です。

④ 履修状況によっては、卒業までに3年以上必要になることがあります。

10. 教職への道を歩む卒業生へのお願い

学位授与式（卒業式）以降に臨採や非常勤講師として教職への道を歩まれた場合、あるいは、各都道府県の採用試験の結果等については、お手数ですが、必ず本学教職課程センターにご連絡ください。

11. 教職についての問い合わせ全般

S館4階に「教職課程センター」があり、教職全般の質問・問い合わせ窓口となっております。教職履修に向けての情報が掲載されていますので、必ず確認してください。

教職課程センター 直通03-5684-4899